

文学科日本語日本文学専攻

【教養科目】		日本文法論	53
(人文)		日本語学講義	54
日本の歴史	1	日本語学講読Ⅰ	54
こころの科学	2	日本語学講読Ⅱ	55
芸術論	2	日本語学演習Ⅰ	55
かごしまカレッジ教育	3	日本語学演習Ⅱ	56
(社会)		日本語学演習Ⅲ	55
日本国憲法	3	日本語学演習Ⅳ	56
法学概論	4	日本語表現法	57
社会学	4	日本語表現法演習	57
キャリアデザイン	5	対照言語学	58
(自然)		(日本文学「古典」科目群)	
数学の世界	5	日本文学講義Ⅰ	58
物理の世界	6	日本文学講読Ⅰ	59
生物の科学	6	日本文学講読Ⅱ	59
化学の世界	7	日本文学講読Ⅲ	60
食生活と健康	7	日本文学講読Ⅳ	60
(総合)		日本文学演習Ⅰ	61
平和論	8	日本文学演習Ⅱ	61
環境問題	8	日本文学演習Ⅲ	61
かごしま教養プログラム	9	(日本文学「近代」科目群)	
かごしまフィールドスクール	9	日本文学史・近代Ⅰ	62
社会活動	10	日本文学史・近代Ⅱ	62
企業研修	10	日本文学講義Ⅱ	63
(外国語科目)		日本文学講読Ⅴ	63
英語Ⅰ(A)	11~12	日本文学講読Ⅵ	64
英語Ⅰ(A)	11~12	日本文学講読Ⅶ	64
英語Ⅰ(A)	11~12	日本文学講読Ⅷ	65
英語Ⅰ(A)	11~12	日本文学講読Ⅸ	65
英語Ⅱ(A)	16~17	日本文学演習Ⅳ	66
英語Ⅱ(A)	16~17	日本文学演習Ⅴ	66
英語Ⅱ(A)	16~17	日本文学演習Ⅵ	66
英語Ⅱ(D)	16~17	(地域文学・中国文学科目群)	
英語Ⅲ(D)	22	南九州の文学Ⅱ	67
英語Ⅲ(E)	23	中国文学史Ⅰ	68
英語Ⅲ(F)	23	中国文学史Ⅱ	68
英語Ⅲ(G)	24	中国文学講読Ⅰ	69
英語Ⅲ(H)	24	中国文学講読Ⅱ	69
英語Ⅳ(A)	25	中国文学演習Ⅰ	70
英語Ⅳ(B)	25	中国文学演習Ⅱ	70
英語Ⅳ(F)	27	中国文学演習Ⅲ	70
英語Ⅳ(G)	28	(卒業研究)	
異文化コミュニケーション(英語)	29	卒業研究Ⅰ	71
異文化コミュニケーション(中国語)	29	卒業研究Ⅱ	71
中国語Ⅰ(A)	32	(関連科目群)	
中国語Ⅰ(B)	32	英文学史	71
中国語Ⅰ(H)	35	米文学史	72
中国語Ⅱ(A)	36	比較文化	72
中国語Ⅱ(B)	36	書道Ⅰ	73
中国語Ⅱ(H)	39	書道Ⅱ	73
中国語Ⅲ	40	書道Ⅲ	74
中国語Ⅳ	40	書道Ⅳ	74
(スポーツ・健康科目)		【教職に関する科目】	
スポーツ・健康論	41	教職入門	227
生涯スポーツ実習Ⅰ(A)	41	教育原理	227
生涯スポーツ実習Ⅱ(A)	43	教育心理学	228
(情報科目)		教育行政学概論	228
情報リテラシーⅠ(A)	45	教育課程論	229
情報リテラシーⅡ(A)	48	国語科教育法	229
【専門科目】		道徳教育の研究	231
(専門基礎科目群)		特別活動の研究	232
日本文学概論	51	教育方法学概論	233
言語学概論	51	教育相談	233
(日本語学科目群)		生徒指導論	234
日本語学概論	52	教職実践演習	235
日本語教育概論	52	教育実習	237
日本語史	53		

文学科英語英文学専攻

【教養科目】

(人文)

日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
かごしまカレッジ教育	3

(社会)

日本国憲法	3
法学概論	4
社会学	4
キャリアデザイン	5

(自然)

数学の世界	5
物理の世界	6
生物の科学	6
化学の世界	7
食生活と健康	7

(総合)

平和論	8
環境問題	8
かごしま教養プログラム	9
かごしまフィールドスクール	9
社会活動	10
企業研修	10

(外国語科目)

英語Ⅲ (A)	21
英語Ⅲ (B)	21
英語Ⅲ (C)	22
英語Ⅲ (D)	22
英語Ⅲ (E)	23
英語Ⅲ (F)	23
英語Ⅲ (G)	24
英語Ⅲ (H)	24
英語Ⅳ (A)	25
英語Ⅳ (B)	25
英語Ⅳ (C)	26
英語Ⅳ (D)	26
英語Ⅳ (E)	27
英語Ⅳ (F)	27
英語Ⅳ (G)	28
異文化コミュニケーション (英語)	29
異文化コミュニケーション (中国語)	29
ドイツ語Ⅰ	30
ドイツ語Ⅱ	30
フランス語Ⅰ	31
フランス語Ⅱ	31
中国語Ⅰ (B)	32
中国語Ⅰ (H)	35
中国語Ⅱ (B)	36
中国語Ⅱ (H)	39
中国語Ⅲ	40
中国語Ⅳ	40

(スポーツ・健康科目)

スポーツ・健康論	41
生涯スポーツ実習Ⅰ (B)	41
生涯スポーツ実習Ⅱ (B)	43

(情報科目)

情報リテラシーⅠ (B)	45
情報リテラシーⅡ (B)	48

【専門科目】

(専門基礎科目群)

スタディスキルズ	75
言語学概論	75

(コミュニケーション科目群)

オーラルコミュニケーションⅠ	76～77
オーラルコミュニケーションⅡ	77～78

オーラルコミュニケーションⅢ	79～80
オーラルコミュニケーションⅣ	80～81
LL演習Ⅰ	81
LL演習Ⅱ	82
LL演習Ⅲ	82
コミュニケーション概論	83
ビジネス英語	83
通訳入門	84

(英語学科目群)

英語学概論	84
英文法	85
英語史	85
英語音声学	86
英語表現法Ⅰ	86～87
英語表現法Ⅱ	87～88
英語表現法Ⅲ	88～89
英語学演習Ⅰ	89～90
英語学演習Ⅱ	90～91

(英米文学科目群)

英文学概論	91
英文学史	92
米文学史	92
英米文学講読Ⅰ	93
英米文学講読Ⅱ	93
英米文学講読Ⅲ	94
英米文学講読Ⅳ	94
英語講読	95
英米文学演習Ⅰ	95～96
英米文学演習Ⅱ	96～97

(比較文化科目群)

比較文学	97
比較文化	98
比較文化講読	98
イギリス事情	99
アメリカ事情	99
ヨーロッパ事情	100
比較文化演習Ⅰ	100
比較文化演習Ⅱ	101

(関連科目群)

日本語学概論	101
日本語教育概論	102
対照言語学	102
日本文学史Ⅰ	103
日本文学史Ⅱ	103
英文文書処理	104
国際関係論	104
国際経済論	105

(卒業研究)

卒業研究	105～107
------	---------

【教職に関する科目】

教職入門	227
教育原理	227
教育心理学	228
教育行政学概論	228
教育課程論	229
英語科教育法	230
道徳教育の研究	231
特別活動の研究	232
教育方法学概論	233
教育相談	233
生徒指導論	234
教職実践演習	235
教育実習	237

1 教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	文学の世界	担当者	木戸 裕子・轟 義昭・岩本 晃代・土肥 克己・中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 旅と文学</p> <p>【概要】 日頃本をあまり読まないで、「文学」なんて自分の生活とは無関係だと思いませんか。また、「文学」には興味はあるけれど、なんだか難しそうだと思いませんか。そのような皆さんに少しでも「文学」に親しんでもらおうと、担当教員5名は、「旅と文学」をキーワードにして、日本、イギリス、中国、ギリシア、ローマの文学作品を読み解きます。</p> <p>【到達目標】 日本、イギリス、中国、ギリシア、ローマの文学作品を読み解き、「文学」に親しみをもってもらおう。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし。適宜、プリントを配布します。</p> <p>(2) 各教員が必要に応じて教室で指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、旅の苦しみ、旅の楽しみ：『万葉集』の中の旅</p> <p>第2回 一人旅、二人旅、家族の旅：『源氏物語』『更級日記』『赤染衛門集』</p> <p>第3回 お江戸の旅、薩摩の旅：『垂邑詩集(すいゆうししゅう)』</p> <p>第4回 旅にまつわる中世イギリス文学作品：『カンタベリー物語』と『マンデヴィル旅行記』</p> <p>第5回 旅にまつわる18～19世紀イギリス文学作品：『ガリバー旅行記』と『タイムマシン』</p> <p>第6回 旅にまつわる詩1：西脇順三郎の詩</p> <p>第7回 旅にまつわる詩2：丸山薫の詩</p> <p>第8回 旅にまつわる詩3：新川和江の詩</p> <p>第9回 中国文学における「旅と文学」(1)</p> <p>第10回 中国文学における「旅と文学」(2)</p> <p>第11回 中国文学における「旅と文学」(3)</p> <p>第12回 放浪するギリシア・ローマの英雄たち：『オデュッセイア』と『アエネイス』</p> <p>第13回 放浪する地中海世界の恋人たち：古代ギリシア恋愛小説の世界</p> <p>第14回 ビカレスク小説・空想旅行譚の先駆け：『サテュリカ』、『黄金の驢馬』、『本当の話』</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	レポートの提出(75点)および講義に関する毎回の感想・意見等(25点)で評価します。レポートは5名が課したのものから3つを選ぶかたちになります。		

(注) 文学科を除く

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	日本の歴史	担当者	下原 美保
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本の文化—特に美術—について、トピックスごとに紹介する。</p> <p>【概要】 日本美術の特徴について、I 絵画(物語絵と絵巻・仏画・詩画軸と水墨画・狩野派・土佐派・浮世絵)・II 仏像(仏様の世界・藤原時代までの仏像・鎌倉時代の仏像)・III 暮らしと美術(茶の湯と美術・薩摩焼)の3点から紹介する。講義では、教科書とともにスライドやビデオなどを用い、具体的な作品鑑賞を行う。この際、作品の見方や考え方についても解説を行う。</p> <p>【到達目標】 日本文化—絵画・彫刻(仏像)・工芸—の特徴及び鑑賞のポイントを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『すぐわかる日本の美術』(田中日佐夫監修 東京美術 平成11年)</p> <p>(2) 『日本美術のこぼれ案内』(日高薫 小学館 2003年)</p> <p>『日本のやきもの 薩摩』(渡辺芳郎 淡交社 2003年)</p> <p>『新潮世界美術辞典』(新潮社 昭和60年1月)</p>		
授業スケジュール	<p>■ 授業スケジュール</p> <p>第1回 ：オリエンテーリング</p> <p>第2回～第9回 ：I 絵画について 1) 物語絵と絵巻 2) 仏画 3) 詩画軸と水墨画 4) 狩野派土佐派 5) 浮世絵</p> <p>第10回～第12回 ：II 仏像について 1) 仏様の世界 2) 藤原時代までの仏像 3) 鎌倉時代の仏像</p> <p>第13回～第14回 ：III 暮らしと美術 1) 茶の湯と美術 2) 薩摩焼</p> <p>第15回 ：まとめ</p>		
成績評価の方法	講義ごとの感想文(40%)及びレポート(60%)		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	こころの科学	担当者	石川 満佐育
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「科学としての心理学」について、学生の自己理解、他者理解に役立つような知識、研究例を紹介するとともに、その研究方法を学ぶ。</p> <p>【概要】心理学領域のうち、社会心理学、カウンセリング心理学、青年心理学のトピックスを取り上げながら進めていく。また、心理学的研究の理解を深めるために、実際に質問紙調査、実験等を体験してもらい実習も取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 心理学という学問領域の多様性について理解し、心理学的なものの方・考え方を養うことを目標とする。 ② 自己理解・他者理解を深めるための知識を習得することを目標とする。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：心理学とは？</p> <p>第2回 心理学の基礎知識</p> <p>第3回 心理学の対象と研究方法</p> <p>第4回 社会心理学①：自己開示と自己呈示</p> <p>第5回 社会心理学②：対人認知</p> <p>第6回 社会心理学③：集団の影響</p> <p>第7回 社会心理学④：人とのつき合い方</p> <p>第8回 カウンセリング心理学①：カウンセリングとは？</p> <p>第9回 カウンセリング心理学②：自己理解のためのカウンセリング</p> <p>第10回 カウンセリング心理学③：ストレスへの対処</p> <p>第11回 カウンセリング心理学④：支援が必要な人たち</p> <p>第12回 青年心理学①：青年期の特徴</p> <p>第13回 青年心理学②：青年期の対人関係</p> <p>第14回 青年心理学③：進路選択・現代社会の中での自分</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	感想・質問などのミニレポート提出：40%、試験あるいはレポートで評価：60%		

(注) 受講希望数が上限を超える場合は、履修年次を考慮した上で受講制限を行う場合がある。

授業科目	芸術論	担当者	丸山 容爾
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】普段、鑑賞することの少ない芸術作品に触れ、芸術を味わう楽しさを経験する。</p> <p>【概要】映像表現された作品を中心に、一般的に馴染み深い作品（デザインのジャンルも含めて）を引用し、様々な視点からその芸術性を探っていく。</p> <p>【到達目標】何気なく眺めていた芸術作品の美しさを再認識し、モノを観る真の目を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント配布。テキストは使用しない。</p> <p>(2) 参考文献は、講義中に適時示す。講義中、PowerPoint・DVDを活用する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」 講義方式の説明と資料配布</p> <p>第2回 「日本の伝統芸能・歌舞伎 立役」 歌舞伎の魅力と小道具</p> <p>第3回 「日本の伝統芸能・歌舞伎 女形」</p> <p>第4回 「ショートフィルム」 世界のショートフィルム</p> <p>第5回 「錯視」 古典的錯視作品、身の周りの錯視・だまし絵</p> <p>第6回 「舞妓」 京都舞妓の衣装・髪型・小物・芸・歴史</p> <p>第7回 「アール・ヌーヴォーとアール・デコ」 その流行と時代背景</p> <p>第8回 「世界のコマーシャル・フィルム」 世界各国のコマーシャルの比較</p> <p>第9回 「造形作家の制作風景」 創造する喜びと生みの苦しみ</p> <p>第10回 「日本の伝統芸能・落語」 落語の小道具、歴史</p> <p>第11回 「日本の伝統芸能・人形浄瑠璃」 太夫・三味線・人形遣いの役割</p> <p>第12回 「美術館見学」 講義期間中の美術展を鑑賞・見学する</p> <p>第13回 「チャールズ・チャップリン 1」</p> <p>第14回 「チャールズ・チャップリン 2」</p> <p>第15回 「まとめと試験、あるいはレポート」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%)、試験あるいはレポート (70%) で評価。		

(注) 受講登録数が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	かごしまカレッジ教育	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】レポートと話し合いのための日本語力（書く力・話す力）を養成する</p> <p>【概要】「書く力」では、レポートの構成要素と表現を知り、データ・資料・情報に基づいた論証型のレポートを作成する力を養成する。「話す力」では、少人数グループによる話し合いで相手の立場や意見を尊重しながら自分の意見を述べる力を養う。</p> <p>【到達目標】(1)「話し手」・「聞き手」としてふさわしい態度や話し方・聞き方を学び、実際話し合いの場で実践できる。(2)グループの話し合いの結果を、簡潔にわかりやすく授業の中で発表できる。(3)レポートの構成要素を理解し、組み立てにそって論理的なレポートが書ける。(4)レポートの構成要素として使われる様々な表現を理解し、レポートの中で使うことができる。(5)事実と意見を区別し、データや資料・情報に基づいた論証型のレポートが書ける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 第2回 話し合いに対する心構え 第3回 レポートとは何か 第4回 レポートの資料について 第5回 事実と意見について 第6回 情報カードの書き方、引用の書き方 第7回 書誌情報の書き方 第8回 文型・文体について 第9回 図表の読み方と説明の仕方 第10回 アウトラインの作り方 第11回 メモ付きアウトラインの作り方 第12回 パラグラフの書き方 第13回 レポート第1回提出 第14回 レポート第2回提出 第15回 レポート最終チェック		
成績評価の方法	(1)グループ活動の報告についての成績30%、(2)レポート作成の途中で提出した課題についての成績30%、(3)最終レポートの成績40%で総合評価する。		

(注) 受講者数は、20名を上限とします。

受講希望者が多い場合は抽選となりますが、「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

授業科目	日本国憲法	担当者	山本 敬生
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の睿智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 小栗実編『新検証・日本国憲法』法律文化社 2007年 適宜、プリントを配布する。 (2) 『ポケット六法』（平成23年度版）有斐閣2010年		
授業スケジュール	第1回：憲法概論 第2回：基本権総論 第3回：包括的権利 第4回：精神的自由権(1) 第5回：精神的自由権(2) 第6回：経済的自由権 第7回：受益権 第8回：社会権(1) 第9回：社会権(2) 第10回：国会(1) 第11回：国会(2) 第12回：内閣 第13回：裁判所 第14回：財政 第15回：まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(90%) + 授業での発言の記録(10%)を基準に、総合的に評価する。		

(注) 教職必修

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	法学概論	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人を裁くという権威を盾に近寄り難いイメージのある「法」を、その起源から探り、昔話や映画、文学などを通して身近なところに存在する「法的なもの」に触れる。</p> <p>【概要】民事訴訟と刑事訴訟の構造の違いを知り、市民が参加する裁判員裁判という場が「裁き」の場であることをまず示す。その上で、なぜ法が発生したのか、その起源を探り、文学や映画をとおして、あらゆる所に法的なものがあること、私たちの思考に刷り込まれている法の概念を拾い出してみる。</p> <p>【到達目標】様々な角度から「法的なもの」に触れることによって「法的思考」を磨き、日常生活の中によくある事例を、法的な思考で判断できることを目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	特に定めない。		
授業スケジュール	第1回～5回 「裁判」の構造 第1回 法とは何か 第2回 民事訴訟 第3回 刑事訴訟 第4回 裁判員制度(1) 第5回 裁判員制度(2) 第6回～14回 リーガルマインドを磨く 第6回 「裁く」とはどういうことか：刑事司法と民事司法の関係 第7回 刑罰は何のためにあるのか：犯罪認定のプロセス 第8回 刑罰の起源：復讐から儀式、儀式から刑罰へ 第9回 法の起源：法はどこから来て、どこに行くのか 第10回 法の正体と法文化、法文化と国民性 第11回 権利と義務の関係：誰かのものである(所有)ということの意味 第12回 契約の自由と信義則 第13回 法の解釈と屁理屈の違い：シェークスピア『ヴェニスの商人』を題材に 第14回 解釈の原則：「リーガルマインド (Legal Mind)」(法的思考)というもの 第15回 予備日		
成績評価の方法	講義中に書いてもらうレポート40点 + 最後のレポート60点		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	社会学	担当者	斉藤 悦則
	〔履修年次〕 全学年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会学の基本概念を学ぶ</p> <p>【概要】社会学の諸概念を道具として、身の回りの諸現実を新たな視点で見つめ直してみる。そうすると、いままで当たり前のように見えていたものが、意外に「変なこと」「怪しいこと」のように見えてくる。</p> <p>【到達目標】常識に囚われて、硬直していた発想が、社会学を学べば柔軟になる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回 社会学のおもしろさ……潜在機能 第2回 不良になろう……ラベリング 第3回 まなざしの地獄……一般化された他者 第4回 情報に踊らされる……予言の自己成就 第5回 格差のメカニズム……準拠集団 第6回 空気を読めってか?……他者志向 第7回 血液型とか信じる?……自由からの逃走 第8回 愛のジレンマ……社会的交換理論 第9回 わかりやすさの畏……疑似環境 第10回 オーラが消える……複製技術革命 第11回 コミュニティへの回帰……ゲメインシャフト 第12回 学校に行くとバカになる……制度化 第13回 セクシーとは何か……粋の構造 第14回 事なかれ主義……官僚制 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文(100%)		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式及びワークショップ	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生を対象に、卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること</p> <p>【概要】近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中、本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが、自分の興味だけで考えている場合、キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味がなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し、社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。短期的な就職活動だけのためではなく、社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。</p> <p>※1年生は原則として全員受講すること。</p> <p>【到達目標】本講義を通じて、県短生をとりまく就業環境、社会の中で働くことの意味、就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。</p>		
授業スケジュール	<p>(講師陣)平成22年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期(7月23日) 社会人になる(就職する)ことはなぜ必要なのか、県短を取り巻く就職状況はどうかキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師：森脇丈子(生活科学科准教授)、西村道子(株式会社 昂) 川村美鈴(KTS 鹿児島テレビ) ・第2期(9月27,28日) 地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き、働くことの意味、会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師：田原武志((株)アシップ)、石原美貴(石原興業(株) 石原荘) 前田幸一((株)浜島印刷)、丸田真悟(NPO 法人かごしまアートネットワーク) 小林陸夫(大学生協九州事業連合) ・第3期(12月24日) 県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているOB・OGから話を聞き、進路イメージを具体化させる。 講師：北川隆巴(京セラ(株))、秋葉重登(鹿児島相互信用金庫) 宇都泰礼((株)健康家族)、原田忍((株) エム・ディ・エス) 本学卒業生8人(中学校教員、栄養士など) ・第4期(2月1日) いよいよ実際の就職活動を目前に控えて、労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに、具体的な就職準備作業を行う。 講師：疋田京子(商経学科准教授)、学生部学生課職員 <p>※23年度のスケジュール・講師は適宜掲示する。</p>		
成績評価の方法	レポート2回(100%)		

授業科目	数学の世界	担当者	寛山 榮助
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】数学の世界を理解するための根拠について</p> <p>【概要】数学は言うまでもなく高度に抽象化された理論体系の学問です。われわれは物事の奥に潜んでいる数理的構造の本質を見据え解析し、推論する思考過程を身につける能力を培い育てていくことです。一方、数学を学ぶ過程で修得される種々の概念やそれらを表現し駆使する手段として修練される数式取り扱いの手法や技能は諸科学の研究のみならず人間活動のいろいろな場に応用されています。数学は、知的で文化的な面と技術的で実用的な面を併せ持っていて概念的に論述する場合は前者に力点を置くことが望ましい。すなわち『数学とはなにか』、『何のために数学を学ぶか』等に興味・関心をよせ自問自答しながら講義に臨んで欲しい。</p> <p>【到達目標】1 教科としての数学と学問としての数学について理解を深める。 2 人格形成ならびに社会生活に役立つ数学的ものの見方・考え方を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 量的なことを考慮して、特に定めない</p> <p>(2) 興味、関心、意欲養成に適宜提示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 第1章 数学という学問 1 数学の要請：数学的帰納法</p> <p>第2回 ・デカルトの発見的方法</p> <p>第3回 2 数学の関数的表現 ・近似多項式の微分表現</p> <p>第4回 ・マクローリンの定理とテーラー展開の魅力</p> <p>第5回 3 数学の源と数「0」の発見 ・整数の素数分解の一意性</p> <p>第6回 ・完全数 ・友愛数 ・婚約数の定義とその発見</p> <p>第7回 4 三平方の定理の古典数学としての魅力 ・ピタゴラス数の折り紙表現</p> <p>第8回 5 フェルマーの定理と現代数学</p> <p>第9回 第2章 経済や社会の動向を探る現代数学 1 行列と次元 ・ケーキ作り</p> <p>第10回 2 クラメルの定理 ・三元連立一次方程式</p> <p>第11回 3 経営や生産性の効率性 1 マルコフの推移行列</p> <p>第12回 2 推移行列とマーケット・シェア</p> <p>第13回 第3章 現代数学をどう理解するか 1 数学の論証性</p> <p>第14回 2 ロバチェフスキーの『平行線論』と数学の世界</p> <p>第15回 「まとめと試験」(定期考査、自分で考える「数学の世界」について小論)</p>	<p>★履修状況調査と感想文</p> <p>★試験と小論</p>	
成績評価の方法	定期試験60%、興味・関心・態度、感想文40%で評価する。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	物理の世界	担当者	藤井 伸平																
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式																		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。</p> <p>【概要】普段、私たちは歩くという動作について考える（意識する）ことはありませんが、凍った道路は滑ってとても歩きにくいことに気づきます。このときあらためて靴と路面の間の摩擦が歩くという動作に重要な役割を果たしていることに気づきます。このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、2, 3の実験も行う予定です。</p> <p>【到達目標】物理学を身近に感じる</p>																		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (適宜プリントを配布) (2) 藤城敏幸著「生活の中の物理」東京教学社。 そのほか、適宜授業中に紹介。																		
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回 無量大数と科学的記法</td> <td>第9回 焚き火</td> </tr> <tr> <td>第2回 地球を持ち上げる</td> <td>第10回 絶対零度</td> </tr> <tr> <td>第3回 動いている地球</td> <td>第11回 宇宙は膨張している</td> </tr> <tr> <td>第4回 万物は引き合う</td> <td>第12回 近視、遠視、老眼</td> </tr> <tr> <td>第5回 ロケットはなぜ飛ぶ</td> <td>第13回 光の三原色と色の三原色</td> </tr> <tr> <td>第6回 ヨットのはなし</td> <td>第14回 ダイヤモンドとファイバースコープ</td> </tr> <tr> <td>第7回 質量はエネルギー</td> <td>第15回 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第8回 水の特異な性質</td> <td></td> </tr> </table>			第1回 無量大数と科学的記法	第9回 焚き火	第2回 地球を持ち上げる	第10回 絶対零度	第3回 動いている地球	第11回 宇宙は膨張している	第4回 万物は引き合う	第12回 近視、遠視、老眼	第5回 ロケットはなぜ飛ぶ	第13回 光の三原色と色の三原色	第6回 ヨットのはなし	第14回 ダイヤモンドとファイバースコープ	第7回 質量はエネルギー	第15回 まとめ	第8回 水の特異な性質	
第1回 無量大数と科学的記法	第9回 焚き火																		
第2回 地球を持ち上げる	第10回 絶対零度																		
第3回 動いている地球	第11回 宇宙は膨張している																		
第4回 万物は引き合う	第12回 近視、遠視、老眼																		
第5回 ロケットはなぜ飛ぶ	第13回 光の三原色と色の三原色																		
第6回 ヨットのはなし	第14回 ダイヤモンドとファイバースコープ																		
第7回 質量はエネルギー	第15回 まとめ																		
第8回 水の特異な性質																			
成績評価の方法	レポート (100%)																		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	生物の科学	担当者	塚原 潤三																														
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】脊椎動物の進化とヒトのなりたち</p> <p>【概要】本講義では、ヒトのなりたちを理解するために、脊椎動物の進化の流れを概観し、次いで霊長類のグループの進化を取り上げ、その中でヒトがどのように進化し、ヒトとしての特性を獲得してきたかについて、生物学の側面から解説する。</p> <p>【到達目標】脊椎動物の進化の流れを理解し、その中でヒトがどのように形成されてきたかを理解する。</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 無し (あらかじめプリント集を配布する) (2) 『ヒトの進化・・・新しい考え』ロジャー・レウイン著 岩波書店 『脊椎動物の進化』E. H. コルバート&M. モラレス著 築地書館																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回 地球史概観</td><td>: 気候変動や大陸移動</td></tr> <tr><td>第2回 地質年代の測定</td><td>: 相対的年代測定と絶対的年代測定</td></tr> <tr><td>第3回 進化の不思議な大爆発</td><td>: カンブリア紀における脊椎動物の出現</td></tr> <tr><td>第4回 脊椎動物の特徴と概観</td><td>: 脊髄神経系の発達</td></tr> <tr><td>第5回 魚類の進化</td><td>: 水中動物の発達</td></tr> <tr><td>第6回 両生類の進化</td><td>: 陸上生活への移行過程</td></tr> <tr><td>第7回 は虫類の進化</td><td>: 完全な陸上生活の獲得と環境への適応</td></tr> <tr><td>第8回 ほ乳類の進化</td><td>: 子育ての革新的進化</td></tr> <tr><td>第9回 霊長類の進化</td><td>: サル類の共通の特性とヒトへのつながり</td></tr> <tr><td>第10回 ヒト進化の研究の歴史</td><td>: ヒト化石との出会い</td></tr> <tr><td>第11回 2足歩行に伴う身体変化 (1)</td><td>: 下半身の構造と機能の進化</td></tr> <tr><td>第12回 2足歩行に伴う身体変化 (2)</td><td>: 上半身の構造と機能の進化</td></tr> <tr><td>第13回 脳の進化と言語の発達</td><td>: 脳の発達と機能分化</td></tr> <tr><td>第14回 情報伝達と社会形成</td><td>: ヒトはなぜ群れをつくるのか</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめと試験</td></tr> </table>			第1回 地球史概観	: 気候変動や大陸移動	第2回 地質年代の測定	: 相対的年代測定と絶対的年代測定	第3回 進化の不思議な大爆発	: カンブリア紀における脊椎動物の出現	第4回 脊椎動物の特徴と概観	: 脊髄神経系の発達	第5回 魚類の進化	: 水中動物の発達	第6回 両生類の進化	: 陸上生活への移行過程	第7回 は虫類の進化	: 完全な陸上生活の獲得と環境への適応	第8回 ほ乳類の進化	: 子育ての革新的進化	第9回 霊長類の進化	: サル類の共通の特性とヒトへのつながり	第10回 ヒト進化の研究の歴史	: ヒト化石との出会い	第11回 2足歩行に伴う身体変化 (1)	: 下半身の構造と機能の進化	第12回 2足歩行に伴う身体変化 (2)	: 上半身の構造と機能の進化	第13回 脳の進化と言語の発達	: 脳の発達と機能分化	第14回 情報伝達と社会形成	: ヒトはなぜ群れをつくるのか	第15回	まとめと試験
第1回 地球史概観	: 気候変動や大陸移動																																
第2回 地質年代の測定	: 相対的年代測定と絶対的年代測定																																
第3回 進化の不思議な大爆発	: カンブリア紀における脊椎動物の出現																																
第4回 脊椎動物の特徴と概観	: 脊髄神経系の発達																																
第5回 魚類の進化	: 水中動物の発達																																
第6回 両生類の進化	: 陸上生活への移行過程																																
第7回 は虫類の進化	: 完全な陸上生活の獲得と環境への適応																																
第8回 ほ乳類の進化	: 子育ての革新的進化																																
第9回 霊長類の進化	: サル類の共通の特性とヒトへのつながり																																
第10回 ヒト進化の研究の歴史	: ヒト化石との出会い																																
第11回 2足歩行に伴う身体変化 (1)	: 下半身の構造と機能の進化																																
第12回 2足歩行に伴う身体変化 (2)	: 上半身の構造と機能の進化																																
第13回 脳の進化と言語の発達	: 脳の発達と機能分化																																
第14回 情報伝達と社会形成	: ヒトはなぜ群れをつくるのか																																
第15回	まとめと試験																																
成績評価の方法	筆記試験 (80%) と小論文 (20%)																																

(注) 生活科学科を除く。

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	化学の世界	担当者	井余田 秀美・木下 朋美
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。</p> <p>【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは、身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりの視点から、身の回りの物質や現象、生活に潤いをもたらす茶や香りについて、講義を行う。</p> <p>【到達目標】化学的視点から、課題を探索し、解決していくための基本的な能力を培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本茶インストラクター協会編、『日本茶のすべてがわかる本』、農文協 財団法人 日本ホテル教育センター編、『世界・お茶の基本』、プラザ出版</p>		
授業スケジュール	<p>1 身近な物質 (井余田)</p> <p>第1回 自然の恩恵 第2回 化学の基礎 第3回 生活と化学</p> <p>2 身近な現象 (井余田)</p> <p>第4回 物質の変化 第5回 光と色 第6回 エネルギーと環境</p> <p>3 茶と香りの化学 (木下)</p> <p>第7回 茶に隠された化学を探る 第8回 様々な茶を生み出した歴史 茶製法の変遷 第9回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法 (1) 第10回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法 (2) 第11回 緑茶に付加価値をつける 流通と仕上げ加工 (ブレンド・焙煎) 第12回 茶の味お淹れ方次第 溶出成分の特徴 第13回 茶の品質を見極める 官能検査と化学分析 第14回 味をも作り出す 香りの特性と役割 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	レポート		

(注) 生活科学科生活科学専攻を除く

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	食生活と健康	担当者	倉元 綾子・多田 司・木下 朋美・有村 恵美
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康な食生活を送るためにはどうしたらよいか。</p> <p>【概要】バランスの取れた栄養、運動や休養・睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれるほど存在し、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらのなかには十分に検証されないまま提供される有害なものも少なくない。本科目では、健康で、安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて、各種の活動を取り入れて、実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 健康な食生活：イントロダクション (倉元, 多田, 木下, 有村) : 健康とは何か? 食生活が健康に及ぼす影響 (有村)</p> <p>第2回 健康な食生活：食品に含まれる栄養素 (有村)</p> <p>第3回 健康な食生活：食品の特性 (木下)</p> <p>第4回 健康な食生活：食の安全 (木下)</p> <p>第5回 私たちの食生活トピックス1：ワークショップ (倉元)</p> <p>第6回 私たちの食生活トピックス2：ワークショップ (倉元)</p> <p>第7回 私たちの食生活トピックス3：ワークショップ (倉元)</p> <p>第8回 健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方1 (多田)</p> <p>第9回 健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方2 (多田)</p> <p>第10回 健康・栄養情報：ダイエット・サプリメント (有村)</p> <p>第11回 健康な食生活：あなたの食生活チェック (有村)</p> <p>第12回 健康な食生活：食事のバランス・食品選択の方法 (有村)</p> <p>第13回 健康な食生活：生活習慣病 (有村)</p> <p>第14回 健康な食生活：休養・睡眠・運動 (有村)</p> <p>第15回 まとめ：健康な食生活とは (有村)</p>		
成績評価の方法	試験、レポート、授業ごとの小論文、発表内容によって総合的に評価する 各担当者の成績を集計して、荷重平均。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	平和論	担当者	福田 忠弘・森田 豊子・船津 潤・疋田 京子
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テーマは、日本国内や国際社会で生起する諸問題について、平和論の視座からどのようにとらえることができるかについて考察することである。</p> <p>【概要】 現在の世界では、国家間の戦争だけでなく、民族・宗教対立による紛争、貧困問題、人権問題、女性への暴力など、到底平和とは呼べない状態が続いている。日本国内においては、憲法改正、教育基本法の改正など、国家権力の強化が進行している。本年度の平和論は、世界の平和ならざる状況を理解することを目的とする。特に焦点をあてるのは、暴力の様々な形態、「他者」への理解（特にイスラーム社会）、スリランカを事例にした国家建設の光と陰、様々な人権侵害についてである。</p> <p>【到達目標】 グローバル社会でおきている紛争、貧困問題、人権問題、女性への暴力などについての現状を認識し、その原因について説明できることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) 講義中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第1回 平和論の方法：平和論という学問がどのようなものなのかを概説する（福田） 第2回 暴力の多様性（1）：暴力という概念について（福田） 第3回 暴力の多様性（2）：国際社会における紛争について視聴覚資料を使用（福田） 第4回 パレスチナ問題：パレスチナ問題の歴史と現状について（森田） 第5回 9・11後の世界：イラクとアフガニスタンについて（森田） 第6回 イスラーム原理主義：イスラーム原理主義の成り立ちと現状について（森田） 第7回 イスラームと女性：イスラーム原理主義における女性の権利をめぐる問題について（森田） 第8回 世界におけるイスラーム教徒：欧州、米国、日本におけるイスラーム教徒の問題について（森田） 第9回 民族紛争の構造：スリランカの事例について（船津） 第10回 平和への葛藤：スリランカの事例について（船津） 第11回 憲法9条の源流をさぐる：永久平和構想と非戦の制度化に向けて（疋田） 第12回 憲法9条の戦後史：憲法9条はどのように議論されてきたか（疋田） 第13回 平和と人権：暴力の連鎖を断つための様々な試み（疋田） 第14回 平和の多様性について：積極的平和という概念を中心に（福田） 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	レポートによって評価する（100％）。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	環境問題	担当者	相場 慎一郎・井余田 秀美・野村 俊郎・曾宮 和夫
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 環境問題を様々な角度から考える</p> <p>【概要】 環境問題を、森林（相場）、化学（井余田）、自動車産業（野村）、環境保護行政（曾宮）の四つの視点から考える</p> <p>【到達目標】 環境に関する複眼的思考を養う</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第1回 総論：環境問題の複眼的考察 第2回 森林（1）：森林の役割 第3回 森林（2）：森林と環境 第4回 化学（1）：汚染物質1 第5回 化学（2）：汚染物質2 第6回 化学（3）：汚染物質3 第7回 化学（4）：汚染物質4 第8回 自動車（1）：ハイブリッド 第9回 自動車（2）：EV 第10回 自動車（3）：LCVとULCV 第11回 自動車（4）：発電と蓄電 第12回 環境保護行政（1）：総論 第13回 環境保護行政（2）：屋久島 第14回 環境保護行政（3）：奄美 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	4人の講師の25点満点×4		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【概要】 鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバル」を考える文・理のバランスがとれたリベラルアーツ教育を行います。2泊3日の夏季集中授業で、講義とグループ学習（チューターの支援あり）を行います。さらに、夜間はディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。なお、4,500円程度の宿泊経費等が必要となります。</p> <p>【学習目標】</p> <p>①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。</p> <p>②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。</p> <p>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成22年度実施概要（平成23年度については未定。若干の変更の予定があります。）		
成績評価の方法	<p>講義ノート（レポート以外の部分） 30%、グループ討論・発表内容（40%）、レポート（30%）として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。</p>		

(注) 「かごしまカレッジ教育」の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【概要】 地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域を活性化していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。</p> <p>この活動により、鹿児島の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。なお、4,500円程度の宿泊経費等が必要となります。</p> <p>【学習目標】</p> <p>①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を地産する。</p> <p>②同地区等のさらなる活性化のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。</p> <p>テーマ別に編成されたグループにおいて、これらの3つの学習目標を達成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成22年度実施概要（平成23年度は未定。若干の変更の予定があります。）		
成績評価の方法	<p>地域学習を通して指定地区等の独自性を調査・認識し、グループ討論・発表とレポート作成を行います。</p> <p>実地調査等30%（学習目標①）、グループ討論・発表20%と提案内容20%（学習目標②）、レポート30%（学習目標③）として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。</p>		

(注) 「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 年次指定なし [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 1年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		

2 教養科目（外国語科目）

授業科目	英語 I (A)	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日常会話で使える英語表現を学ぶ。</p> <p>【概要】スヌーピーの漫画をきっかけにして、日常生活の様々な場面で使える英語のキーワードや表現を学ぶ。重要な文法事項についても適宜復習したい。</p> <p>【到達目標】さまざまな状況での英会話練習を通して、リスニング力や発音力を向上させるとともに、文法知識を再確認する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	今泉志奈子&井上彰 <i>Let's Speak English with SNOOPY!</i> (英宝社, 2004)		
授業スケジュール	第 1回 UNIT 1 第 2回 UNIT 2 第 3回 UNIT 3 第 4回 UNIT 4 第 5回 UNIT 5 第 6回 UNIT 6 第 7回 UNIT 7 第 8回 UNIT 8 第 9回 UNIT 9 第 10回 UNIT 10 第 11回 UNIT 11 第 12回 UNIT 12 第 13回 UNIT 13 第 14回 UNIT 14 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (30%) , 小テスト (30%) , オーラル試験 (40%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	太田 一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】(1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習</p> <p>ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ, 英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。</p> <p>(2)シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成</p> <p>モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで, 英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材 (または副教材) を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し, 情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press) (2) 授業中に適宜指示。		
授業スケジュール	第 1~2回 ガイダンスおよび練習法 (シャドーイングなど) の解説 第 3~4回 A New Neighbour 第 5~6回 To the Rescue 第 7~8回 Dinner for Two 第 9~10回 Change of a Dress 第 11~12回 A Long Weekend 第 13回 復習 第 14回 朗読試験 第 15回 まとめと試験 【注意】LL 教室を使っている授業なので, 遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	平常点 30%と試験 70%。試験は朗読と筆記の二種類。		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	塚崎 香織
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初歩的な英文を読んで、英語を読む際に必要なさまざまなスキルを身につけるとともに、テーマごとに関連する語彙を習得する。また、リスニングの練習も同時に行い、リーディングとリスニングを関連づける。</p> <p>【概要】必要な情報を探して素早く英文を読む、概要・要点を大まかに把握する、パラグラフの構造を理解する、わからない単語の意味を推測するなどのスキルを練習する。</p> <p>【到達目標】英語を読む際に必要なさまざまなスキルを駆使して、初歩的な英文の内容を把握できる。初歩的な英文を聞いて、内容が把握できる。英語を読んだり聞いたりするのに必要な初歩的な語彙を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Neil J. Anderson & Kawamata Masayuki / <i>Elementary Skills for Reading</i> (成美堂) 特になし		
授業スケジュール	第 1 回 He's the Boss: Scanning の練習 第 2 回 Working Holiday: Understanding Main Ideas の練習 第 3 回 Doing Something Different: Recognizing Purpose の練習 第 4 回 The Learning Center: Skimming の練習 第 5 回 Sepak Takraw: Reading for Details の練習 第 6 回 Are Sports Important?: Making Inferences の練習 第 7 回 A Postcard from Hong Kong: Understanding the Order of Events の練習 第 8 回 The Burj Al Arab Hotel: Scanning の練習 第 9 回 Table Manners: Comparing and Contrasting の練習 第 10 回 Homestay Diary: Making Inferences の練習 第 11 回 Ask Emma: Skimming の練習 第 12 回 Peer Pressure: Making and Checking Predictions 第 13 回 A Real Life Superhero: Understanding the Order of Events の練習 第 14 回 The Tiffin Men: Scanning の練習 第 15 回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごとに実施する小テスト・レポート等 (40%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	森 孝晴
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニングとスピーキングの基礎力の養成</p> <p>【概要】実際に英語で話すことを楽しみ、笑える話を聞いて英語を聞き取る集中力を高めていく。</p> <p>【到達目標】文法や発音に多少の誤りがあっても恥ずかしがらずに話せるようになり、英語を聞きとる基本的な姿勢を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Masakazu Someya, Fred Ferrasci & Paul Murray <i>Humorous Homestay Stories</i> 「リスニングで楽しむホームステイ体験記」 南雲堂 1400円+税 (2)		
授業スケジュール	第 1 回 授業の進め方について。リスニングとスピーキングのコツと注意点について 第 2 回 テキスト Unit 1. グループでの英会話 第 3 回 テキスト Unit 2. グループでの英会話 第 4 回 テキスト Unit 3. グループでの英会話 第 5 回 テキスト Unit 4. グループでの英会話 第 6 回 テキスト Unit 5. グループでの英会話 第 7 回 テキスト Unit 6. グループでの英会話 第 8 回 テキスト Unit 7. グループでの英会話 第 9 回 テキスト Unit 8. グループでの英会話 第 10 回 テキスト Unit 9. グループでの英会話 第 11 回 テキスト Unit 10. グループでの英会話 第 12 回 テキスト Unit 11. グループでの英会話 第 13 回 テキスト Unit 12. グループでの英会話 第 14 回 テキスト Unit 13. グループでの英会話 第 15 回 まとめと口頭試験		
成績評価の方法	口頭試験 (90%) + 授業への参加状況 (10%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (B)	担当者	久木田 美枝子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 前半・鹿児島を英語で紹介 後半・オーストラリアの紹介を通して、基礎的英語運用能力を培う。</p> <p>【概要】 前半は、鹿児島の英文での紹介を基に、よりよい簡単な英語での紹介文を追加する。後半は、オーストラリアの文化、生活などを扱ったビデオ教材を基軸に、基礎的英語運用能力の養成を図る。テキストの中の基礎的文法事項に関しては、随時説明を行う。</p> <p>【到達目標】 鹿児島の英語での紹介、およびオーストラリアの文化紹介のテキストを中心に、バランスのとれた基礎的英語運用能力を培う。なおコミュニケーション力をつけるのに必要な基礎的文法力の再確認も行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Kumiko T. Sato, Steve Lia, <i>Australia, Here We Come!</i> Asahi Press (2) 随時プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction (はじめに) 第2回 Street Life (街の生活) 第3回 Public Transport—Commuting (公共交通機関—通勤・通学) 第4回 University Life—The University of Sydney (大学生活—シドニー大学) 第5回 Australian Home (オーストラリアの家) 第6回 Supermarket—Coles (スーパーマーケット—コールス) 第7回 Daily Life (日常生活) 第8回 Taronga Zoo—Australian Animals (タロンガ動物園—オーストラリアの動物) 第9回 Leisure Time at the Park (海辺でのレジャー) 第10回 Education Programs in Taronga Zoo (タロンガ動物園体験プログラム) 第11回 Leisure Time at the Park (公園でのレジャー) 第12回 Australian Family (オーストラリアの家庭) 第13回 Discussion (ディスカッション) 第14回 Discussion (ディスカッション) 第15回 Examination (定期試験)</p>		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%), レポート(60%)で評価する。		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (B)	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 音読練習</p> <p>【概要】 半ページくらいの長さのパスセージをできるだけ多く音読することで、表現力、速読・多読力、リスニング力を向上させ、文章構造が理解できるよう訓練する。本文に出て来た文法事項についても適宜解説したい。</p> <p>【到達目標】 やや長めの文章の構造を初見でも捉えて、スムーズに音読できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	多湖純佳, 安田孝子, 石橋和代 <i>Let's Read Aloud!</i> (南雲堂, 2005)		
授業スケジュール	<p>第1回 Unit 1-1, 1-2, 2-1 第2回 Unit 2-2, 3-1, 3-2 第3回 Unit 4-1, 4-2, 5-1 第4回 Unit 5-2, 6-1, 6-2 第5回 Unit 7-1, 7-2, 8-1 第6回 Unit 8-2, 9-1, 9-2 第7回 Unit 10-1, 10-2, 11-1 第8回 Unit 11-2, 12-1, 12-2 第9回 Unit 13-1, 13-2, 14-1 第10回 Unit 14-2, 15-1, 15-2 第11回 Unit 16-1, 16-2, 17-1 第12回 Unit 17-2, 18-1, 18-2 第13回 Unit 19-1, 19-2, 20-1 第14回 Unit 20-2, 21-1, 21-2 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (30%), 小テスト (30%), オーラル試験 (40%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	太田 一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】 (1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習</p> <p>ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ, 英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。</p> <p>(2)シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成</p> <p>モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで, 英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材 (または副教材) を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】 日常場面で相手の考えを理解し, 情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press) (2) 授業中に適宜指示。		
授業スケジュール	第 1～2回 ガイダンスおよび練習法 (シャドーイングなど) の解説 第 3～4回 A New Neighbour 第 5～6回 To the Rescue 第 7～8回 Dinner for Two 第 9～10回 Change of a Dress 第 11～12回 A Long Weekend 第 13回 復習 第 14回 朗読試験 第 15回 まとめと試験 【注意】 LL 教室を使つての授業なので, 遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	平常点 30%と試験 70%。試験は朗読と筆記の二種類。		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (C) ※火曜日 4限	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 特に基礎的な文法力修得に力点を置きながら, リスニング力, 発音力, 文法力を総合的に鍛えることで, スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】 英語のリスニング, 文法, 読解を総合的に学習することで, バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習, 基本的, 発展的な文法事項の確認, 「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法) を意識した速読理解の練習などを通して, 総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】 日常生活の様々な場面において, 相手の情報や考えを理解でき, プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Power-Up English <Basic> JACET リスニング研究会著 NAN'UN-DO (南雲堂) 刊 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 Personal Correspondence (現在形・現在進行形) 第 3回 Biography (過去形・過去進行形) 第 4回 Events & Festivals (未来形) 第 5回 Directions & Locations (前置詞) 第 6回 Occupations (代名詞) 第 7回 Instructions (命令文) 第 8回 Health & Physical Condition (疑問文) 第 9回 Service Requests (現在完了) 第 10回 Money (疑問詞を用いた疑問文) 第 11回 Public Signs (助動詞 1) 第 12回 Sports (助動詞 2) 第 13回 History (受動態) 第 14回 Sightseeing (比較) 第 15回 期末試験		
成績評価の方法	筆記試験 (70%), 提出物 (10%), 授業への取り組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (C) ※火曜日 5限	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語の基礎力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。また各種英語検定試験に対応できるよう補足資料で発展的な問題にも取り組みます。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、または馴染みのある文脈において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で情報や考えを表現できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Power-Up English <Basic> JACET リスニング研究会著 NAN'UN-DO (南雲堂) 刊 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 Personal Correspondence (現在形・現在進行形) 第 3 回 Biography (過去形・過去進行形) 第 4 回 Events & Festivals (未来形) 第 5 回 Directions & Locations (前置詞) 第 6 回 Occupations (代名詞) 第 7 回 Instructions (命令文) 第 8 回 Health & Physical Condition (疑問文) 第 9 回 Service Requests (現在完了) 第 10 回 Money (疑問詞を用いた疑問文) 第 11 回 Public Signs (助動詞 1) 第 12 回 Sports (助動詞 2) 第 13 回 History (受動態) 第 14 回 Sightseeing (比較) 第 15 回 期末試験		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) , 提出物 (10%) , 授業への取り組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、リスニングのコツを学びながら、ナチュラルスピードの口語英語に慣れ親しむとともに、日常会話で役立つ表現やフレーズを身につけていくことです。</p> <p>【概要】授業の前半では、洋楽を使ったエクササイズや、チャンツ・パラレルリーディングなどの発音練習で、楽しみながら英語の自然な音声変化やリズムに慣れ、「自然な発音を聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。授業の後半ではアメリカ旅行と留学を題材としたビデオ教材で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、日常会話で使われる英語表現やフレーズを場面ごとに学習していきます。さらにコースの後半では応用編として、映画を利用したリスニング演習を取り入れる予定です。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみある場面において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目標とする。</p>		
(1) テキスト	(1) Hiroto Ohyagi & Timothy Kiggell 著, <i>Viva! San Francisco</i> . 出版社: マクミラン・ランゲージハウス		
授業スケジュール	<毎回, LL 教室を使用> 第 1 回: オリエンテーション / 授業内容と進め方について 第 2 回: Do You Have a Reservation, Ma'am? / ホテルでのチェックインに使う表現 第 3 回: Would You Like Soup or Salad? / レストランでの食事の注文に使う表現 第 4 回: Where's the Fitting Room? / ショッピングに使う表現 第 5 回: Good to See You! / 挨拶に使う表現 第 6 回: I Enjoyed My Stay / ホテルでのチェックアウトに使う表現 第 7 回: You Are One of the Family Now / ホームステイ先での会話表現 第 8 回: I Want to Help! / 申し出る・申し出を受ける表現 第 9 回: When Do I Have to Return This? / 図書館での本の貸し出しに使う表現 第 10 回: Would You Like to Join Us? / 人を誘う・誘われる際の表現 第 11 回: Let's Keep in Touch, OK? / 別れに使う表現 第 12 回: 映画を利用したリスニング演習 (1) 第 13 回: 映画を利用したリスニング演習 (2) 第 14 回: 映画を利用したリスニング演習 (3) 第 15 回: まとめと試験		
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。</p> <p>【概要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で、読む・聞く・書く・話す実用的な英語を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 日常生活で必要とされる英語のリスニング力とスピーキング力を向上させていく。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Donald Freeman, Kathleen Graves, Linda Lee 『ICON』 International Communication Through English, McGranhill ISBN 007-124406-9 税込 2,205 円		
授業スケジュール	第 1回 イン트로ダクション 自己紹介 コース説明 第 2回 Unit 1: Is Korean food spicy? 第 3回 Unit 2: Where is volleyball popular? 第 4回 Unit 3: The nightlife is great! 第 5回 Unit 4: It's terrific dance music 第 6回 Unit 5: I don't like horror movies 第 7回 Unit 6: Do you like to eat out? 第 8回 Unit 7: When do you have lunch? 第 9回 Unit 8: I never get enough sleep! 第 10回 Unit 9: Did you go to the gym? 第 11回 Unit 10: Is there an ATM around here? 第 12回 Unit 11: I want to buy a CD 第 13回 Unit 12: That's a nice jacket! 第 14回 Revision 第 15回 Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	Simon Runswick
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The basic theme of this course is everyday communication in a wide variety of situations such as shopping, asking directions etc.</p> <p>【概要】 In this class the students will be introduced to a variety of everyday English for many basic communication needs. The students will practice the various language functions through different activities including pair work and role play.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to improve the overall communicative abilities of the students in everyday situations.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <u>ENGLISH FIRSHAND 1</u> Marc Helgesen et al. Longman Asia ELT (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introductions and Asking Questions 第 2回 Describing People 第 3回 Schedules and Frequency 第 4回 Describing locations 第 5回 Giving Directions 第 6回 Past activities 第 7回 Review 第 8回 Talking about the Past 第 9回 Getting Information 第 10回 Plans 第 11回 Predictions 第 12回 Shopping 第 13回 Following Instructions 第 14回 Personal Interests and Opinions 第 15回 Review		
成績評価の方法	This class will be assessed based on the weekly performance of students as they participate in activities and on a final oral test.		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	Brian Pedersen
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The theme of the course is to provide students with a solid grounding of English vocabulary in a wide variety of topics</p> <p>【概要】 Communicating in English requires a wide vocabulary. Students will be able to use this class to begin self-directed studies based around topics of interest and relevance. Students gain confidence with the support they initially receive in pair work with fellow students and they will also be able to work at their own pace to maximize their language development.</p> <p>【到達目標】 A successful outcome for this course would be students who take responsibility for their own learning outside of the class room having initially built up skills and confidence inside it.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Oxford Picture Dictionary Second Edition English/Japanese		
授業スケジュール	第1回 Greetings and exchanging personal information 第2回 Times dates and weather 第3回 Prepositions and locations 第4回 Describing people 第5回 Families 第6回 Daily routines and life events 第7回 Mid-term self-study and/or review 第8回 Food preparation and safety. Ordering. 第9回 Health and wellness. 第10回 City streets, maps, directions. 第11回 Jobs and occupations 第12回 Leisure and entertainment 第13回 The wider world 第14回 Review and/or self-study 第15回 Final oral presentation		
成績評価の方法	Class participation 20% Class work 50% Final oral presentation 30%		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	James Scott
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Talking about one's own ideas and feelings</p> <p>【概要】 Students will share their ideas regarding a wide range of topics</p> <p>【到達目標】 To improve students' skills in communicating their ideas and feelings in English</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Active Skills for Communication by Chuck Sandy and Curtis Kelly. Publisher: Heinle (Cengage Learning)		
授業スケジュール	第1回 Introduction to the course. 第2回 Class Album 第3回 Favorite Photos 第4回 Personal Goals 第5回 Self-Improvement Plan 第6回 Believe It or Not 第7回 Where I grew up 第8回 Bargain Shopper 第9回 Flea Market 第10回 第11回 第12回 (Note: Each of the themes referred to above will probably take two class sessions) 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法	Class participation, Oral Examination		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語で鹿児島を紹介し、国際的なコミュニケーション力の養成。 Using English to introduce familiar aspects of life in Kagoshima and to enhance international communication skills.</p> <p>【概要】学生は日本とその文化、特に鹿児島での生活について学びたがっているアメリカ人 ペンパルとの会話をノートに書き留めていきます。 Students maintain notebooks as they develop a dialogue with an American pen pal who seeks to learn about Japan, its customs, and specifically life in Kagoshima.</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、同世代のペンパルとのやりとりによって、意思疎通をスムーズに出来るようにする。情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略(言い換え、繰り返し、強調等)をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。To practice non-academic English and basic writing skills by developing a sustained dialogue with an English speaker of a similar age and interests. Grammar is studied in the context of a cultural exchange.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 無印良品ノート (21×14.5 cm) (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回: 紹介 Introduction 第2回~第6回: リーディング, ディスカッション, 手紙の内容把握 第7回: 小テスト(文法問題や内容把握等) 第8回~第14回: リーディング, ディスカッション, 手紙の内容把握 15回: 小テスト(文法問題や内容把握等)		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の割合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のコミュニケーション能力を向上する授業</p> <p>【概要】リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、または馴染みのあるコンテキストにおいて、相手の情報や考えを理解でき、つなぎことばを用いるなどして(時には相手の援助を得て)、不自然な沈黙がない程度に相手と意思疎通がとれる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Buckingham & Whitney, <i>Passport to New Places</i> , Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit 1 第3回 Unit 2 第4回 Unit 3 第5回 Unit 4 第6回 Unit 5 第7回 Review unit 第8回 Unit 1-5 quiz 第9回 Unit 6 第10回 Unit 7 第11回 Unit 8 第12回 Unit 9 第13回 Unit 10 第14回 Review unit 第15回 Unit 6-10 quiz		
成績評価の方法	授業での参加の割合 (35%), クイズ/授業での発表 (65%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	Brian Pedersen
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The theme of this course is acquiring the language skills to function in a college setting, being able to explain to others one's situation and ask relevant questions of others to aid conversation.</p> <p>【概要】 Using topics centered around daily college life lessons are centered on a basic structure, allowing students to create many meaningful sentences. Students learn how to avoid making the kinds of mistakes which typically hinder conversation such as long silences and overly short answers.</p> <p>【到達目標】 A successful outcome for this course would be students with a good grounding in structures and vocabulary that are relevant to their situation, acquired through enjoyable and focused drilling.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Conversations in class New edition Alma publishing		
授業スケジュール	第1回 Introductions 第2回 Sounding natural- Silence and conversation 第3回 Daily life 第4回 University life 第5回 Directions 第6回 Skills 第7回 Mid-term Review and/or self-study 第8回 Family 第9回 Travel 第10回 Free time 第11回 Money 第12回 Hometown 第13回 Future 第14回 Review and/or self-study 第15回 Final oral presentation		
成績評価の方法	Class participation 70% Final oral presentation 30%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。</p> <p>【概要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で、実用的な英語を学ぶ授業をする。</p> <p>【到達目標】 日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略(言い換え、繰り返し、強調等)をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Angela Buckingham Miles (Raven, David Williamson) 『GET REAL』 Macmillan ISBN 978-4-7773-6075-8 税込 2,400 円		
授業スケジュール	第1回 It's my birthday on July 3 rd 第2回 What do people do at Christmastime? 第3回 Why don't we have a party? 第4回 I'll have soup, please 第5回 I like jazz a lot. 第6回 I hate horror movies. 第7回 Review 1 第8回 How far is it to the airport? 第9回 How high is Mount Everest? 第10回 He went to Hollywood in 1996. 第11回 I got engaged in January. 第12回 How much rice do you want? 第13回 How much paper do you recycle? 第14回 Review 2 第15回 Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (C)	担当者	Simon Runswick
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The basic theme of this course is everyday communication in a wide variety of situations such as shopping, asking directions etc.</p> <p>【概要】 In this class the students will be introduced to a variety of everyday English for many basic communication needs. The students will practice the various language functions through different activities including pair work and role play.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to improve the overall communicative abilities of the students in everyday situations.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <u>ENGLISH FIRSTHAND 1</u> Marc Helgesen et al. Longman Asia ELT (2)		
授業スケジュール	第1回 Introductions and Asking Questions 第2回 Describing People 第3回 Schedules and Frequency 第4回 Describing locations 第5回 Giving Directions 第6回 Past activities 第7回 Review 第8回 Talking about the Past 第9回 Getting Information 第10回 Plans 第11回 Predictions 第12回 Shopping 第13回 Following Instructions 第14回 Personal Interests and Opinions 第15回 Review		
成績評価の方法	This class will be assessed based on the weekly performance of students as they participate in activities and on a final oral test.		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	English II (C)	担当者	Andrew Daniels
	[履修年次] 1st year [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to help students develop speaking strategies in basic English conversation situations. Working around units from a set textbook, students will be encouraged to give their own opinions as well as finding out the views of their classmates through participating in group discussions.</p> <p>【概要】 Students will work on listening and speaking skills to develop their confidence in familiar scenarios.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be on trying to reduce unnatural silence and practicing transitional or filler words to create natural, friendly conversations that students can reproduce easily.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Talk Time (Student Book 2) by Susan Stempleski (Oxford University Press) (2)		
授業スケジュール	第1回-第7回 Key topics from the first half of the textbook Jobs/Weekend activities/Music/ Vacations 第8回 Review Quiz 第9回-第14回 Key topics from later chapters of the textbook Clothes and Fashion/Cooking/ Places around Town 第15回 Final Oral Review		
成績評価の方法	In class short presentations 30% Short vocabulary tests 20% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 30%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(A)	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語のコミュニケーション能力を向上する授業 【概要】 前期のつづきで、リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。 【到達目標】 コミュニケーション能力の4つの要素（文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力の向上を向上させていく。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Buckingham & Whitney, <i>Passport to New Places</i> , Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit 11 第3回 Unit 12 第4回 Unit 13 第5回 Unit 14 第6回 Unit 15 第7回 Review unit 第8回 Unit 11-15 quiz 第9回 Unit 16 第10回 Unit 17 第11回 Unit 18 第12回 Unit 19 第13回 Unit 20 第14回 Review unit 第15回 Unit 16-20 quiz		
成績評価の方法	授業での参加の度合（35%）、クイズ/授業での発表（65%）		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(B)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 この授業のテーマは、ショートドラマや映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」に触れながら、リスニングを中心にコミュニケーションに必要な英語力をつけていくことです。 【概要】 授業の前半では、洋楽を使ったエクササイズや、チャンツ（リズム練習）・パラレルリーディング（音声を聞きながらの音読）・シャドーイングなどの口頭練習で、楽しみながら英語の音声変化やリズム・イントネーションに慣れ、「自然な発音聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。 授業の後半では、ニューヨークに住む6人の男女が繰り広げるショートドラマによるリスニング演習で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、日常生活で役立つ会話表現や語彙を学習していきます。 さらにコースの後半では応用編として映画を利用したリスニング演習を取り入れ、ストーリーを楽しみながら、よりナチュラルな「生きた自然な英語」のリスニング演習に取り組みます。 【到達目標】 日常生活になじみのある場面において、ナチュラルスピードに近い自然な英語での発話の意図を理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目指します。		
(1) テキスト	Susan Stempleski 著, <i>World Link Video Course Intro</i> . 出版社: トムソン		
授業スケジュール	<毎回, LL 教室を使用> 第1回: オリエンテーション / 授業内容と進め方について 第2回: Please Call me Dave. / 自己紹介 第3回: Where is it? / 英語でゲーム 第4回: A Cool Gift / ショッピングで使う表現 (1) 第5回: Takeshi's Food Video / 食べ物・食習慣を英語で表現 第6回: Meals & Likes and Dislikes / 食習慣についての簡単なインタビューを聴く 第7回: Welcome to New York! / 住生活・友達との再会 第8回: Dear Mum and Dad / 日常生活を英語で表現 (1) 第9回: Mike's "Busy" Day / 日常生活を英語で表現 (2) 第10回: Times and Schedules / 日常生活についての簡単なインタビューを聴く 第11回: What do I wear to the party? / ショッピングで使う表現 (2) 第12回: 映画を利用したリスニング演習 (1) 第13回: 映画を利用したリスニング演習 (2) 第14回: 映画を利用したリスニング演習 (3) 第15回: まとめと試験		
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(C)	担当者	塚崎 香織
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリスの暮らしと文化に関する読み物を通して、日英の文化の違いについて学ぶ。英語を読む際に必要なさまざまなスキルを身につけるとともに、各章のテーマに関連した語彙を習得する。リーディング、リスニング、ライティングに関連づけた活動を行う。</p> <p>【概要】主に、必要な情報を探して素早く英文を読む、概要・要点を大まかに把握する、パラグラフの構造を理解する、わからない単語の意味を推測するなどのスキルを練習する。</p> <p>【到達目標】英語を読む際に必要なさまざまなスキルを駆使して、英文の内容を把握できる。英文を聞いて、内容を把握できる。自分が伝えたいことを簡単な英文で表現できる。教科書のテーマごとに関連した語彙を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Terry O'Brien, Miwa Uhara and Hiroshi Kimura / <i>Gateway to Britain</i> (南雲堂) 特になし		
授業スケジュール	第1回 Check In and Work Out: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第2回 What Will the Weather Be Like?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第3回 A London without Red Buses?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第4回 Back to the Future: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第5回 Shop'n'Chat: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第6回 More Than Just a Post Office: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第7回 Off the Beaten Path: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第8回 Pubs in Decline: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第9回 Dining Out Diversity: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第10回 Afternoon Tea: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第11回 The Beatles Are Forever: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第12回 Football: Sport or Business?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第13回 The Royal Family or TV Melodrama?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第14回 Preserving Britain: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごとに実施する小テスト・レポート等 (40%)		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(D)	担当者	太田 一郎
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実 (初中級～中級レベル)</p> <p>【概要】(1)ビデオ等の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習 ビデオ教材等で日常の会話で使用される生の英語にふれ、英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。</p> <p>(2)シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで、英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材及び副教材を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し、情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)プリント等による (2) 授業中に適宜指示する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2～13回 シャドーイング等によるリスニング・スピーキングの訓練 第14回 朗読試験 第15回 まとめと試験 【注意】LL教室を使つての授業なので、遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	平常点30%と試験70%。試験は朗読と筆記の二種類		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(E)	担当者	ティムソン デイビット
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 Developing oral communication skills and learning to express ideas and opinions in English. 【概要】 アメリカ英語におけるスピーキングの修正とリスニング・アクティビティを主におこなう。このコースでは、生徒が自信を持って自分の考えや意見をペア・アクティビティやグループ・アクティビティで表現できるように、興味深い革新的で幅広いトピックを取り上げる。ネイティブ・スピーカーの自然な会話の録音をリスニングの教材として使用するリスニング・アクティビティにより、リスニングスキルを向上させる。 【到達目標】 4つのコミュニケイティブ・スキル (reading, writing, listening, speaking) を上達させる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定		
授業スケジュール	第1回 Interests and Hobbies 第2回 Health 第3回 Holidays 第4回 Shopping 第5回 Movies 第6回 Sports 第7回 Travel 第8回 Hotel 第9回 Social Issues 第10回 Culture 第11回 Appearances 第12回 Work 第13回 Memories 第14回 Restaurant 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (80%) + 宿題, 授業中に行う小テストの成績 (20%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(F)	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。 【概要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で、実用的な英語を学ぶ授業をする。 【到達目標】 日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略（言い換え、繰り返し、強調等）をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	Tom Kenny & Linda Woo 『Nice Talking With You I 』 ISBN 976-0-521-18808-1 Cambridge University Press 税込 2,100 円		
授業スケジュール	第1回 Introductions 第2回 Family 第3回 Shopping 第4回 Food 第5回 Music 第6回 Free time 第7回 Review 1 第8回 Travel 第9回 Sports 第10回 Friends 第11回 Work 第12回 Movies 第13回 Personal tech 第14回 Review 2 第15回 Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(G)	担当者	James Scott
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This class will focus almost exclusively on speaking and listening</p> <p>【概要】 Students will spend most of their time telling and listening to stories about themselves and others.</p> <p>【到達目標】 To improve students' speaking and listening skills</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) <i>Tell Me Your Stories</i>, by Bob Jones and David Coulson (2) Publisher: MacMillan Language House</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction. 第2回 Talking about movies. 第3回 Talking about bad luck and minor accidents. 第4回 Describing our feelings about things that have happened. 第5回 Talking about happy events and achievements. 第6回 Showing interest and responding to other peoples stories. 第7回 Making comments while listening / adding a story of our own. 第8回 Talking about a time when one bad thing happened after another. 第9回 Talking about one' s childhood. 第10回 Telling interesting stories about people we know. 第11回 Adding interesting stories to conversation / Explaining words we don` t know. 第12回 (Each topic will probably require about one and a half class periods) 第13回 第14回 第15回</p>		
成績評価の方法	Class participation, oral examination		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(H)	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 多様な題材を扱った英文を精読することで、英文を正確に速読する力を養う。</p> <p>【概要】 英文を読むとき、意味のまとまり（フレーズ）ごとに区切って、前から後ろへと英語の語順で読解していく方法を「フレーズ・リーディング」といいます。英文を「戻り読み」せず、「フレーズ・リーディング」することで、意味のまとまりを意識し、より正確にまたより迅速に英文を読解することができるようになります。授業では「フレーズ・リーディング」を基本的読解法と位置付け、身近な話題から時事問題までを扱った多種多様な英文を題材に、幅広い語彙力を養いながら多読、速読の技術を修得します。</p> <p>【到達目標】 多様なジャンルの英文を、より迅速により深く読めることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 田村朋子 他著 <i>Phrase Reading</i> (センテージラーニング) (2) 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 Extreme Ironing 第3回 Food and Culture 第4回 Life after Death? 第5回 Addicted to the Mall 第6回 The Working Poor 第7回 A Child Hero 第8回 Don't Be Fooled Again 第9回 The Government Department of Dating and Marriage 第10回 Undercover Marketing 第11回 A Healthy Diet for Everyone 第12回 Anger around the World 第13回 Online Dating Goes Mainstream 第14回 リーディング力UP講座 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験（80%），提出物（10%），授業への取組み態度（10%）で評価する。		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(A)	担当者	ジェイムズ スコット
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テーマは、中級程度(レベルで言えば、TOEIC 500~650 英検 2級)のコミュニケーション能力の育成にある。</p> <p>【概要】 このコースでは、英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能(スキル)を受講生が身に付けることができるようにする。そのために、受講生は自分自身の意見を英語で表明したり、英語で述べられる他者の意見を尊重したりして、大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。</p> <p>【到達目標】 コミュニケーション能力の4つの要素(文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力)をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al. Publisher: Longman Asia ELT		
授業スケジュール	<p>第1回: Introduction to the Course--Discussing course objectives (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第2回: "Do you remember when?" --Talking about the past (1) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(1))</p> <p>第3回: "Do you remember when?" --Talking about the past (2) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(2))</p> <p>第4回: "Making plans"--Planning to do something (1) (計画の作成ー物事をするための計画(1))</p> <p>第5回: "Making plans"--Planning to do something (2) (計画の作成ー物事をするための計画(2))</p> <p>第6回: "What should I do?" --Asking for and giving advice (1) (何をすべきかー忠告を求め尋ねる方法(1))</p> <p>第7回: "What should I do?" --Asking for and giving advice (2) (何をすべきかー忠告を求める方法と尋ねる方法(2))</p> <p>第8回: "Tell me a story"--Storytelling (1) (物語の語り方ーその方法(1))</p> <p>第9回: "Tell me a story"--Storytelling (2) (物語の語り方ーその方法(2))</p> <p>第10回: "In my opinion"--Expressing opinions (1) (私の意見ではー意見の表明の仕方(1))</p> <p>第11回: "In my opinion"--Expressing opinions (2) (私の意見ではー意見の表明の仕方(2))</p> <p>第12回: "Looking ahead"--Talking about the future (1) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(1))</p> <p>第13回: "Looking ahead"--Talking about the future (2) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(2))</p> <p>第14回: "Looking ahead"--Talking about the future (3) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(3))</p> <p>第15回: 定期試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験(70%) + クラス活動への参加(30%)を基準に、総合的に評価する。		

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(B)	担当者	Simon Runswick
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The main theme of this class is listening and speaking skills in a variety of day-to-day interactions.</p> <p>【概要】 In this class the students will be presented with a range of listening and speaking activities in a variety of situations. The course will focus on developing the skills needed to successfully communicate in and comprehend day-to-day situations.</p> <p>【到達目標】 The basic aim of this course is to revise and improve the students listening and speaking skills.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) NORTH STAR Focus on Listening and Speaking – Basic L. Frazier and R. Mills Longman Asia ELT (2)		
授業スケジュール	<p>第1回 Jobs</p> <p>第2回 The Country</p> <p>第3回 The City</p> <p>第4回 Money</p> <p>第5回 Shopping</p> <p>第6回 Questioning styles</p> <p>第7回 Review</p> <p>第8回 Sports and Competition</p> <p>第9回 Male and Female Roles</p> <p>第10回 Food</p> <p>第11回 Vacations</p> <p>第12回 Polite Requests</p> <p>第13回 Staying Healthy</p> <p>第14回 Agreement and Disagreement</p> <p>第15回 Review</p>		
成績評価の方法	This class will be assessed based on the weekly performance of students as they participate in activities and on a final listening and oral test.		

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(C)	担当者	ジェイムズ スコット
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマは、中級程度（レベルで言えば、TOEIC 500～650 英検 2 級）のコミュニケーション能力の育成にある。</p> <p>【概要】このコースでは、英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能（スキル）を受講生が身に付けることができるようにする。そのために、受講生は自分自身の意見を英語で表明したり、英語で述べられる他者の意見を尊重したりして、大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。</p> <p>【到達目標】コミュニケーション能力の4つの要素（文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al. Publisher: Longman Asia ELT		
授業スケジュール	<p>第1回：Introduction to the Course--Discussing course objectives (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第2回："Do you remember when?" --Talking about the past (1) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(1))</p> <p>第3回："Do you remember when?" --Talking about the past (2) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(2))</p> <p>第4回："Making plans"--Planning to do something (1) (計画の作成ー物事をするための計画(1))</p> <p>第5回："Making plans"--Planning to do something (2) (計画の作成ー物事をするための計画(2))</p> <p>第6回："What should I do?" --Asking for and giving advice (1) (何をすべきかー忠告を求め尋ねる方法(1))</p> <p>第7回："What should I do?" --Asking for and giving advice (2) (何をすべきかー忠告を求める方法と尋ねる方法(2))</p> <p>第8回："Tell me a story"--Storytelling (1) (物語の語り方ーその方法(1))</p> <p>第9回："Tell me a story"--Storytelling (2) (物語の語り方ーその方法(2))</p> <p>第10回："In my opinion"--Expressing opinions (1) (私の意見ではー意見の表明の仕方(1))</p> <p>第11回："In my opinion"--Expressing opinions (2) (私の意見ではー意見の表明の仕方(2))</p> <p>第12回："Looking ahead"--Talking about the future (1) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(1))</p> <p>第13回："Looking ahead"--Talking about the future (2) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(2))</p> <p>第14回："Looking ahead"--Talking about the future (3) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(3))</p> <p>第15回：定期試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + クラス活動への参加 (30%) を基準に、総合的に評価する。		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(D)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」にふれながら、リスニングとスピーキングを中心に英語でのコミュニケーションに必要な力をつけていくことです。</p> <p>【概要】映画を使った英語学習には、(1) ストーリーを楽しみながら英語を学べる、(2) オーセンティックな(本物の)英語のシャワーを受けながら英語学習ができる、(3) 会話表現・フレーズとそれを使う場面・状況をセットで学習できる、などの利点があります。</p> <p>授業では、1本の映画(『ゴースト』<サスペンス・ラブストーリー>)を14回に分けて使用し、ストーリーを楽しみながら、ナチュラルスピードの英語の聞き取り演習に取り組んでいくとともに、日常生活で使われる口語表現や語彙を学習していきます。さらに、英語のセリフをモデルとしたパラレルリーディング(音声を聞きながらの音読練習)やロールプレイで、英語らしいリズムやイントネーションで話せるように発音練習をしていきます。</p> <p>また、日・英セリフの対比や、英語セリフ・日本語セリフ作成演習を通して、ことばの表現力を高めていきます。</p> <p>【到達目標】日常生活のなじみのある場面において、ナチュラルスピードの自然な英語での発話の意図を理解できる英語力、それに簡潔に対応できる/自分の意思を表現できる英語力の習得を目標とします。</p>		
(1) テキスト	(1) 教師作成のプリントを毎回使用します。		
授業スケジュール	<p><毎回、LL教室を使用></p> <p>第1回：授業内容と進め方 / 映画を使った英語学習について</p> <p>第2回：The Loft / 友人同士の会話(新居)</p> <p>第3回：Unchained Melody / 同僚との会話(オフィス)</p> <p>第4回：Life After Death / 恋人との会話(路上)</p> <p>第5回：Willy Lopez / 友人との会話(自宅)</p> <p>第6回：Spiritual Adviser / 初対面の相手との会話(店内)</p> <p>第7回：The Truth / 初対面の相手との会話(店内)</p> <p>第8回：Molly's Apartment / 知人との会話(自宅)</p> <p>第9回：The Police Station / 警察官との会話(警察)</p> <p>第10回：Rita Miller / 顧客との会話(銀行)</p> <p>第11回：Revenge / 友人との会話(自宅)</p> <p>第12回：The Penny / 知人との会話(自宅)</p> <p>第13回：With All my Heart / 知人との会話(自宅)</p> <p>第14回：Last Chance / 恋人との会話</p> <p>第15回：まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業への参加と取り組み (20%) + 復習のための小テスト・セリフ作成課題など (40%) + 定期試験 (40%)		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(E)	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ビジネスで使える英語を学ぶ。</p> <p>【概要】 オフィスでの簡単な英会話から、電話の応対、FAX・電子メールのやり取りをアクティビティを通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】 限定された、職場において必要とされる英語を理解し、日常の業務を適切に遂行できる英語力を養成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Tae Kudo 『First Steps to Office English』 Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-180-5 税込 2,205 円		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン 自己紹介 コース説明 第 2回 It's nice to meet you. 第 3回 What does 'FYI' mean? 第 4回 May I speak to Mr.Yoshioka? 第 5回 May I take a message? 第 6回 I have a headache. 第 7回 I have another appointment at 9:30. 第 8回 Would you like something to drink? 第 9回 Let's go out for a drink. 第 10回 How was your weekend? 第 11回 The sales department is on the 3 rd floor. 第 12回 Turn right on Main Street. 第 13回 First, press the start button. 第 14回 I'd like to check in. 第 15回 Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 期末テスト 40%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(F)	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テーマは、TOEIC 500点以上の取得、英検2級取得を目指すように、学生の語彙力を増やし、英文法を再確認させ、長文読解のコツを身に付けさせて、英語学習への意欲を高める。</p> <p>【概要】 授業では、高校で学習した英文法の基礎知識を再確認させる。テキストは毎回2章ずつ進むので、予習が必要となる。また、授業中に語彙力・文法力・並べ換えによる作文力・メール文の読解力を高める問題に取り組みさせる(プリント学習)。担当者が解説を試み、間違った箇所をチェックさせることで、受講生の英語力のアップをはかり、学習意欲が高まるような工夫を凝らす。リスニング問題にも取り組めるようにLL教室を使用する。</p> <p>【到達目標】 受講生がTOEIC 500点以上の取得あるいは英検2級の取得を目指すような英語力を身に付けることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 小池直己・佐藤誠司『5分間 実践英文法』南雲堂 適宜、プリントによる問題も配布する。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明) 第 2回 Unit 1~2 動詞 第 3回 Unit 3~4 不定詞 第 4回 Unit 5~6 分詞 第 5回 Unit 7~8 動名詞 第 6回 Unit 9~10 代名詞 第 7回 Unit 11~12 関係詞 第 8回 Unit 13~14 前置詞 第 9回 Unit 15~16 接続詞・時制 第 10回 Unit 17~18 形容詞 第 11回 Unit 19~20 副詞 第 12回 Unit 21~22 比較 第 13回 Unit 23~24 助動詞, 受動態 第 14回 Unit 25~26 仮定法, 語法 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60%), 予習を含む授業への取り組み (40%)		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	英語Ⅳ(G)	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英文読解力と語彙力の養成 【概要】 4年制大学編入を視野に入れて、構文と論理の組み立てを追いながら、英文を正確に読む練習をする。 【到達目標】 構文と論理展開を手がかりにして英文を正確に読めるようになる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 英検2級・TOEFL 対策長文問題集, 吉田晴世, 吉田信介, 松柏社。その他参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 英文読解演習(1) 第3回 英文読解演習(2) 第4回 小テスト(1) 第5回 英文読解演習(3) 第6回 英文読解演習(4) 第7回 英文読解演習(5) 第8回 英文読解演習(6) 第9回 小テスト(2) 第10回 英文読解演習(7) 第11回 英文読解演習(8) 第12回 英文読解演習(9) 第13回 英文読解演習(10) 第14回 英文読解演習(11) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト (40%) + 試験 (30%) + 授業への参加状況 (30%)		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	異文化コミュニケーション (英語)	担当者	英語担当教員全員
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジで研修を行う。授業は英語研修とアメリカ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2010年度ハワイ研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/3(金)～9/19(日) ・参加者 14名 ・研修費用 約29万円(授業料, 往復航空券, 滞在費, 朝食と昼食の食費, 保険料) <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジの担当教員が指示		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学コミュニティカレッジでの研修内容の説明, 海外渡航に伴う種々の事柄の説明, 前もって課題(レポート作成)の指示。</p> <p>海外研修 9月を予定(約2週間), 現地の大学で午前中に英語の授業, 午後に文化に関する授業(フラダンス, レイ作り, ハワイの文化, ハワイの植物), その他学外授業としての見学。</p> <p>事後指導 帰国後に総括</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題(研修日誌, 体験記)(50%)とハワイでの研修状況(50%)で評価する。		

授業科目	異文化コミュニケーション (中国語)	担当者	中国語担当教員全員
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>※2010年度中国研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程: 8月28日(土)～9月11日(土) [15日間] ・参加者: 13名(文学科日本語日本文学専攻5名, 英語英文学専攻2名, 商経学科経済専攻3名, 経営情報専攻3名) ・費用: 約14万円(授業料, 往復航空券, 寮の滞在費, 南京市内・市外の見学費用) <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行います。</p> <p>[1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明, [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明, [3] 課題(レポート作成)の指示などです。</p> <p>海外研修 9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題, および中国での学習成果を基に成績を算出します。		

授業科目	ドイツ語Ⅰ	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。</p> <p>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 秋田静男 他『ドイツ語インフォメーション』朝日出版社 (2) 在間進他『アクセス独和辞典 第3版』三修社		
授業スケジュール	第1回 ドイツ（文化圏）とドイツ語について、文字・アルファベット 第2回 発音と綴り字 第3～5回 第0課 第6～8回 第1課 第9～10回 第2課 第11～13回 第3課 第14回 復習と試験準備 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験90%、授業への参加状況10%		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	ドイツ語Ⅱ	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。</p> <p>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 秋田静男 他『ドイツ語インフォメーション』朝日出版社 (2) 在間進他『アクセス独和辞典 第3版』三修社		
授業スケジュール	第1～3回 第4課 第4～6回 第5課 第7～9回 第6課 第10～12回 第7課 第13～14回 復習と試験準備 第15回 まとめと定期試験		
成績評価の方法	筆記試験90%、授業への参加状況10%		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	フランス語Ⅰ	担当者	小澤 晃
	[履修年次] 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>フランス語は国際語としてきわめて重要な言語の一つであり、世界の各地で外国語として広く学習されている。系統的にはラテン語の子孫であるから、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などは姉妹語の関係にあり、これらとは実際よく似ている。また11世紀に英語に多数の語彙をもたらしたため、英語ともきわめて類似点が多い。</p> <p>この授業ではゆっくりとしたスピードで、フランス語の発音・綴字の読み方、初歩的な文法と単語、日常的な会話表現などを学習する。それと並行して、フランスの社会や文化についても解説する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「はじめてのバリー新・改訂版」, 大津俊克他著, 朝日出版社 (2) 特に必要としない		
授業スケジュール	第1回～第3回 あいさつの表現, 名詞, 冠詞, 縮約冠詞 第4回～第6回 主語人称代名詞, être, 所有形容詞 第7回～第9回 提示の表現, avoir, 形容詞 第10回～第12回 第一群規則動詞, 否定文 第13回～第14回 人称代名詞強勢形, il y a 第15回 試験		
成績評価の方法	筆記試験(期末試験) (100%)		

授業科目	フランス語Ⅱ	担当者	小澤 晃
	[履修年次] 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>フランス語は国際語としてきわめて重要な言語の一つであり、世界の各地で外国語として広く学習されている。系統的にはラテン語の子孫であるから、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などは姉妹語の関係にあり、これらとは実際よく似ている。また11世紀に英語に多数の語彙をもたらしたため、英語ともきわめて類似点が多い。</p> <p>この授業ではゆっくりとしたスピードで、フランス語の発音・綴字の読み方、初歩的な文法と単語、日常的な会話表現などを学習する。それと並行して、フランスの社会や文化についても解説する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「はじめてのバリー新・改訂版」, 大津俊克他著, 朝日出版社(「フランス語Ⅰ」からの継続使用) (2) 特に必要としない		
授業スケジュール	第1回～第3回 指示形容詞, 疑問文, prendre 第4回～第6回 非人称構文, aller, venir, 疑問形容詞 第7回～第9回 中性代名詞, 命令法, faire, 疑問副詞 第10回～第12回 疑問代名詞, 補語人称代名詞, finir 第13回～第14回 複合過去形, 比較級, 最上級 第15回 試験		
成績評価の方法	筆記試験(期末試験) (100%)		

授業科目	中国語 I (A)	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法			

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (B)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (1) 【概要】 中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。 【到達目標】 中国語検定準 4 級程度 (後期終了時の目標)		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 尹景春・竹島毅著『中国語まじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン、声調、短母音 第 2回 子音、複合母音、-n、-ng を伴う母音 第 3回 簡単な挨拶、自分の名前を中国音で読む 第 4回 決まり文句 第 5回 第 1 課 (1) 第 6回 第 1 課 (2) 第 7回 第 2 課 (1) 第 8回 第 2 課 (2) 第 9回 第 3 課 (1) 第 10回 第 3 課 (2) 第 11回 第 4 課 (1) 第 12回 第 4 課 (2) 第 13回 第 5 課 (1) 第 14回 第 5 課 (2) 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への参加状況 (50%)		

(注) 日本語日本文学専攻、英語日本文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (C)	担当者	尾崎 孝宏
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (1)</p> <p>【概要】 中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション、声調、短母音 第2回 子音、複合母音、-n, -ngを伴う母音 第3回 簡単な挨拶、自分の名前を中国語で読む 第4回 決まり文句 第5回 第1課 (1) 第6回 第1課 (2) 第7回 第2課 (1) 第8回 第2課 (2) 第9回 第3課 (1) 第10回 第3課 (2) 第11回 第4課 (1) 第12回 第4課 (2) 第13回 第5課 (1) 第14回 第5課 (2) 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への参加状況 (50%)		

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (D)	担当者	中筋 健吉
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】 中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】 中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 戸沼市子他『緑日はとてにもぎやか』(スリム版) (郁文堂)		
授業スケジュール	<p>第1回 発音篇 I～II 中国語の声調、単母音、複母音、-n, -ng 第2回 発音篇 III 中国語のそり舌音 z(i) c(i) s(i)の音 第3回 発音篇 IV 音節表—ピンイン読みのおさどころ 声調変化 第4回～第5回 本文篇 第1課 庙会很热闹……………述語が形容詞の文 “吗”と“不” 第6回～第7回 本文篇 第2課 买东西……………動詞述語文、疑問詞疑問文 “…的” 第8回～第9回 本文篇 第3課 他们都是留学生……………“是”と所有の“有” 反復疑問文 量詞 第10回～第11回 本文篇 第4課 天坛在哪儿……………所在の“在”と存在の“有” 選択疑問文 “几”と“多少” 第12回～第13回 本文篇 第5課 他会开车……………助動詞—可能 願望 義務 連動文 第14回 まとめと映画鑑賞 第15回 試験</p> <p>*状況に応じてスケジュールを変更することがあります。</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)		

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (E)	担当者	三木 夏華
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース 【概要】 中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。 【到達目標】 1 ビンインが読めるようになる。 2 自己紹介など簡単な会話能力を身につける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「始めよう!中国語」 白水社 南雲智, 趙暉 著 (2) 授業で紹介する		
授業スケジュール	第1回 発音 声調 第2回 " " 第3回 人称代名詞 指示代名詞 第4回 疑問詞 第5回 名詞判断文 第6回 動詞 助動詞 第7回 "的" について 第8回 形容詞述語文 第9回 助動詞 第10回 日付 曜日 時刻の言い方 第11回 "有" 構文 第12回 "在" 構文 第13回 比較文 第14回 反復疑問文 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験50% + 授業での発言内容, 復習・課題の状況 50%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (F)	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 単語で作文 I 【概要】 1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい, それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして, 書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば, 外国語もそれほど難しくはないものです。 もちろん外国語ですから最初は発音から入り, それから徐々に単語を増やしていきます。そのほか, 理解度を確認するため筆記の小テストを毎回実施します。 中国を知ろう, 中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき, 中国語はじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため, 中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準4級, 漢語水平考試 HSK 基礎1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教員研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 発音 (1) 声調と母音 第3回 発音 (2) 子音 第4回 発音 (3) 発音のまとめ 第5回 発音 (4) 表記の規則 第6回 作文 (1) 名前 (1) 第7回 作文 (2) 名前 (2) 第8回 作文 (3) 数字 (1) 第9回 作文 (4) 数字 (2) 第10回 作文 (5) 簡単な動詞 (1) 第11回 作文 (6) 簡単な動詞 (2) 第12回 作文 (7) 意思表示 (1) 第13回 作文 (8) 意思表示 (2) 第14回 作文 (9) 意思表示 (3) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	作文と小テスト50%, 定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (G)	担当者	中筋 健吉																																								
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式																																								
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】 中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】 中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>																																										
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 戸沼子子他『縁日はとてにぎやか』(スリム版) (郁文堂)																																										
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>発音篇</td><td>I~II</td><td>中国語の声調、単母音、複母音、-n, -ng</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>発音篇</td><td>III</td><td>中国語のそり舌音 z(i) c(i) s(i)の音</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>発音篇</td><td>IV</td><td>音節表—ピンイン読みのおさえどころ 声調変化</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>~第5回</td><td>本文篇</td><td>第1課 庙会很热闹………述語が形容詞の文 “吗”と“不”</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>~第7回</td><td>本文篇</td><td>第2課 买东西………動詞述語文、疑問詞疑問文 “…的”</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>~第9回</td><td>本文篇</td><td>第3課 他们都是留学生……“是”と所有の“有” 反復疑問文 量詞</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>~第11回</td><td>本文篇</td><td>第4課 天坛在哪儿………所在の“在”と存在の“有” 選択疑問文“几”と“多少”</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>~第13回</td><td>本文篇</td><td>第5課 他会开车………助動詞—可能 願望 義務 連動文</td></tr> <tr><td>第14回</td><td colspan="3">まとめと映画鑑賞</td></tr> <tr><td>第15回</td><td colspan="3">試験</td></tr> </table> <p>*状況に応じてスケジュールを変更することがあります。</p>			第1回	発音篇	I~II	中国語の声調、単母音、複母音、-n, -ng	第2回	発音篇	III	中国語のそり舌音 z(i) c(i) s(i)の音	第3回	発音篇	IV	音節表—ピンイン読みのおさえどころ 声調変化	第4回	~第5回	本文篇	第1課 庙会很热闹………述語が形容詞の文 “吗”と“不”	第6回	~第7回	本文篇	第2課 买东西………動詞述語文、疑問詞疑問文 “…的”	第8回	~第9回	本文篇	第3課 他们都是留学生……“是”と所有の“有” 反復疑問文 量詞	第10回	~第11回	本文篇	第4課 天坛在哪儿………所在の“在”と存在の“有” 選択疑問文“几”と“多少”	第12回	~第13回	本文篇	第5課 他会开车………助動詞—可能 願望 義務 連動文	第14回	まとめと映画鑑賞			第15回	試験		
第1回	発音篇	I~II	中国語の声調、単母音、複母音、-n, -ng																																								
第2回	発音篇	III	中国語のそり舌音 z(i) c(i) s(i)の音																																								
第3回	発音篇	IV	音節表—ピンイン読みのおさえどころ 声調変化																																								
第4回	~第5回	本文篇	第1課 庙会很热闹………述語が形容詞の文 “吗”と“不”																																								
第6回	~第7回	本文篇	第2課 买东西………動詞述語文、疑問詞疑問文 “…的”																																								
第8回	~第9回	本文篇	第3課 他们都是留学生……“是”と所有の“有” 反復疑問文 量詞																																								
第10回	~第11回	本文篇	第4課 天坛在哪儿………所在の“在”と存在の“有” 選択疑問文“几”と“多少”																																								
第12回	~第13回	本文篇	第5課 他会开车………助動詞—可能 願望 義務 連動文																																								
第14回	まとめと映画鑑賞																																										
第15回	試験																																										
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)																																										

(注) 生活科学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (H)	担当者	陳 躍																														
	[履修年次] 1, 2年 (注)	[学期] 前期	[授業形態] 演習方式																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楽しい中国語会話</p> <p>【概要】 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準四級、漢語水平考試HSK基礎1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>我是上海人</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>我叫王平</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>这里是南京路</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>现在几点了?</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>今天是星期几?</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>你家有几口人?</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>没关系 (映画)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>香港的夏天热吗? (映画)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>四川菜很好吃</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>我经常散步</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>牌价是多少?</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>汉语难不难?</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>我没吃蒜</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>我想去超市</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>テスト</td></tr> </table>			第1回	我是上海人	第2回	我叫王平	第3回	这里是南京路	第4回	现在几点了?	第5回	今天是星期几?	第6回	你家有几口人?	第7回	没关系 (映画)	第8回	香港的夏天热吗? (映画)	第9回	四川菜很好吃	第10回	我经常散步	第11回	牌价是多少?	第12回	汉语难不难?	第13回	我没吃蒜	第14回	我想去超市	第15回	テスト
第1回	我是上海人																																
第2回	我叫王平																																
第3回	这里是南京路																																
第4回	现在几点了?																																
第5回	今天是星期几?																																
第6回	你家有几口人?																																
第7回	没关系 (映画)																																
第8回	香港的夏天热吗? (映画)																																
第9回	四川菜很好吃																																
第10回	我经常散步																																
第11回	牌价是多少?																																
第12回	汉语难不难?																																
第13回	我没吃蒜																																
第14回	我想去超市																																
第15回	テスト																																
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする																																

(注) 文文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(A)	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(B)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (2) 【概要】 前期に引き続き、本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また、単に中国語を勉強するだけでなく、DVDの視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。 【到達目標】 中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 尹景春・竹島毅著『中国語まじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第1回 前期試験の解説など 第2回 第6課 (1) 第3回 第6課 (2) 第4回 第7課 (1) 第5回 第7課 (2) 第6回 第8課 (1) 第7回 第8課 (2) 第8回 第9課 (1) 第9回 第9課 (2) 第10回 第10課 (1) 第11回 第10課 (2) 第12回 第11課 (1) 第13回 第11課 (2) 第14回 第12課 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験 (50%) , 授業への参加状況 (50%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 英語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(C)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語と中国について学ぶ(2) 【概要】 前期に引き続き、本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また、単に中国語を勉強するだけでなく、DVDの視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。 【到達目標】 中国語検定準4級程度(後期終了時の目標)		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 尹景春・竹島毅著『中国語まじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第1回 前期試験の解説など 第2回 第6課(1) 第3回 第6課(2) 第4回 第7課(1) 第5回 第7課(2) 第6回 第8課(1) 第7回 第8課(2) 第8回 第9課(1) 第9回 第9課(2) 第10回 第10課(1) 第11回 第10課(2) 第12回 第11課(1) 第13回 第11課(2) 第14回 第12課 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験(50%)、授業への参加状況(50%)		

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(D)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初級中国語の学習を行います。 【概要】 中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準4級、漢語水平考試HSK基礎1級程度の中国語能力習得を目指します。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 戸沼市子他『縁日はとてもにぎやか』(スリム版)(郁文堂)		
授業スケジュール	第1回 前期の復習と後期のウォーミングアップ 第2回～第3回 本文篇 第6課 正在开会呢……進行と完了 前置詞“给” 二重目的語をとる動詞 第4回～第5回 本文篇 第7課 桃太郎没坐过飞机……経験 比較 前置詞“在”“离”“从一到” 第6回～第7回 本文篇 第8課 二胡拉得很不错……状態の持続 様態の描写(様態補語) 第8回 中国文化紹介DVD & 中国茶会 第9回～第10回 本文篇 第9課 他的病治好了……方向・結果の複合動詞 前置詞“把” 第11回～第12回 本文篇 第10課 快要过年了……“快要…了” “是…的” 第13回 中国映画鑑賞 第14回 まとめと後期の復習 第15回 試験 *状況に応じてスケジュールを変更することがあります。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%)		

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(E)	担当者	三木 夏華
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 前期の中国語Ⅰに続く入門コース 【概要】 前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。同時に道のたずね方、買い物仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。 【到達目標】 中国語検定準4級までを目標とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「始めよう!中国語」 白水社 南雲智, 趙暉 著 (2) 授業で紹介する		
授業スケジュール	第1回 前置詞1 第2回 完了表現 第3回 動詞の重ね型 第4回 様態補語 第5回 連動文 第6回 経験を表す表現 第7回 前置詞2 第8回 1～7回までの復習 第9回 選択疑問文 第10回 動詞の進行を表す表現 第11回 状態の持続を表す表現 第12回 結果補語 第13回 方向補語 第14回 9～13回までの復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験50% + 授業での発言内容、復習・課題の状況 50%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(F)	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 単語で作文Ⅱ 【概要】 1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい, それを使って作文をします。やや複雑な文にして, 基本的に書かず口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず, 相手に気持ちを伝えることを大切にします。作文のほか, 理解度を確認するため筆記の小テストを毎回実施します。 中国を知ろう, 中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき, 中国語ははじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため, 中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準4級, 漢語水平考試 HSK 基礎1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教員研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	第1回 作文(1) 疑問詞(1) 第2回 作文(2) 疑問詞(2) 第3回 作文(3) “～の”(1) 第4回 作文(4) “～の”(2) 第5回 作文(5) 場所(1) 第6回 作文(6) 場所(2) 第7回 作文(7) 状態(1) 第8回 作文(8) 状態(2) 第9回 作文(9) 状況(1) 第10回 作文(10) 状況(2) 第11回 作文(11) 介詞(1) 第12回 作文(12) 介詞(2) 第13回 作文(13) 1年間の復習(1) 第14回 作文(14) 1年間の復習(2) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	作文と小テスト50%, 定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (G)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初級中国語の学習を行います。 【概要】 中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画（1回）を鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準4級、漢語水平考試HSK基礎1級程度の中国語能力習得を目指します。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 戸沼市子他『緑日はとてもにぎやか』(スリム版) (郁文堂)		
授業スケジュール	第1回 前期の復習と後期のウォーミングアップ 第2回～第3回 本文篇 第6課 正在开会呢………進行と完了 前置詞“给” 二重目的語をとる動詞 第4回～第5回 本文篇 第7課 桃太郎没坐过飞机………経験 比較 前置詞“在”“离”“从一到一” 第6回～第7回 本文篇 第8課 二胡拉得很不错………状態の持続 様態の描写 (様態補語) 第8回 中国文化紹介DVD & 中国茶会 第9回～第10回 本文篇 第9課 他的病治好了………方向・結果の複合動詞 前置詞“把” 第11回～第12回 本文篇 第10課 快要过年了………“快要…了” “是…的” 第13回 中国映画鑑賞 第14回 まとめと後期の復習 第15回 試験 *状況に応じてスケジュールを変更することがあります。		
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)		

(注) 生活科学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (H)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1, 2年 (注) [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 楽しい中国語会話 【概要】 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】 中国語検定準四級。漢語水平考試HSK基礎1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	第1回 来我家玩吧 第2回 我打算去旅行 第3回 没看过, 听过 第4回 我能参加 第5回 我记一下 第6回 我们边走边谈 第7回 好像借给小李了 (中間テスト) 第8回 我不会打日文 (映画) 第9回 你知道号码吗? (映画) 第10回 什么都可以 第11回 被谁偷走了呢? 第12回 让你久等了 第13回 有没有单间? 第14回 我说得不好 第15回 テスト		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅲ	担当者	未定
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

(注) 生活科学科を除く

授業科目	中国語Ⅳ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 単語で作文+長文読解 【概要】 作文と長文読解を組み合わせて、中国語の応用力を高めます。 作文、長文読解のほか、理解度を確認するため筆記の小テストを数回実施します。 中国を知ろう、中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき、中国語がはじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため、中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定4級レベル、漢語水平考試 HSK 基礎2級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策4級』アルク		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 復習 (1) 第3回 復習 (2) 第4回 復習 (3) 第5回 長文読解 (1) 第6回 長文読解 (2) 第7回 作文 (1) 動作の方向 第8回 作文 (2) 強制と恩恵 第9回 長文読解 (3) 第10回 長文読解 (4) 第11回 作文 (3) 介詞いろいろ 第12回 作文 (4) やり方 第13回 長文読解 (5) 第14回 長文読解 (6) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	作文と小テスト 50%、定期試験 50%		

(注) 生活科学科を除く

3 教養科目（スポーツ・健康科目）

授業科目	スポーツ・健康論	担当者	瀬戸口 照夫
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会において、健康問題が取り上げられているが、その原因を追求する。そして、人びとの運動不足が生活習慣病を引き起こす要因の一つになっていることをデータに基づいて確認する。そして、人間と身体活動の関係をスポーツ人類学的に理解することを旨とする。</p> <p>【概要】健康を維持する為にはいかなる方策があるかを講じ、運動不足が生活習慣病の原因の一つであることを講じる。また、スポーツがその原初形態において人類にとって必要不可欠なものであったことを講じる。</p> <p>【到達目標】健康な生活を維持する為の方策を理解すること。また、人類的にスポーツの原初形態が何であったかを理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) プリント		
授業スケジュール	第1回 健康とは何か 健康概念の変遷 第2回 健康問題と現代社会 第3回 運動と心の健康 第4回 スポーツの起源と伝播 第5回 スポーツと身体の文化 第6回 スポーツと神話・儀礼・宗教 第7回 スポーツと文化化・教育 第8回 まとめとテスト		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + レポート (20%)		

(注) 食物栄養専攻を除く。7.5回。

授業科目	生涯スポーツ実習 I (A, B)	担当者	徳田 修司
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり、仲間づくり</p> <p>【概要】ラケットスポーツとして本授業ではテニスを取りあげ、ダブルスのゲームが出来るようになることを目標として段階的に学習していく。このような学習課程の中で体力の必要性、仲間との上手な協力関係を学び、実生活でも応用できるようになることを目指す。</p> <p>【到達目標】ダブルスのゲームが出来ること。試合の進め方、ルールを覚える。ラケットスポーツを通じた、健康・体力づくり、仲間づくりの方法を修得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 特に必要なし (2) 必要なし ※必要に応じて、資料は郵付する。		
授業スケジュール	第1回：グループ分け。ボール投げとキャッチ。ラケットでのボール打ち。 第2回～4回：ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとストローク（フォアとバック）。 第5回～7回：ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとボレー（フォアとバック）。 第8回～11回：ネットを挟んでのボール出しとストローク・ボレー（距離や強弱、正確性のコントロール技術）。 ※この段階からミニコートでの試合を経験する。 第12回：サーブを打ってみる。いろいろな打ち方で、正確に打つこと、サーブを正確にリターンすることなどを学ぶ。 第13回～14回：正式のコートの広さで、ルールに基づいてダブルスのゲームに挑戦する。審判が出来るようになる。 第15回：授業のまとめと評価		
成績評価の方法	技術の上達度 (60～80%) , 出席状況や授業への取り組み状況 (20～40%)		

(注) 文学科

授業科目	生涯スポーツ実習 I (C, D, E, F)	担当者	瀬戸口 照夫・西迫 貴美代
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学生の身体運動の減少は、健康的な生活や好ましい身体の発達に悪影響を及ぼしかねない。したがって、将来にわたって実践しうる基礎的運動技術の習得が目標である。</p> <p>【概要】実技では、今まで実習したことのない種目を選定し、特に、ゴルフと硬式テニスを課す。</p> <p>【到達目標】ゴルフの打法とアプローチの練習ができること。、硬式テニスでは、サーブが確率的に高く入るゲームが出来るようになることが最終目標である。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 2 種目のビデオ, 指導教本や技術書の抜粋プリントと各種目のルール集		
授業スケジュール	第1回：ゴルフの概要 ・ゴルフの歴史やゲームの方法, 各クラブの機能の説明, 練習上の注意事項 第2回：ショートアイアの打法の解説と実践 ・9, 7 番アイアの打法とグリップの習得 第3回：ミドルアイアの打法の解説 ・前回のショートアイアの復習と5 番アイアの打法の解説と実践 第4回：フェアウェイクラブの打法 ・スプーンとクリークの打法の解説と実践 第5回：ドライバーの打法 ・今までのクラブの打法とドライバーの打法の違いの概説と実践 第6回：アプローチの実践 ・ショートアイアによる実践 第7回：アプローチのゲーム ・打数によるゲーム 第8回：テニスの概要 ・テニスの歴史とゲームに必要な打法の解説 第9回：フォアハンドストロークの解説と練習 ・グリップの説明。送り出されたボールをフォアサイドで打ち返す練習 第10回：バックハンドストロークの解説と練習 ・グリップの説明。送り出されたボールをバックサイドで打ち返す練習 第11回：サーブの練習 ・フォアハンド, バックハンドストロークの練習とアンダーサーブの練習 第12回：ダブルスゲームの解説とゲーム ・フォメーションの説明とゲーム 第13回：シングルスゲームの解説とゲーム ・フォメーションの説明とゲーム 第14回：ダブルスゲーム ・ 第15回：まとめと技術評価		
成績評価の方法	技術評価 (60%) + 練習ノート (40%) を基準に、総合的に評価する。		

(注) 生活科学科, 商経学科

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ (A, B, C, D)	担当者	瀬戸口 照夫・西迫 貴美代		
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実習方式				
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学生の身体運動の減少は、健康的な生活や好ましい身体の発達に悪影響を及ぼしかねない。したがって将来にわたって実践しうる基礎的運動技術の習得を目標とする。</p> <p>【概要】卓球、バレーボール、バドミントン等の種目から一種目を選択し実習する</p> <p>【到達目標】卓球：カットサーブから始まるゲームができること、バドミントン：ショート、ロングサーブを使い分けてゲームができること バレーボール：誰もがアタックを打ち、チームフォーメーションが理解できること</p>				
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 各種目のビデオ (2)				
授業スケジュール	回数 /教材	卓球	バドミントン	バレーボール	
	1	オリエンテーション・準備、後片づけの確認 (安全な使用)	・グループ分け (リーダ決定, グループノート活用について)	・試しのゲーム	・次週の計画を立てる
	2	卓球に技術について (様々な打法の理解と上回転の練習)	バドミントンの技術について (様々な打法の理解とハイクリアーの練習)	バレーボールの技術について (Aアタックから:アタックのイメージの転換)	
	3	様々な打法の練習(1) 上回転と下回転の理解と練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習(1) (ハイクリアー・スマッシュ・簡易ゲーム)	Aクイックの習熟(1) トスの高さジャンプのタイミングを意識化→2:2→3:3	
	4	様々な打法の練習(2) (1)の練習に加えてスマッシュ練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習(2) (ハイクリアー・スマッシュ・ドロップ・簡易ゲーム)	Aクイックの習熟(2) (トスの場所の変化→2:2→3:3 簡易ゲーム)	
	5	様々な打法の練習(3) (2)の練習に加えてサーブの練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習-3 (ハイクリアー・スマッシュ・ドロップ・ドライブ・ヘアピン・簡易ゲーム)	Aクイックの習熟(3) (トスの場所, 高さの変化→2:2→3:3 簡易ゲーム)・投げられサーブ, キャッチングレシーブ	
	6	様々な打法の練習(4) (3)の練習に加えてカットサーブのリターン練習・ゲーム	シングルゲームの解説とゲーム (リーグ戦) →ゲーム結果をもとにチーム分け	アタックの習熟とブロックの解説と練習 (3:3→6:6 簡易ゲームへ)	
	7	シングルスゲームの解説とゲーム (1)	ダブルスゲーム解説とゲーム (二人のコンビネーションについての課題の発見) (1)	アタックレシーブの場所, アンダーパスの方法の解説 (3:3→6:6 簡易ゲームへ)	
	8	シングルスゲーム (2)	ダブルスゲーム (2)	ゲーム (ポジション決定)	
	9	ダブルスゲームの解説とゲーム (1)	コンビネーションの解説と練習→ダブルスゲーム (チーム内リーグ戦)	セッターの決定とアタックとサーブのレシーブの違いの解説と練習・サーブ練習	
	10	ダブルスゲーム (2)	チーム対抗ゲーム(1) (シングルス, ダブルス混合)	ゲーム ポジションの確認と作戦	
	11	チーム対抗ゲームの解説とゲーム (1)	チーム対抗ゲーム(2) データを元に作戦を立てる	フォーメーションの解説とチーム作戦を立てゲームをする	
	12	チーム対抗ゲーム(2)	チーム対抗ゲーム(3)	チーム対抗ゲーム(1)	
	13	チーム対抗ゲーム(3)	チーム対抗ゲーム(4)	チーム対抗ゲーム(2)	
	14	チーム対抗ゲーム(4)	チーム対抗ゲーム(5)	チーム対抗ゲーム(3)	
	15	まとめと技術評価	まとめと技術評価	まとめと技術評価	
成績評価の方法	技術評価 (60%) + 練習ノート (40%) を基準に、総合的に評価する。				

(注) 文学科, 生活科学科

	生涯スポーツ実習Ⅱ(E, F)	担当者	徳田 修司
授業科目	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修(注) 〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 スポーツと体力・運動能力づくり/健康づくり</p> <p>【概要】 前期の実習Ⅰを踏まえ、後期には前半7回と後半7回(まとめ:1回)の中で2種類の異なるスポーツを選択し、グループ学習を通して技術やゲームの進め方を学習する。卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボールなどの中から2種目選択し、ゲーム中心に進めていく。</p> <p>【到達目標】 選択したスポーツの基礎的な技術の習得と試合の進め方、戦術、作戦の立て方、パートナーやチームの協力のあり方などを学習し、楽しくより高度にゲームを進められるようになることを目指す。勝敗よりも楽しさや協力の大切さに主眼を置き、練習の過程とグループ(ペア)の協力の重要性を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に必要なし (2) 必要なし ※必要に応じて、資料は添付する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回: 1回目グループ編成。実習ノートと担当者の決定。セッティングの説明。</p> <p>第2回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、試合の進め方、練習ゲーム。</p> <p>第3回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、審判の行い方、練習ゲーム。</p> <p>第4回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、シングルのゲーム。</p> <p>第5回: 準備運動、種目による応用技術の練習、ダブルスのゲーム。</p> <p>第6回: 準備運動、種目による応用技術の練習、正式のコート、ルールでのゲーム。</p> <p>第7回: 準備運動、ダブルスゲームによる総当たりのゲーム。</p> <p>第8回: 2回目のグループ編成(前半と異なる種目を選択すること)、実習ノートと担当者の決定、セッティング。</p> <p>第9回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、試合の進め方、練習ゲーム。</p> <p>第10回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、審判の行い方、練習ゲーム。</p> <p>第11回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、シングルのゲーム。</p> <p>第12回: 準備運動、種目による応用技術の練習、ダブルスのゲーム。</p> <p>第13回: 準備運動、種目による応用技術の練習、正式のコート、ルールでのゲーム。</p> <p>第14回: 準備運動、ダブルスによる総当たりのゲーム。</p> <p>第15回: 授業のまとめと評価</p>		
成績評価の方法	技術の上達度・試合の進め方(60~80%)、出席状況や授業への取り組み状況(20~40%)		

(注) 商経学科

4 教養科目（情報科目）

授業科目	情報リテラシー I (A)	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、ワープロ、画像処理、プレゼンテーション等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 電子メールにおける文書処理(1) 第2回 授業前アンケート(パソコン使用歴、授業への希望など) 第3回 Windows パソコンの基本的な使い方 第4回 電子メールにおける文書処理(2) 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 MS-WORD によるワープロ実習(1) 第7回 MS-WORD によるワープロ実習(2) 第8回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第9回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第10回 画像を利用した文書作り(1) 第11回 画像を利用した文書作り(2) 第12回 表計算ソフト Excel 第13回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint 第14回 総復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験(1:1)の結果を合せて評価		

(注) 日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (B)	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、ワープロ、画像処理、プレゼンテーション等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 電子メールにおける文書処理(1) 第2回 授業前アンケート(パソコン使用歴、授業への希望など) 第3回 Windows パソコンの基本的な使い方 第4回 電子メールにおける文書処理(2) 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 MS-WORD によるワープロ実習(1) 第7回 MS-WORD によるワープロ実習(2) 第8回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第9回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第10回 画像を利用した文書作り(1) 第11回 画像を利用した文書作り(2) 第12回 表計算ソフト Excel 第13回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint 第14回 総復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験(1:1)の結果を合せて評価		

(注) 英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (C)	担当者	青山 究
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワードプロセッサソフト (Microsoft Word, 以下 Word) と表計算ソフト (Microsoft Excel, 以下 Excel) が使えるようになること</p> <p>【概要】Word, Excel が使えることは、いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である。この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となる Word を、実習を通して使えるようにする。</p> <p>【到達目標】高度な知識や能力を要求するわけではない、日常で必要となった時、利用した方が良い時に気軽にそして積極的に Word や Excel を利用できるようになって欲しい。つまり、各種ビラ、授業のレポート、あるいは卒業研究の報告所などを作成する際に必要に応じて Word や Excel を活用できようになることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編集部著「30時間でマスター Windows7 対応 Word & Excel 2010」実教出版 USB フラッシュメモリを用意すること。</p> <p>(2) 特に指定しないが Word や Excel の入門書、解説書なら何でも参考になる。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 タッチタイピング；</p> <p>第2回 Windows 7 入門：画面構成、アプリケーションソフトの起動と終了、タスクバー、エクスプローラ</p> <p>第3回 日本語入力1：日本語入力設定、文字の入力、漢字変換</p> <p>第4回 Word 入門：起動と終了、画面構成</p> <p>第5回 日本語入力2：文章入力、入力の訂正</p> <p>第6回 日本語入力3：特殊な入力方法、各種辞書</p> <p>第7回 文書の作成1：ページ設定、ファイルの保存・読み込み、印刷のページ設定</p> <p>第8回 文書の作成2：複写、削除、移動</p> <p>第9回 文書編集：左右揃え、中央揃え、箇条書き</p> <p>第10回 文書編集：フォント・フォントサイズの変更、下線</p> <p>第11回 文書編集：表の作成、均等割付、文字の網掛け</p> <p>第12回 表の編集：行・列の挿入削除、セル結合</p> <p>第13回 ビジュアル：ワードアート、クリップアート、ページ罫線</p> <p>第14回 アプリケーション間のデータ活用：Word 文書への Excel データ活用、Web データ活用、新機能など</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業中に課される演習問題 (50%) + 実技試験 (50%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシー I (D)	担当者	遠矢 守
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得</p> <p>【概要】</p> <p>現代人にとってコンピュータとインターネットなどは、情報の収集、分析 (解決)、情報の発信のための重要な道具となっている。本授業では、これらを利用した「情報活用技術」の基礎について実際にコンピュータを操作しながら学ぶことにする。</p> <p>コンピュータの仕組みや Windows の基本的事項の学習から始め、インターネット (メール、情報検索) や応用ソフト (ワープロ、表計算ソフト) に関して、これからの社会で生き抜く上で修得しておくべき事項について学習し体得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能を獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (ただし、必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのため USB メモリなどを毎回準備すること)</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (授業の方針・目標、受講上の注意)、コンピュータの仕組みと簡単な操作</p> <p>第2回 タッチタイピング、Windows の基本的操作、保存メディア、ショートカットキー</p> <p>第3回 日本語入力 (部分確定・文節の切り替え、文字列の編集加工、単語登録、再変換など)、簡単なファイル処理</p> <p>第4回 Word による文書作成1 (Word の基礎)</p> <p>第5回 電子メールの仕組み、ファイル添付、メールに関する情報モラル</p> <p>第6回 Web を利用した情報検索の方法1、ブラウザの効果的操作方法</p> <p>第7回 Web を利用した情報検索の方法2、調査事項の文書化</p> <p>第8回 ネット犯罪とセキュリティ</p> <p>第9回 ペイント系ソフトの技法、絵入り文書の作成など</p> <p>第10回 Word による文書作成2 (図形描画ツールに関する技法)</p> <p>第11回 Word による文書作成3 (表、インデント、段組み、Word のショートカットキー)</p> <p>第12回 Excel の基礎1 (簡単な縦横計算)</p> <p>第13回 Excel の基礎2 (簡単なグラフ作成、Word 文書への表やグラフの貼り付け)</p> <p>第14回 簡単なファイルの整理 (ファイルの概念、フォルダの概念)</p> <p>第15回 期末試験</p>		
成績評価の方法	期末試験 (100%) の結果による。なお、課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる。		

(注) 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシー I (E)	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社 (著) 『よくわかる初心者のためのWord 2007』FOM出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウィンドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページ設定、文章の入力、コピーと移動、保存</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更、太字など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形描画・・・図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 画像の利用・・・クリップアートの挿入、ワードアートの挿入、図の挿入</p> <p>第13回 チラシの作成・・・課題文書作成(チラシ)</p> <p>第14回 総合復習・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目60%) + 授業ごとに実施する課題(20%)		

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシー I (F)	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社 (著) 『よくわかる初心者のためのWord 2007』FOM出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウィンドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページ設定、文章の入力、コピーと移動、保存</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更、太字など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形描画・・・図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 画像の利用・・・クリップアートの挿入、ワードアートの挿入、図の挿入</p> <p>第13回 チラシの作成・・・課題文書作成(チラシ)</p> <p>第14回 総合復習・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目60%) + 授業ごとに実施する課題(20%)		

(注) 経営情報専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (A)	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現 (出力) のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的にこなすための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。</p> <p>II では、I で学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、ネットワークの基本的仕組みと役割、ネットワーク利用において被害者、加害者とならないためのセキュリティ知識、ネットワーク上のマナー、著作権・個人情報などに関する基本的コンプライアンス、情報化社会における社会とITの関わりやその問題点などの知識についても学ぶ。</p> <p>なお、教職課程に関連して、中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社		
授業スケジュール	第1回 電子メールとネットワークセキュリティ、漢字コード 第2回 ネットの仕組みと情報検索、文字エンコード 第3回 マナーとコンプライアンス 第4回 表計算ソフト 関数の利用 第5回 表計算ソフト グラフの作成 第6回 表計算ソフトとワープロ文書の連携 第7回 表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携 第8回 Webによる情報発信 ページの作成 第9回 Webによる情報発信 javascript とWeb2.0 第10回 Webによる情報発信 CSS、コンピュータでの色の扱い 第11回 Webによる情報発信 アクセシビリティ 第12回 中学校における情報教育について 第13回 オープンソースとは 第14回 オープンソースの教育利用 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験 (パソコンを使ってレポートを作成し、電子メールで提出する) の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (B)	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現 (出力) のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的にこなすための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。</p> <p>II では、I で学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、ネットワークの基本的仕組みと役割、ネットワーク利用において被害者、加害者とならないためのセキュリティ知識、ネットワーク上のマナー、著作権・個人情報などに関する基本的コンプライアンス、情報化社会における社会とITの関わりやその問題点などの知識についても学ぶ。</p> <p>なお、教職課程に関連して、中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社		
授業スケジュール	第1回 電子メールとネットワークセキュリティ、漢字コード 第2回 ネットの仕組みと情報検索、文字エンコード 第3回 マナーとコンプライアンス 第4回 表計算ソフト 関数の利用 第5回 表計算ソフト グラフの作成 第6回 表計算ソフトとワープロ文書の連携 第7回 表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携 第8回 Webによる情報発信 ページの作成 第9回 Webによる情報発信 javascript とWeb2.0 第10回 Webによる情報発信 CSS、コンピュータでの色の扱い 第11回 Webによる情報発信 アクセシビリティ 第12回 中学校における情報教育について 第13回 オープンソースとは 第14回 オープンソースの教育利用 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験 (パソコンを使ってレポートを作成し、電子メールで提出する) の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (C)	担当者	青山 究
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワードプロセッサソフト (Microsoft Word, 以下 Word) と表計算ソフト (Microsoft Excel, 以下 Excel) が使えるようになること</p> <p>【概要】Word, Excel が使えることは、いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である。この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となる Excel を、実習を通して使えるようにする。</p> <p>【到達目標】高度な知識や能力を要求するわけではない、日常で必要となった時、利用した方が良い時に気軽にそして積極的に Word や Excel を利用できるようになって欲しい。つまり、各種ビラ、授業のレポート、あるいは卒業研究の報告所などを作成する際に必要に応じて Word や Excel を活用できようになることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編集部著「30時間でマスター Windows7 対応 Word & Excel 2010」実教出版 USB フラッシュメモリを用意すること。</p> <p>(2) 特に指定しないが Word や Excel の入門書、解説書なら何でも参考になる。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 タッチタイピング： 第 2 回 Windows 7 入門：コントロールパネル、フォルダ、右クリック、ガジェット、ファイル検索、Internet Explorer 第 3 回 日本語入力：日本語入力設定、文字の入力、漢字変換 第 4 回 Excel 入門：起動と終了、画面構成 第 5 回 データ入力：数値データの入力、文字列データの入力、ファイルの保存と読み込み 第 6 回 ワークシートの編集：セルの挿入・削除、移動、コピー、データ修正、連番データの入力、数式入力 第 7 回 ワークシートの書式設定：列幅・行高の変更、表示形式、文字の配置とフォント、罫線、塗りつぶし 第 8 回 グラフ：グラフの作成、棒グラフ、円グラフ 第 9 回 グラフ：系列の変更、数値軸目盛の変更、グラフ種類の変更、データ系列、軸ラベル、凡例、フォント、データラベル 第 10 回 関数の活用 1：最大値(MAX)、最小値(MIN)、個数(COUNT)、順位付け(RANK)、四捨五入(ROUND) 第 11 回 関数の活用 2：判定(IF)、条件集計(COUNTIF、SUMIF)、表の検索(VLOOKUP) 第 12 回 データベース機能 1：ソート、フィルタ、条件付き書式、テーブル 第 13 回 データベース機能 2：ピボットテーブル、クロス集計、レポートフィルタ 第 14 回 アプリケーション間のデータ活用：Word 文書への Excel データ活用、Web データ活用、新機能など 第 15 回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業中に課される演習問題 (50%) + 実技試験 (50%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (D)	担当者	遠矢 守
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得</p> <p>【概要】 本科目は、情報リテラシーⅠから続くものでⅠと同じ授業方針で進める。 本科目Ⅱでは、Ⅰで学んだことをもとに、Ⅰより高度な Word や Excel のスキルの修得を目指す。さらに、デジタルプレゼンテーションやホームページ作成など情報発信に関するスキル修得を目指す。加えて、Word や Excel などオフィスソフトの機能を自分なりに拡張できるマクロプログラミング技法の基礎について紹介する。</p> <p>【到達目標】 現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能を獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (ただし、必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのため USB メモリなどを毎回準備すること)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習 第 2 回 PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション 1 (文字だけのプレゼンテーション、テキストアニメーション) 第 3 回 PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション 2 (図・表・動画の活用、図やグラフのアニメーション) 第 4 回 PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション 3 (効果的プレゼンテーションとは) 第 5 回 Excel による縦横計算 1 (関数の利用 1) 第 6 回 Excel による縦横計算 2 (関数の利用 2, Excel のショートカットキー) 第 7 回 Excel による縦横計算 3 (演習) 第 8 回 Excel によるグラフ作成、グラフ入り文書の作成 1 第 9 回 Excel によるグラフ作成、グラフ入り文書の作成 2 第 10 回 Excel によるデータベース処理 1 第 11 回 Excel によるデータベース処理 2 第 12 回 エディタによるホームページの作成 第 13 回 ファイルの整理 (ファイルの圧縮解凍)、OS の概念 第 14 回 マクロプログラミング入門 第 15 回 期末試験</p>		
成績評価の方法	期末試験 (100%) の結果による。なお、課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる。		

(注) 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(E)	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】情報リテラシーⅡ(E)と(F)は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて両クラスを合せてクラス編成する。基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、画像処理、ファイル変換等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなること。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 授業前アンケート(パソコン使用歴、授業への希望など) 第2回 Windows パソコンの基本的な使い方 第3回 電子メール 第4回 ファイルの基本操作 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 インターネット検索 第7回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第8回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第9回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集 第10回 画像を利用したワープロ文書作り(1) 第11回 画像を利用したワープロ文書作り(2) 第12回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍 第13回 インターネットの活用 第14回 総復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験(1:1)の結果を合せて評価		

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(F)	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】情報リテラシーⅡ(E)と(F)は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて両クラスを合せてクラス編成する。基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、画像処理、ファイル変換等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなること。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 授業前アンケート(パソコン使用歴、授業への希望など) 第2回 Windows パソコンの基本的な使い方 第3回 電子メール 第4回 ファイルの基本操作 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 インターネット検索 第7回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第8回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第9回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集 第10回 画像を利用したワープロ文書作り(1) 第11回 画像を利用したワープロ文書作り(2) 第12回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍 第13回 インターネットの活用 第14回 総復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験(1:1)の結果を合せて評価		

(注) 経営情報専攻

5 日本語日本文学専攻専門科目

授業科目	日本文学概論	担当者	木戸 裕子・岩本 晃代
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修(注) 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】 大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では、1. 古典文学研究に必要な文献学、書誌学の初歩とくずし字の読み方、2. 主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩、3. 大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で、日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。</p> <p>【到達目標】 日本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し、変体仮名(くずし字)の基本的な読み方を身につける。演習や2年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方、論理的なレポートの書き方を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『字典かな』新典社(担当者:木戸)</p> <p>(2) 村松定孝『文学概論』双文社出版(担当者:岩本)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション。本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い</p> <p>第2回 古典文学を学ぶとは 仮名史について くずし字の読み方1</p> <p>第3回 文献学(写本と板本)について くずし字の読み方2</p> <p>第4回 書誌学について くずし字の読み方3</p> <p>第5回 くずし字小テスト 物語・日記・随筆 古典文学の分類について</p> <p>第6回 古典における比較文学 中国古典文学との関わり1 くずし字の読み方4</p> <p>第7回 中国古典文学との関わり2 くずし字の読み方5</p> <p>第8回 前半のまとめと試験</p> <p>第9回 総論 近代文学とは何か</p> <p>第10回 小説について</p> <p>第11回 詩について</p> <p>第12回 短歌・俳句について</p> <p>第13回 文学批評について</p> <p>第14回 近代文学研究の方法・論文の書き方(後半のまとめ)</p> <p>第15回 後半のまとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>毎時間提出するミニレポート(感想文等)20% 講義期間中の提出課題又は小テスト30% まとめ試験50%の合計で評価する。</p>		

(注) 教職必修

授業科目	言語学概論	担当者	未定
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>		
成績評価の方法			

授業科目	日本語学概論	担当者	望月 正道
		〔履修年次〕 日本語日本文学専攻は1年, 英語英文学専攻は2年	
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 日本語日本文学専攻は必修 (注), 英語英文学専攻は選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで, また, 日本文学 (特に古典文学) を読んでいくためにも, 必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】各研究分野について概観するが, 特に, 日本語で用いられる音声・音韻 (音声言語) に関する事項と, それを書き表す文字・表記 (アルファベットのみを用いる言語に比べて, 複雑な文字体系を持つ日本語では, 文字の問題は殊に重要である) について重点を置いて考察を行うこととする。なお, 日本語の歴史については, 別に「日本語史」の授業科目で扱う。</p> <p>この授業は「講義方式」であり, 教室での90分の授業に対して180分の自学自習が義務づけられている。従って, 各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し, 「学習課題」を考察してくること。</p> <p>【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 仁田義雄 他著『改訂版 日本語要説』ひつじ書房		
授業スケジュール	第 1回 日本語学 (国語学) とは 第 2回 現代語の音声・音韻論 1 : 発音器官/国際音声字母 ※ 第 3回 現代語の音声・音韻論 2 : 母音 ※ 第 4回 現代語の音声・音韻論 3 : 子音 ※ 第 5回 現代語の音声・音韻論 4 : 韻律 ※ 第 6回 文字・書記 : 現代日本語の表記の特徴 ※ 第 7回 前半のまとめ 第 8回 現代語の文法・文法論 1 : テンスとアスペクト 第 9回 現代語の文法・文法論 2 : 待遇表現 第 10回 現代語の語彙・語彙論 1 : 語種 第 11回 現代語の語彙・語彙論 2 : 語彙の体系 第 12回 社会言語学・方言学 1 : 国語 (公用語) と方言 第 13回 社会言語学・方言学 2 : 新方言/言語地理学 第 14回 文章・談話 第 15回 まとめと試験 ※印=パソコン教室で実施。		
成績評価の方法	筆記試験 (テキスト・ノート・辞書等持ち込み可) の成績(80%)に, 随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修

授業科目	日本語教育概論	担当者	未定
		〔履修年次〕 日本語日本文学専攻は1年, 英語英文学専攻は2年	
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法			

授業科目	日本語史	担当者	望月 正道
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の史的変遷について学ぶ</p> <p>【概要】古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・文法など各分野にわたり、資料を読みながら、史的変遷を概観する。古典辞典いづれか1冊を毎回持参すること。</p> <p>テキストが分野別別の記述になっているので、各自、歴史年表の上に投影してみる。特に、日本史が苦手だというひとは、政治史や文化史などの復習も必要である。</p> <p>開放科目としての受講など「日本語学概論」を履修していない場合は、テキストのうち日本語史で扱わない部分についてよく読んでおくこと。</p> <p>【到達目標】日本語の歴史について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 仁田義雄 他著『改訂版 日本語要説』ひつじ書房		
授業スケジュール	第 1回 時代区分と資料 : 古辞書/古典文学作品 第 2回 表記の歴史 : 漢字の受容から仮名の誕生へ 第 3回 古代語の音韻・音韻史1 : 上代特殊仮名遣い/手習い歌・五十音図 第 4回 古代語の音韻・音韻史2 : 子音・母音の変遷 第 5回 古代語の音韻・音韻史3 : アクセントと仮名遣い 第 6回 古代語の語彙・語彙史1 : 形容詞 第 7回 古代語の語彙・語彙史2 : 代名詞/親族語彙 第 8回 古代語の語彙・語彙史3 : 語構成/借用語 第 9回 古代語の語彙・語彙史4 : 語形変化/語義変化/文体と位相 第 10回 古代語の文法・文法史1 : 品詞論 第 11回 古代語の文法・文法史2 : 形態論 第 12回 古代語の文法・文法史3 : 統語論 第 13回 社会言語学・方言学 : 共通語の成立と方言の消長 第 14回 日本語学史 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (テキスト・ノート・辞書等持ち込み可) の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修

授業科目	日本文法論	担当者	望月 正道
		[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近代以降の主な文法学説について学び、日本語の文法について考察する</p> <p>【概要】中学校の国語の時間に習った(はずの)「口語文法」は、多くの生徒にとって、退屈だけで日常生活においてはほとんど役に立たない存在である。しかし、文法研究を一生の仕事とした人が少なからずいることを考えれば、意外に文法も面白いものかもしれない。</p> <p>また、日本語教育や外国語学習の場面では、より実態に近い(役に立つ)日本語文法理論をわきまえておくべきであろう。</p> <p>この講義では、毎年、日本語の文法について書かれた新書1冊を取り上げ、近代以降の主な文法学説についても概観しつつ、考察を加えていく。講義方式ではあるが、輪読形式や中学校の教育実習に関する話題も交えて進めていくので、気軽に参加してほしい。</p> <p>【到達目標】日本語の文法について書かれた新書を理解し、文法に関して議論ができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定		
授業スケジュール	第 1回 中学校国語「口語文法」のおさらい 第 2回 大槻文彦/国語元年, 山田孝雄/陳述 第 3回 松下大三郎/断句, 橋本進吉/文節 第 4回 時枝誠記/文章論, 三上章/主語発止論 第 5回 テキストについての検討(1) 第 6回 テキストについての検討(2) 第 7回 テキストについての検討(3) 第 8回 テキストについての検討(4) 第 9回 テキストについての検討(5) 第 10回 テキストについての検討(6) 第 11回 テキストについての検討(7) 第 12回 テキストについての検討(8) 第 13回 テキストについての検討(9) 第 14回 テキストについての検討(10) 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (テキスト・ノート・辞書等持ち込み可) の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語学講義	担当者	望月 正道
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】韓国語（朝鮮語）の概要を学ぶことをとおして、日本語をより深く理解する</p> <p>【概要】日本では、6年以上勉強した英語と比較して「日本語は特殊だ」と思い込んでしまう人が多いように見受けられる。しかし、現代の英語は、例えば二人称代名詞が1つしかないなど、ある意味では西欧語の中でも「特殊」である。英語だけ（あるいは英語と中国語だけ）を見ていては、公平な判断ができない。そういうときに、文法構造や漢字の受容、敬語法などの面において、日本語によく似ている（が、微妙に違う）韓国語（朝鮮語）を知ると、目から鱗が落ちるはずだ。</p> <p>また、世間では「古代韓国語で万葉集を解説する」といったたぐいの本もある。が、実は古代の韓国語（朝鮮語）の姿はほとんどわかっていないのである。これら、日本語の歴史に関して考察する場合の韓国（朝鮮）資料の価値についても考える。</p> <p>なお、授業はK-Popsを視聴するなど楽しくすすめるつもりだが、ハングル字母のおおよその読み方は覚えてほしい。</p> <p>【到達目標】日本語と韓国語の似ている点・異なる点を指摘することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)プリント。		
授業スケジュール	第 1回 「ハングル」とは 第 2回 日本語と韓国語 漢字の音と訓 第 3回 " 漢語（漢字語）と外来語 第 4回 " 品詞分類、助詞 第 5回 " 助動詞（語尾）、サ変動詞・形容動詞（하다動詞・形容詞） 第 6回 " 代名詞、指示語 第 7回 " 擬声語・擬態語 第 8回 " 連濁とサイシオツ 第 9回 " 数詞、助数詞 第 10回 " 待遇表現（敬語、文体） 第 11回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」 記紀歌謡・万葉集と郷歌 第 12回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」 数詞 第 13回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」 トンデモ学説について 第 14回 日本語の起源についてどこまでわかっているか 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（簡単なハングルの読み書き、日本語との類似点・相違点、日本語の起源とのかわり等について出題する）の成績(80%)に、授業での発言や小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語学講義 I	担当者	松尾 弘徳
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学の研究方法を学ぶ</p> <p>【概要】「日本語学」という学問分野がどんなことを問題として取り扱うのか、という基本的なスタンスをこの授業では学びます。受講生は毎回授業時までに予習課題を提出、授業時には学生が提出した回答や例文を引用しながら、日本語のしくみを考えます。授業は基本的に講義形式で進めますが、適宜グループディスカッションや質疑応答も行います。</p> <p>【到達目標】</p> <p>普段話したり書いたりしている日本語を客観的にながめることができるようになることが最終的な目標です。多くの具体的事例を取り上げ、日本語について深く考える場をしたいと思います。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。 参考文献も授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方の説明 第 2回 ことばの性差 第 3回 ことばの地域差 第 4回 比喩とはなにか 第 5回 比喩を考える 第 6回 意味用法の変化と若者語 第 7回 発音のしくみ 第 8回 音韻と音声のちがい 第 9回 鹿児島方言のアクセント 第 10回 テンス 第 11回 助詞 第 12回 ヴォイス 第 13回 ピジン・クレオール 第 14回 方言の共通語化 第 15回 まとめと試験 <p>以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。</p>		
成績評価の方法	評価基準は下の通り。 毎授業後に提出するレスポンスシート：20% メールによる予習課題の提出：20% 学期末試験：60% なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。		

授業科目	日本語学講読Ⅱ	担当者	松尾 弘徳
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本語にみられる諸現象を「歴史的に」考える</p> <p>【概要】ある言葉遣いを聞いたとき、ある人物像が頭に浮かぶ、ということがあります。これを「役割語」と呼ぶことにします。授業では小説やマンガ、あるいはアニメなどの用例を紹介しながら、役割語に関する考察をすすめてゆきます。学生の皆さんにも同様の調査を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告していただきます。</p> <p>【到達目標】 教員による講義と、学生の研究発表を並行しながら、言葉と歴史の関わりを明らかにしてゆきたいと考えます。この授業を通じて、①歴史認識 ②日本語学の研究方法 ③プレゼンテーションスキルなどを学ぶことになります。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。</p> <p>参考文献も授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方の説明 第2回 「正しい日本語」とはなにもの？ 第3回 副詞の種類－2つの「とても」 第4回 副詞「全然」の語史 第5回 役割語とは何か 第6回 研究発表準備 第7回 「博士」のことば（研究発表①） 第8回 博士語の成立 第9回 標準語と非標準語（1） 第10回 標準語と非標準語（2） 第11回 「中国人」のことば（研究発表②） 第12回 異人たちのことば 第13回 さまざまな役割語（研究発表③） 第14回 役割語とステレオタイプ 第15回 予備日</p> <p>以上の予定ですが、受講人数・進行状況次第で変更の可能性があります。</p>		
成績評価の方法	<p>評価基準は下の通り。学期末の試験は行いません。</p> <p>毎授業後に提出するレスポンスシート：30% メールによる予習課題の提出：20% 研究発表と発表概要の提出：50%</p> <p>なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。</p>		

授業科目	日本語学演習Ⅰ,Ⅲ	担当者	望月 正道
	[履修年次] 演習Ⅰは1年、演習Ⅲは2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】キリシタン資料に見える中世末の日本語を読み、文法や語彙の変遷について考える</p> <p>【概要】大英図書館蔵『天草版 伊曾保物語』は、16世紀末のキリシタンたちによって編まれた中世日本語の教科書である。古代語から近代語に至る過渡期の日本語の姿が、ポルトガル語式のローマ字で書き留められている。本演習では、特に、待遇表現をはじめとする文法と清濁などの語形とに重点を置いて、順に担当者を決めて輪読していく。後期は、動物寓話を読む。</p> <p>【到達目標】ローマ字表記の本文を音読し、大意を説明できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)授業中に指示する。		
授業スケジュール	<p>第1回 底本の紹介と読み方（2年生が1年生に） 第2回 2年生担当の演習(1) 第3回 2年生担当の演習(2) 第4回 2年生担当の演習(3) 第5回 2年生担当の演習(4) 第6回 2年生担当の演習(5) 第7回 発表資料の作成指導（2年生が1年生に） 第8回 1年生担当の演習(1) 第9回 1年生担当の演習(2) 第10回 1年生担当の演習(3) 第11回 1年生担当の演習(4) 第12回 1年生担当の演習(5) 第13回 1年生担当の演習(6) 第14回 1年生担当の演習(7) 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)に、それ以外の授業中の発言(10%)および試験の成績(50%)を加えて判定する。</p>		

授業科目	日本語学演習Ⅱ	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 キリシタン資料に見える中世末の日本語を読み、文法や語彙の変遷について考える</p> <p>【概要】 大英図書館蔵『天草版 伊曾保物語』は、16世紀末のキリシタンたちによって編まれた中世日本語の教科書である。古代語から近代語に至る過渡期の日本語の姿が、ポルトガル語式のローマ字で書き留められている。本演習では、特に、待遇表現をはじめとする文法と清濁などの語形とに重点を置いて、順に担当者を決めて輪読していく。今年度前期は、エリボの生涯のことを読む。</p> <p>【到達目標】 ローマ字表記の本文を音読し、大意を説明できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)授業中に指示する。		
授業スケジュール	第 1回 底本の紹介と読み方 (再確認、特に2年前期からの参加者に) 第 2回 学生による発表(1) 第 3回 学生による発表(2) 第 4回 学生による発表(3) 第 5回 学生による発表(4) 第 6回 学生による発表(5) 第 7回 学生による発表(6) 第 8回 学生による発表(7) 第 9回 学生による発表(8) 第 10回 学生による発表(9) 第 11回 学生による発表(10) 第 12回 学生による発表(11) 第 13回 学生による発表(12) 第 14回 学生による発表(13) 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)に、それ以外の授業中の発言(10%)および試験の成績(50%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語学演習Ⅳ	担当者	未定
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法			

授業科目	日本語表現法	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ</p> <p>【概要】発表、面接、論文、エッセイなどの課題にグループで取り組みながら、ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示し、意見を的確に伝える方法を考察する。 なお、表現の自由と人権の問題についても取り上げる予定である。 この授業は講義方式であるが、実際には後期の日本語表現法演習と一体として進めていくので、一部演習も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法演習も併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】簡単な口頭発表が適切にできる。また、原稿用紙を適切に使って簡単なレポートが書ける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 千葉正昭他編『日本語表現 演習と発展【改訂版】』明治書院 (2) 1500ページ以上ある国語辞典いづれか1冊（電子辞書でも可） 教科書体・筆順付きの国語表記ハンドブック類（電子辞書では不可）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 自己紹介/発音、姿勢、歩き方 第2回 自己アピールをする 第3回 口頭で道案内をする 第4回 ディスカッション 第5回 表現の自由と人権 第6回 口頭発表のまとめ 第7回 現代語表記と原稿のきまり 第8回 メールで問い合わせる 第9回 使いやすいマニュアルとは 第10回 企画や提案を出す(1)形式 第11回 企画や提案を出す(2)グループ討論を経て 第12回 資料を探す(1) 図書館で探す 第13回 資料を探す(2) インターネットで調べる 第14回 論理の展開とレトリック 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)に、グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)、随時行う表記に関する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修

授業科目	日本語表現法演習	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ</p> <p>【概要】日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポートを作成し、口頭発表を行う。 この授業は演習方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体として進めていくので、一部講義も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】資料を調べて、口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 千葉正昭他編『日本語表現 演習と発展【改訂版】』明治書院 (2) 1500ページ以上ある国語辞典いづれか1冊（電子辞書でも可） 教科書体・筆順付きの国語表記ハンドブック類（電子辞書では不可）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 参考文献を読む 第2回 参考文献を引用する 第3回 プレゼンテーションとアクセシビリティ 第4回 課題レポート作成(1) 第5回 課題レポートの発表(1) 第6回 課題レポートに関する討論(1) 第7回 課題レポート作成(2) 第8回 課題レポートの発表(2) 第9回 課題レポートに関する討論(2) 第10回 課題レポート作成(3) 第11回 課題レポートの発表(3) 第12回 課題レポートに関する討論(3) 第13回 試験レポートのための資料収集 第14回 試験レポートのテーマに関する討論 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)に、グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)、随時行う表記に関する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

授業科目	対照言語学	担当者	未定
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	日本文学講義Ⅰ	担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 大江匡衡と赤染衛門～平安時代の家族像～ 【概要】 「丹波の守の北の方をば、宮、殿のわたりには匡衡衛門とぞいひまべる」と紫式部は『紫式部日記』に記しました。丹波の守とは一条朝を代表する学者であった大江匡衡、その北の方は藤原道長家の女房で、『栄花物語』の作者とも伝えられる赤染衛門です。 『源氏物語』などに描かれ物語の中る恋愛とは、実際の中流貴族の結婚とその後の生活については、両者の資料がそろっている場合が少なく実態を知ることは困難です。この二人の場合、それぞれの私家集『赤染衛門集』『匡衡集』が残っているほか、匡衡の詩文集『江吏部集』が残っており、生涯が比較的たどりやすくなっています。この二人を中心に平安時代の家族について考えていきたいと思います。 【到達目標】 大江匡衡と赤染衛門、それぞれの伝記を理解するとともに、平安時代の家族像について考察できるようにする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 大江匡衡・赤染衛門について 第2回 『源氏物語』 「雨夜の品定め」に見る結婚観 第3回 赤染衛門の独身時代『赤染衛門集』から 第4回 大江匡衡の独身時代『匡衡集』『江吏部集』から 第5回～第6回 求婚と結婚 第7回～第9回 匡衡の求職活動『江吏部集』『本朝文料』から 第10回～第11回 子供たち 第12回～第13回 尾張守としての生活 第14回 匡衡の死とその後の赤染衛門 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート (100%)		

授業科目	日本文学講読Ⅰ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔学期〕 後期 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 萬葉集巻8を読む</p> <p>【概要】 日本文学講読Ⅰは上代（奈良時代以前）の文学を対象とし、『萬葉集』を一巻ずつ読み進めている。本年は巻八を読む。巻八は、中学校の国語の教科書にも載る「石走る 垂水の上のさわらびの 萌えいづる春に なりにけるかも」で始まり、雑歌と相聞が四季別に分類された巻である。万葉人の季節感を味わいたい。</p> <p>基本的に受講生による輪読形式で読み進めていき、適宜、説明を補う。</p> <p>【到達目標】 萬葉集の歌の特徴を知り、上代文学に関する基礎的な知識を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 伊藤 博『万葉集釈注(四)』集英社文庫</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション。萬葉集について—諸本・読み方—</p> <p>第2回 巻八解説</p> <p>第3回 輪読担当の説明 春の雑歌講読</p> <p>第4回 春の雑歌輪読</p> <p>第5回 春の相聞輪読</p> <p>第6回～第7回 夏の雑歌輪読</p> <p>第8回 夏の相聞輪読</p> <p>第9回～第10回 秋の雑歌輪読</p> <p>第11回～第12回 秋の相聞輪読</p> <p>第13回 冬の雑歌輪読</p> <p>第14回 冬の相聞輪読</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	輪読担当（50%）、レポート（50%）		

授業科目	日本文学講読Ⅱ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔学期〕 前期 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 伊勢物語を読む</p> <p>【概要】 高校の古典の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅びな貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またあるときは好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講義では、角倉素安と本阿弥光悦によって製作された、近世最初期の絵入り本である嵯峨本の影印（写真版）を用いて、昔男の恋と友情を読んでいく。また、『伊勢物語』は源氏物語や室町時代の謡曲など、後代のさまざまな文学作品にも影響を与えた。講義の中で、そのような『伊勢物語』の影響下に成立した作品にも触れていきたい。</p> <p>【到達目標】 くずし字（変体仮名）がよめるようになる。『伊勢物語』について、またその構成に及ぼした影響について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 片桐洋一編『伊勢物語 慶長十三刊嵯峨本第1種（影印）』和泉書店</p> <p>(2) 石田穰二訳注『伊勢物語』角川日本古典文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 伊勢物語について 昔男の変遷</p> <p>第2回 初段 昔男が登場 変体仮名の読み方</p> <p>第3回～第6回 二条の後 三段～六段</p> <p>第7回～第9回 東下り 七段～九段</p> <p>第10回～第11回 伊勢の斎宮 漢文学との関わり 六九段～七二段</p> <p>第12回～第14回 男の友情 一六・三八・四六・四八・八二・八三段</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	くずし字解説の小テスト2回（20%）、伊勢物語小テスト1回（10%）レポート（70%）		

授業科目	日本文学講読Ⅲ	担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『源氏物語』「絵合（えあわせ）」を読む</p> <p>【概要】日本文学講読Ⅲは日本文学講読Ⅱと同様に中古の文学を対象とする。本講読では『源氏物語』から「絵合」巻を読む。テキストは江戸時代に広く読まれた「首書-かしらがき-」（頭注）付き板本の影印（写真）である。現代の物語解釈とは違う、江戸時代以前の源氏物語解釈を参考にすることで、千年の寿命を保ってきた『源氏物語』の享受史をも考えたい。受講生の輪読の形で、首書を参考にしながら、翻刻・解釈していく予定である。</p> <p>【到達目標】源氏物語について基本的な文学史的事項（享受史含む）を理解する。『源氏物語』の巻名を覚える。「絵合」巻の内容を知り、『源氏物語』全体の中での位置づけを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 清水婦久子『首書源氏物語 絵合・松風（影印）』和泉書店 (2) 角川文庫ビギナーズクラシック『源氏物語』		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 作品概説『源氏物語』について 第2回 「絵合」巻について 輪読担当説明 第3回 「絵合」輪読 第4回 第1回小テスト「絵合」輪読 第5回～第9回 「絵合」輪読 第10回 第2回小テスト「絵合」輪読 第11回～第14回 「絵合」輪読 第15回 まとめ		
成績評価の方法	輪読担当（50%） 源氏物語巻名小テスト（10%） 筆記試験（40%）		

授業科目	日本文学講読Ⅳ	担当者	橋口 晋作
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中世の文学作品『平家物語』覚一本原本を、学生が中心になって読み取り、解釈し、鑑賞して行く。</p> <p>【概要】覚一本『平家物語』で鬼界が島に流された俊寛達の事件の経緯を読み、鑑賞する。学生が、原文を翻訳し、注釈した資料を作成し、発表しながら、全員で鑑賞して行く。</p> <p>【到達目標】本講読での学生の到達目標は、次ぎの3点である。先ず、先行研究を利用して原文を読み、解釈する力をつけることである。次ぎに、担当した部分の発表資料を作成し、発表の準備をする力をつけることである。最後に、全員の前で、資料によりながら、担当した部分を読んで、注釈をつけ、授業する発表力をつけることである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 新日本古典文学大系『平家物語 上』岩波書店		
授業スケジュール	第1回 中世の文学と『平家物語』について 第2回 『徒然草』の『平家物語』作者説 第3回 一 成親の任官執着 1 第4回 同 2 第5回 同 3 第6回 二 多田行綱の裏切り 1 第7回 同 2 第8回 同 3 第9回 三 重盛の苦悩 1 第10回 同 2 第11回 四 康頼、成経の祈願 1 第12回 同 2 第13回 同 3 第14回 同 4 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（60%）+授業での発表内容（40%）		

授業科目	日本文学演習Ⅰ・Ⅲ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1年, 2年 (注) 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代私家集の解釈と鑑賞</p> <p>【概要】本演習は、前期の日本文学演習Ⅱの続きである。 新たに1年生が加わり、日本文学演習Ⅰと2年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の担当を通して、調査、発表の仕方を学んで欲しい。取り扱う作品については、日本文学演習Ⅱを参照されたい。</p> <p>【到達目標】演習Ⅰ 平安時代の私家集について理解する。日本古典文学の注釈に必要な資料の調べ方、まとめ方を身につける。 演習Ⅲ 四条宮下野集について理解を深める。わかりやすいプレゼンテーションの仕方を工夫する。 演習Ⅰ・Ⅲ共通 討論の仕方を身につけ、実際に討論して結論を導くことができるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 岩波新日本古典文学大系『平安私家集』他		
授業スケジュール	第1回 2年生によるオリエンテーション 演習の進め方について 辞書・牽引の引き方、資料の探し方、その他注意事項 第2回 2年生による模範演習 第3回～第14回 各担当者による演習 第15回 まとめ		
成績評価の方法	演習Ⅰ：演習時の発言、態度 (50%) レポート (50%) 演習Ⅲ：演習担当 (50%) 演習時の発言、態度 (50%)		

(注) 1年生は演習Ⅰ, 2年生は演習Ⅲ

授業科目	日本文学演習Ⅱ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代私家集の解釈と鑑賞</p> <p>【概要】日本文学演習Ⅰ～Ⅲは古典文学の演習である。本年度は平安時代の私家集を読む。私家集とは個人の歌集であり、その編集の仕方はさまざまだが、本演習では昨年度に引き続き、日記的な性格を持つ私家集『四条宮下野集』を読む。本演習では、冷泉家時雨亭本を用い、各担当者が歌の配列や詞書を参考にしながら、歌の解釈をしていき、『四条宮下野集』全体の構成を読み解いていく。</p> <p>【到達目標】平安時代の私家集について理解する。プレゼンテーションと討論の仕方を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 岩波新日本古典文学大系『平安私家集』他		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 演習の進め方 第2回 四条宮下野集輪読1 第3回 四条宮下野集輪読2 第4回 四条宮下野集輪読3 第5回 四条宮下野集輪読4 第6回 四条宮下野集輪読5 第7回 四条宮下野集輪読6 第8回 四条宮下野集輪読7 第9回 四条宮下野集輪読8 第10回 四条宮下野集輪読9 第11回 四条宮下野集輪読10 第12回 四条宮下野集輪読11 第13回 四条宮下野集輪読12 第14回 四条宮下野集輪読13 第15回 まとめ		
成績評価の方法	演習担当 (50%), 演習時の発言、態度 (50%)		

授業科目	日本文学史・近代Ⅰ 日本文学史Ⅰ	担当者	岩本 晃代
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 明治以降の文学を各時代の社会的、文化的背景と関連づけて概観する。</p> <p>【概要】 日本文学史・近代Ⅰは、明治期から大正期までの文学を対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、特に文学的影響の大きな作品については、実際に作品本文を紹介し、社会や文化的な関わりをも含めて、その史的意義が明らかになるように講じる。</p> <p>【到達目標】 近代日本の文学史上の基礎的な知識の習得。文学作品を、社会的、文化的背景と関連付けて考察することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう、プリント。</p> <p>(2) 日本近代文学館編『日本近代文学大事典』講談社、他、授業中に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 近代の文学 (明治・大正) 概観</p> <p>第2回 近代化と文学 近代の特質</p> <p>第3回 近代化と文学 〈私〉の構造</p> <p>第4回 明治の文学 明治初期の文学表現</p> <p>第5回 明治の文学 書き言葉の改革</p> <p>第6回 明治の文学 文学の改良</p> <p>第7回 明治の文学 近代文学の改良</p> <p>第8回 明治の文学 言文一致体小説</p> <p>第9回 明治の文学 写実主義と写生説</p> <p>第10回 明治の文学 浪漫主義の小説と詩歌</p> <p>第11回 明治の文学 自然主義の革新 (小説)</p> <p>第12回 明治の文学 自然主義の革新 (詩歌)</p> <p>第13回 大正の文学 大正文壇の概観</p> <p>第14回 大正の文学 大正文壇と私小説</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験 70%</p> <p>授業ごとに実施するミニレポート 30%</p>		

(注) 英語英文学専攻は「日本文学史Ⅰ」として選択

授業科目	日本文学史・近代Ⅱ 日本文学史Ⅱ	担当者	岩本 晃代
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 明治以降の文学を各時代の社会的、文化的背景と関連づけて概観する。</p> <p>【概要】 日本文学史・近代Ⅱは、昭和期 (大正末期をふくむ) から現在までの文学を対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、特に文学的影響の大きな作品については、実際に作品本文を紹介し、社会や文化的な関わりをも含めて、その史的意義が明らかになるように講じる。</p> <p>【到達目標】 近代日本の文学史上の基礎的な知識の習得。文学作品を、社会的、文化的背景と関連付けて考察することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう、プリント。</p> <p>(2) 日本近代文学館編『日本近代文学大事典』講談社、他、授業中に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 日本近代文学 (大正末から現在まで) 概観</p> <p>第2回 昭和の文学 新感覚派・前衛詩</p> <p>第3回 昭和の文学 主知主義文学</p> <p>第4回 昭和の文学 プロレタリア文学</p> <p>第5回 昭和の文学 文芸復興の時代1</p> <p>第6回 昭和の文学 文芸復興の時代2 四季派の抒情その1</p> <p>第7回 昭和の文学 文芸復興の時代3 四季派の抒情その2</p> <p>第8回 昭和の文学 戦争文学と日本回帰</p> <p>第9回 昭和の文学 戦後混乱期の表現</p> <p>第10回 昭和の文学 近代的表現の行方</p> <p>第11回 昭和の文学のまとめ</p> <p>第12回 現代の文学 昭和30年代</p> <p>第13回 現代の文学 昭和40年代</p> <p>第14回 現代の文学 昭和50年以降現在まで</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験 70%</p> <p>授業ごとに実施するミニレポート 30%</p>		

(注) 英語英文学専攻は「日本文学史Ⅱ」として選択

授業科目	日本文学講義Ⅱ	担当者	岩本 晃代
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 昭和の代表的な詩人とその作品について、社会的、文化的背景を視野に入れつつ講義する。</p> <p>【概要】 萩原朔太郎・西脇順三郎・三好達治・立原道造・田中冬二・村野四郎・丸山薫・蔵原伸二郎ら代表的な昭和の詩人と、その具体的な作品を取り上げて講義する。また、それらを対象とした批評・論文を読むことによって、日本文学概論、日本文学講義、日本文学演習で培った作品の鑑賞・分析の力をさらに向上させるとともに、各詩人の文学史における位置づけを意識させる。</p> <p>【到達目標】 昭和の詩人についての知識を深め、詩を鑑賞・分析する力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 岩本晃代『昭和詩の抒情』双文社出版、他、適宜授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 昭和詩の概観 第2回 萩原朔太郎とその作品 第3回 西脇順三郎とその作品 第4回 四季派とは何か1 第5回 四季派の詩人 三好達治とその作品 第6回 四季派の詩人 立原道造とその作品 第7回 四季派の詩人 田中冬二とその作品 第8回 四季派の詩人 村野四郎とその作品 第9回 四季派の詩人 丸山薫とその作品1 第10回 四季派の詩人 丸山薫とその作品1 第11回 四季派の詩人 丸山薫とその作品1 第12回 四季派の詩人 蔵原伸二郎とその作品1 第13回 四季派の詩人 蔵原伸二郎とその作品1 第14回 四季派とは何か2 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>レポート70% 授業中ごとに実施するミニレポート30%</p>		

授業科目	日本文学講義Ⅴ	担当者	丹羽 謙治
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 赤穂事件と文学 (1)</p> <p>【概要】 元禄14年～16年(1701～03)に起こった、いわゆる「赤穂事件」は当時の社会に大きな影響を及ぼした。事件はすぐに芝居や文学の世界に取り込まれ、虚構や趣向を加えられながら様々な作品が作られていった。この授業では、赤穂事件の概要を押さえた上で、作品を鑑賞し、どのように形で事件が文学に取り込まれていったかについて考察する。</p> <p>【到達目標】 「赤穂事件」の概要を把握する。 赤穂事件を取り込んだ文学作品の鑑賞を通して江戸の人々の感性や思考法を把握する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント配布 (2) 『浄瑠璃集』(新潮古典文学集成, 1985年)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 導入 文学史における近世 第2回 赤穂事件について(1) 第3回 赤穂事件について(2) 第4回 赤穂事件について(3) 第5回 赤穂事件に取材した芝居(1) 第6回 赤穂事件に取材した芝居(2) 第7回 赤穂事件に取材した芝居(3) 第8回 赤穂事件に取材した浮世草子(1) 第9回 赤穂事件に取材した浮世草子(2) 第10回 赤穂事件に取材した浮世草子(3) 第11回 赤穂事件に取材した浮世草子(4) 第12回 赤穂事件を描いた実録(1) 第13回 赤穂事件を描いた実録(2) 第14回 赤穂事件を描いた実録(3) 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>平常点(30%), 筆記試験(70%)</p>		

授業科目	日本文学講読Ⅶ	担当者	丹羽 謙治
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 赤穂事件と文学（2）</p> <p>【概要】 元禄14年～16年（1701～03）に起こった、いわゆる「赤穂事件」は当時の社会に大きな影響を及ぼした。事件はすぐに芝居や文学の世界に取り込まれ、虚構や趣向を加えられながら様々な作品が作られていった。この授業では、歌舞伎と浄瑠璃、および戯作文学の作品を鑑賞し、どのように形で事件が文学に取り込まれていったかを把握するとともに、ジャンルによる特徴について考察する。</p> <p>【到達目標】 赤穂事件を取り込んだ文学作品の鑑賞を通して江戸の人々の感性や思考法を把握する。 歌舞伎、浄瑠璃に関する知識を得る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 『浄瑠璃集』（新潮古典文学集成、1985年）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 『仮名手本忠臣蔵』の成立</p> <p>第2回 『仮名手本忠臣蔵』大序（1）</p> <p>第3回 『仮名手本忠臣蔵』大序（2）</p> <p>第4回 『仮名手本忠臣蔵』三段目（1）</p> <p>第5回 『仮名手本忠臣蔵』三段目（2）</p> <p>第6回 『仮名手本忠臣蔵』四段目</p> <p>第7回 『仮名手本忠臣蔵』五段目・六段目（1）</p> <p>第8回 『仮名手本忠臣蔵』五段目・六段目（2）</p> <p>第9回 『仮名手本忠臣蔵』五段目・六段目（3）</p> <p>第10回 『仮名手本忠臣蔵』七段目（1）</p> <p>第11回 『仮名手本忠臣蔵』七段目（2）</p> <p>第12回 『仮名手本忠臣蔵』八～十一段目</p> <p>第13回 戯作と『忠臣蔵』（1）</p> <p>第14回 戯作と『忠臣蔵』（2）</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	平常点（30%）、筆記試験（70%）		

授業科目	日本文学講読Ⅶ	担当者	岩本 晃代
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近代文学における代表的な長編小説、夏目漱石の『こころ』を講読する。</p> <p>【概要】</p> <p>『こころ』を高等学校で習った学生も多いと思われる。また、全編を読んだことがある学生もいるだろう。だが、この科目においては、あくまでも研究的視点から作品を読んでいく。『こころ』の「上 先生と私」と「中 両親と私」を丁寧に注釈しながら輪読し、当時の文化的背景を意識しつつ、その文学的評価を試みる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>文学作品を対象に、注釈する力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 夏目漱石『こころ』岩波文庫</p> <p>(2) 夏目漱石『漱石全集』岩波書店、他、適宜授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 夏目漱石について</p> <p>第2回 注釈の方法と実践</p> <p>第3回 発表資料の作成について</p> <p>第4回 「上 先生と私」（1）</p> <p>第5回 「上 先生と私」（2）</p> <p>第6回 「上 先生と私」（3）</p> <p>第7回 「上 先生と私」（4）</p> <p>第8回 「上 先生と私」（5）</p> <p>第9回 「上 先生と私」（6）</p> <p>第10回 「上 先生と私」のまとめ</p> <p>第11回 「中 両親と私」（1）</p> <p>第12回 「中 両親と私」（2）</p> <p>第13回 「中 両親と私」（3）</p> <p>第14回 「中 両親と私」のまとめ</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	口頭発表（質疑応答等含む）70% レポート30%		

授業科目	日本文学講読Ⅷ	担当者	岩本 晃代
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 日本近代文学における代表的な長編小説、夏目漱石の『こころ』を講読する。 【概要】 『こころ』の「下 先生と遺書」は、全編中において問題の多い部分である。これを丁寧に注釈しながら輪読し、当時の文化的背景を意識しつつ主題を考察し、その文学的評価を試みる。 【到達目標】 文学作品を対象に、注釈する力および問題点について議論する力を身につける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 夏目漱石『こころ』岩波文庫 (2) 夏目漱石『漱石全集』岩波書店。他、適宜、授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 「上 先生と私」「中 両親と私」の概要 第2回 注釈の方法と実践 第3回 発表資料の作成について 第4回 「下 先生と遺書」(1) 第5回 「下 先生と遺書」(2) 第6回 「下 先生と遺書」(3) 第7回 「下 先生と遺書」(4) 第8回 「下 先生と遺書」(5) 第9回 「下 先生と遺書」(6) 第10回 「下 先生と遺書」(7) 第11回 「下 先生と遺書」(8) 第12回 「下 先生と遺書」(9) 第13回 「下 先生と遺書」(10) 第14回 「下 先生と遺書」のまとめ 第15回 まとめ		
成績評価の方法	口頭発表(質疑応答等含む) 70% レポート等 30%		

授業科目	日本文学講読Ⅸ	担当者	古閑 章
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 文学作品に描かれた鹿児島女性の女性像を通して自己の生き方を探る。 【概要】 宮尾登美子著「天璋院篤姫」と中村きい子著「女と刀」の主人公を取り上げ、時代の枠を超えて輝き続ける鹿児島女性の女性および女性一般の生き方を考える。手続きとしては、宮尾文学のアウトラインや中村きい子の伝記にも注目しながら、両作品の内容を丁寧に辿ることになる。 【到達目標】 時代や社会・文化構造の違いを理解し、その持つ意味や価値を現代社会と対比しながら把握する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 古閑 章『天璋院篤姫と権領司キラー時代を超えた薩摩おごじょー』(2008・6, 南方新社) (2)		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 自立する女性の相貌 第3回 宮尾登美子略歴 第4回 「天璋院篤姫」の世界(1) 第5回 「天璋院篤姫」の世界(2) 第6回 「天璋院篤姫」の世界(3) 第7回 「天璋院篤姫」の世界(4) 第8回 「天璋院篤姫」の世界(5) 第9回 中村きい子略歴 第10回 「女と刀」の世界(1) 第11回 「女と刀」の世界(2) 第12回 「女と刀」の世界(3) 第13回 「女と刀」の世界(4) 第14回 「女と刀」の世界(5) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	前後1～2回のレポート(1,000字程度)による。(100%)		

授業科目	日本文学演習Ⅳ,Ⅵ	担当者	岩本 晃代
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 近代詩史のうえで主要な小説家および詩人の作品を取り上げ鑑賞する。</p> <p>【概要】 1年生はテキストの中から、近代詩史上代表的な詩人の作品を題材にして、それぞれの担当が、注釈・鑑賞を試みる。 2年生は、関心のある作家の作品を対象にして、研究発表を行う。 毎回の授業で口頭発表し、参加者全員で問題点について議論する。</p> <p>【到達目標】 作品を分析する力、および問題点について議論する力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 吉田弥壽夫・萬田務編『展望 近代詩 その歴史と作品』双文社出版 (2) 伊藤信吉他編『現代詩鑑賞講座』角川書店、伊藤信吉他編『日本の詩歌』中央公論社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、演習の方法の説明 第2回 作品研究の方法について 第3回 発表資料の作成について 第4回 2年生口頭発表(1) 第5回 2年生口頭発表(2) 第6回 2年生口頭発表(3) 第7回 2年生口頭発表(4) 第8回 2年生口頭発表(5) 第9回 前半のまとめと詩の鑑賞の方法について 第10回 1年生口頭発表(1) 第11回 1年生口頭発表(2) 第12回 1年生口頭発表(3) 第13回 1年生口頭発表(4) 第14回 1年生口頭発表(5) 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>口頭発表(質疑応答等含む) 70% レポート等 30%</p>		

(注) 1年生は演習Ⅳ, 2年生は演習Ⅵ

授業科目	日本文学演習Ⅴ	担当者	岩本 晃代
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 近代における代表的な文学作品を対象にした、論文作成の方法の習得と、その実践。</p> <p>【概要】 現代文学史のうえで代表的な作品を各学生が自主的に選定し、先行研究の分析、論点の提出、注釈および解釈を行い、その報告をもとに受講者全員で議論する。主に戦後から現代までの文学作品を対象とする。 口頭発表、参加者全員の議論をふまえて、小論文を作成する。</p> <p>【到達目標】 文学作品を研究的視点でとらえ、論文を作成する力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 日本現代文学史の概観 第2回 演習方法について 対象とする作品の選定 第3回 発表資料の作成について 第4回 口頭発表(1) 第5回 口頭発表(2) 第6回 口頭発表(3) 第7回 口頭発表(4) 第8回 口頭発表(5) 第9回 口頭発表(6) 第10回 口頭発表(7) 第11回 口頭発表(8) 第12回 小論文の書き方その1 第13回 小論文の書き方その2 第14回 小論文の書き方その3 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>口頭発表(質疑応答等含む) 40% レポート 60%</p>		

授業科目	南九州の文学Ⅱ	担当者	三嶽 公子
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 南九州の文学に見る風土の豊かさ、そして希望 南九州を舞台とした文学作品を読みながら、離島を含む南九州の風土の豊かさ、その土地で生きることへの希望を汲み取る。南九州における自然と人間のかかわり、真実、物語について学習する。</p> <p>【概要】 南九州の文学作品ベスト15を読む 南九州を舞台とした文学作品をできるだけ広範囲に、各地域ごとに読みこなす。作品そのものに深く触れ、そこから立ち上がる風景や人々の生き方について味わい、考える。同時に、21世紀を生きる、これからの生き方へのヒントを探る。</p> <p>【到達目標】 「わたしの好きな鹿児島1冊」ができるように。 南九州ゆかりの文学作品に触れることで、自分の感受性を耕し、心に残る物語や言葉を自分の宝物にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「みたけきみこと読む かごしまの文学」(K&Yカンパニー 2007年) (2) 「向田邦子 かごしま文学散歩」(K&Yカンパニー 2003年) (3) 「屋久島文学散歩」(K&Yカンパニー 2005年) 授業ごとに作成したプリントを配布。		
授業スケジュール	第1回 鹿児島県の文学マップを読む 第2回 向田邦子「鹿児島感傷旅行」と城山・天保山 第3回 林芙美子「浮雲」と屋久島 第4回 棕鳩十「片耳の大鹿」と屋久島 第5回 山尾三省「アニミズムという希望」と屋久島 第6回 島尾敏雄「出発は遂に訪れず」と奄美 第7回 梅崎春生「桜島」と「幻化」の坊津 第8回 桜島句碑めぐり 第9回 海音寺潮五郎「二本の銀杏」と大口 第10回 一色次郎「青幻記」と干刈あがた「島唄」の沖永良部 第11回 森瑤子「アイランド」と与論島 第12回 やしまたろうの絵本「村の樹」「道草いっぱい」「からすたろう」の根占三部作 第13回 中村きい子「女と刀」と横川 第14回 与謝野晶子・寛夫妻と「霧島の歌」 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業ごとのレポート(50%) + 学期末提出のレポート(50%)		

授業科目	中国文学史Ⅰ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国の文学と社会</p> <p>【概要】2年次は中国文学が社会に果たした役割を概説します。 今でこそ文学は娯楽に過ぎませんが、昔の中国においては社会人として生きていくために必要な技能であり、その能力が人生を左右することもありました。毎回テーマを設定して当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。唐詩や『三国志』など、中国文学の主要なジャンルについても社会との関連を意識しながら紹介していきます。 理解度を確認するため小論文形式のテストを数回実施します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義を理解すると同時に、講義内容を文章でまとめる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 儒教</p> <p>第3回 神話</p> <p>第4回 思想</p> <p>第5回 皇帝</p> <p>第6回 庶民と貴族</p> <p>第7回 道教</p> <p>第8回 知識人</p> <p>第9回 生活</p> <p>第10回 遊び</p> <p>第11回 文言と白話</p> <p>第12回 芸能</p> <p>第13回 道楽</p> <p>第14回 学問</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	小テスト50%、定期試験50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学史Ⅱ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文化の活用</p> <p>【概要】三国志をはじめ、中国文化は日本人にとって今でも価値を持ちつづけています。不思議となくならないこの価値について、伝統的な漢詩文のほか書画・仏教、そしてサブカルチャーまで見渡し、日本人の価値観の一部としての中国文化を再確認します。 理解度を確認するため小論文形式のテストを数回実施します。</p> <p>【到達目標】日本人が無意識に利用している中国文化を再認識すると同時に、講義内容を文章でまとめる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 文字と文章 (1)</p> <p>第3回 文字と文章 (2)</p> <p>第4回 文学とかな (1)</p> <p>第5回 文学とかな (2)</p> <p>第6回 書 (1)</p> <p>第7回 書 (2)</p> <p>第8回 画 (1)</p> <p>第9回 画 (2)</p> <p>第10回 仏教 (1)</p> <p>第11回 仏教 (2)</p> <p>第12回 文学 (1)</p> <p>第13回 文学 (2)</p> <p>第14回 文学 (3)</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	小テスト50%、定期試験50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅰ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国の文学と生活Ⅰ 【概要】 1年次は中国人の生活に取材した中国の古典文学を読みます。漢文という特殊な文体に慣れることも大切ですが、中国人のものの考え方や生活感を同時に伝えていくつもりです。質疑応答によってみなさんの読解力を養いながら授業を進めます。理解度を確認するため小テストを数回実施します。 【到達目標】 教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文を習得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 家族 (1) 第3回 家族 (2) 第4回 家族 (3) 第5回 家族 (4) 第6回 家族 (5) 第7回 家族 (6) 第8回 友人と恋人 (1) 第9回 友人と恋人 (2) 第10回 友人と恋人 (3) 第11回 友人と恋人 (4) 第12回 友人と恋人 (5) 第13回 友人と恋人 (6) 第14回 友人と恋人 (7) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト50%、定期試験50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国の文学と生活Ⅱ 【概要】 1年次は中国人の生活に取材した中国の古典文学を読みます。漢文という特殊な文体に慣れることも大切ですが、中国人のものの考え方や生活感を同時に伝えていくつもりです。質疑応答によってみなさんの読解力を養いながら授業を進めます。理解度を確認するため小テストを数回実施します。 【到達目標】 教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文を習得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 風物 (1) 第3回 風物 (2) 第4回 風物 (3) 第5回 風物 (4) 第6回 風物 (5) 第7回 風物 (6) 第8回 娯楽 (1) 第9回 娯楽 (2) 第10回 娯楽 (3) 第11回 娯楽 (4) 第12回 娯楽 (5) 第13回 娯楽 (6) 第14回 娯楽 (7) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト50%、定期試験50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学演習Ⅰ,Ⅲ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 1年, 2年(注) 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 鹿児島県の漢文資料</p> <p>【概要】 郷土にゆかりのある漢文を読みます。 漢文は日本人にとって昔も今も異質な存在ですが、そのため威厳を示すオモテの顔として重宝されました。郷土の人や組織の誇りを代弁する資料を題材に選んで、漢文読解の訓練をします。 全員で読んでいくので十分に予習をしてきてください。質疑応答によってみなさんの読解力を養いながら授業を進めます。</p> <p>【到達目標】 返り点・送り仮名のない白文の読解力、歴史・社会的事項の調査能力を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 鹿児島県の漢文資料 (1) 第3回 鹿児島県の漢文資料 (2) 第4回 鹿児島県の漢文資料 (3) 第5回 鹿児島県の漢文資料 (4) 第6回 鹿児島県の漢文資料 (5) 第7回 鹿児島県の漢文資料 (6) 第8回 鹿児島県の漢文資料 (7) 第9回 鹿児島県の漢文資料 (8) 第10回 鹿児島県の漢文資料 (9) 第11回 鹿児島県の漢文資料 (10) 第12回 鹿児島県の漢文資料 (11) 第13回 鹿児島県の漢文資料 (12) 第14回 鹿児島県の漢文資料 (13) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	予習と質疑応答 100%。定期試験は実施しません。		

(注) 1年生は演習Ⅰ, 2年生は演習Ⅲ

授業科目	中国文学演習Ⅱ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国文学に関する報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問</p> <p>【概要】 中国文学に関する文献を素材にして、素材選択から調査、分析、構想、発表までの一連のステップを訓練します。 発表は文章による報告書、説得を重視するプレゼンテーション、質問への対応にしばった口頭試問からなり、総合的な表現力向上を図ります。 どのステップも社会人に必要な技術であることを常に意識して演習を進めます。</p> <p>【到達目標】 中国文学に限らず、社会人一般に求められている企画力の充実を目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について (1) 第2回 授業の進め方について (2) 第3回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (1) 第4回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (2) 第5回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (3) 第6回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (4) 第7回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (5) 第8回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (6) 第9回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (7) 第10回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (8) 第11回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (9) 第12回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (10) 第13回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (11) 第14回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (12) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	卒業研究Ⅰ,Ⅱ	担当者	専攻教員全員																														
	[履修年次] 2年 [単位] 各1単位	[学期] 前期,後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。 1年次にこの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2年次前期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ、冬期には、卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。 教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。</p> <p>【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 授業中に紹介します。</p> <p>(2) 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書</p>																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>I 第1回 卒業論文の進め方</td> <td>II 第1回 論文作成(1)</td> </tr> <tr> <td>第2回 論文作成(1)</td> <td>第2回 論文作成(2)</td> </tr> <tr> <td>第3回 論文作成(2)</td> <td>第3回 論文作成(3)</td> </tr> <tr> <td>第4回 論文作成(3)</td> <td>第4回 論文作成(4)</td> </tr> <tr> <td>第5回 論文作成(4)</td> <td>第5回 論文作成(5)</td> </tr> <tr> <td>第6回 論文作成(5)</td> <td>第6回 論文作成(6)</td> </tr> <tr> <td>第7回 論文作成(6)</td> <td>第7回 論文作成(7)</td> </tr> <tr> <td>第8回 論文作成(7)</td> <td>第8回 論文作成(8)</td> </tr> <tr> <td>第9回 論文作成(8)</td> <td>第9回 論文作成(9)</td> </tr> <tr> <td>第10回 論文作成(9)</td> <td>第10回 論文作成(10)</td> </tr> <tr> <td>第11回 論文作成(10)</td> <td>第11回 論文作成(11)</td> </tr> <tr> <td>第12回 論文作成(11)</td> <td>第12回 発表準備(1)</td> </tr> <tr> <td>第13回 論文作成(12)</td> <td>第13回 発表準備(2)</td> </tr> <tr> <td>第14回 論文作成(13)</td> <td>第14回 発表準備(3)</td> </tr> <tr> <td>第15回 中間報告</td> <td>第15回 口頭発表</td> </tr> </table>			I 第1回 卒業論文の進め方	II 第1回 論文作成(1)	第2回 論文作成(1)	第2回 論文作成(2)	第3回 論文作成(2)	第3回 論文作成(3)	第4回 論文作成(3)	第4回 論文作成(4)	第5回 論文作成(4)	第5回 論文作成(5)	第6回 論文作成(5)	第6回 論文作成(6)	第7回 論文作成(6)	第7回 論文作成(7)	第8回 論文作成(7)	第8回 論文作成(8)	第9回 論文作成(8)	第9回 論文作成(9)	第10回 論文作成(9)	第10回 論文作成(10)	第11回 論文作成(10)	第11回 論文作成(11)	第12回 論文作成(11)	第12回 発表準備(1)	第13回 論文作成(12)	第13回 発表準備(2)	第14回 論文作成(13)	第14回 発表準備(3)	第15回 中間報告	第15回 口頭発表
I 第1回 卒業論文の進め方	II 第1回 論文作成(1)																																
第2回 論文作成(1)	第2回 論文作成(2)																																
第3回 論文作成(2)	第3回 論文作成(3)																																
第4回 論文作成(3)	第4回 論文作成(4)																																
第5回 論文作成(4)	第5回 論文作成(5)																																
第6回 論文作成(5)	第6回 論文作成(6)																																
第7回 論文作成(6)	第7回 論文作成(7)																																
第8回 論文作成(7)	第8回 論文作成(8)																																
第9回 論文作成(8)	第9回 論文作成(9)																																
第10回 論文作成(9)	第10回 論文作成(10)																																
第11回 論文作成(10)	第11回 論文作成(11)																																
第12回 論文作成(11)	第12回 発表準備(1)																																
第13回 論文作成(12)	第13回 発表準備(2)																																
第14回 論文作成(13)	第14回 発表準備(3)																																
第15回 中間報告	第15回 口頭発表																																
成績評価の方法	<p>I : 中間報告 100%</p> <p>II : 卒業論文 75%, 口頭発表 25%</p>																																

授業科目	英文学史	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】まず、文学史という科目に潜んでいる問題点を考える。次に、18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18世紀の特徴、19世紀の特徴、20世紀の特徴を理解させる。この場合、受講者がイギリス文学に親しみを持ち、文学に面白味を感じるように、できる限りビデオを活用して解説を試みる。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。</p> <p>【到達目標】18世紀の小説の特徴、19世紀の小説の特徴、20世紀の小説の特徴を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 川崎寿彦著『イギリス文学史』成美堂</p> <p>(2) サブテキストは講義中に指定する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション(講義方式の説明, 文学史の科目に潜む問題点の探究)</p> <p>第2回 18世紀の小説(その一): 18世紀の小説とその周辺に関する諸問題</p> <p>第3回 18世紀の小説(その二): 18世紀の小説におけるH. フィールドینگ, L. スターン, T. スモレットの役割</p> <p>第4回 18世紀の小説(その三): 18世紀後半のゴシック小説</p> <p>第5回 18世紀の小説(その四): G. オースティンの小説</p> <p>第6回 18世紀の小説に関する小テスト, 19世紀の小説(その一): 19世紀(ヴィクトリア朝)小説の特徴</p> <p>第7回 19世紀の小説(その二): C. ディケンズの小説</p> <p>第8回 19世紀の小説(その三): W. M. サッカレーの小説, ブロンテ姉妹の小説</p> <p>第9回 19世紀の小説(その四): ダーウィニズムの影響, 19世紀後半(ヴィクトリア朝後期)の小説</p> <p>第10回 19世紀の小説に関する小テスト, 20世紀の小説(その一): 20世紀小説の特徴</p> <p>第11回 20世紀の小説(その二): V. ウルフの小説, H. ジェイムズの小説, E. M. フォスターの小説</p> <p>第12回 20世紀の小説(その三): D. H. ロレンスの小説</p> <p>第13回 20世紀の小説(その四): H. G. ウェルズの小説</p> <p>第14回 20世紀の小説に関する小テスト, 映像課題に関する発表会</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(60点), 講義中の小テスト/授業への取り組み(30点), 課題レポート(10点)</p>		

(注) 日本語日本文学専攻は選択

授業科目	米文学史	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Race relations in modern American literary history. アメリカの文学と歴史を著名なアメリカの人物と作家の文章を通して学習します。</p> <p>【概要】 The course will alternate between lectures and group presentations. Students will be asked to analyze one part of a course text. Four quizzes will test reading comprehension.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to practice literary analysis while raising historical consciousness of the modern literary, social, and cultural history of race relations in the United States.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (Penguin, 2003) (2) Mark Twain 著 『The United States of Lyncherdom』 Martin Luther King Jr. による演説 (抜粋), Adamek 編集		
授業スケジュール	第1回～第3回 Introduction. “The United States of Lyncherdom,” Mark Twain 第4回 Review (Quiz 20%) 第5回～第8回 “The United States of Lyncherdom,” Mark Twain 第9回 Review (Quiz 20%), Introduction to <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (pages 5-7; 2-4) 第10回 <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (14; 8-13) 第11回 Review (Quiz 20%) (15-28) 第12回 <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (29-32) 第13回 <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (36-41) 第14回 Review (Quiz 40%) 第15回 Discussion of quiz results and general review		
成績評価の方法	授業への参加(50%); 小テスト(50%)。		

(注) 日本語日本文学専攻は選択

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p>【概要】 異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p>【到達目標】 国際的視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第1回 イントロダクション 第2回 文化・異文化とは？ 第3回 コミュニケーションとは？ 第4回 言語・非言語コミュニケーション1 第5回 言語・非言語コミュニケーション2 第6回 言語・非言語コミュニケーション3 第7回 ステレオタイプと偏見 第8回 価値観 第9回 文化・文明の衝突 第10回 異文化の理解 第11回 カルチャーショックと異文化適応 第12回 翻訳と通訳 第13回 異文化コミュニケーションの方法 第14回 多文化共生 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (40%), 筆記試験 (60%)		

(注) 英語英文学専攻は教職必修

授業科目	書道Ⅰ	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楷書・行書・かなの特徴と書法</p> <p>【概要】 書道は文字を素材とする芸術である。その文字の姿もさまざまな形があり、実に興味深い。しかし、現代において文字はまさに書く時代ではなく打つ時代であるが、筆を執って文字を書くすばらしさと大切さを実感してもらいたい。 本講座では、書体の変遷について概要を学び、実技へと移行する。まず、書の重要な書体である楷書の基本点画を学習してから行書、さらにはかなの基本へと進む。</p> <p>【到達目標】 楷書・行書・かなの書き方を習得する</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 書について (書体の特徴とその変遷) 第2回 楷書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第3回 " " 第4回 " " 第5回 " (細字の書き方) 第6回 " " 第7回 行書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " (細字の書き方) 第11回 " " 第12回 かなの特徴と書き方 (いろは単体) 第13回 " " 第14回 " (連綿とその応用) 第15回 " "		
成績評価の方法	授業における清書作品 (70%) + 添削の回数 (30%)		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅱ	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楷書・行書の古典学習及び草書の特徴と書法</p> <p>【概要】 本講座では、楷書・行書と草書の学習に終始する。 書の基本となる書体は楷書であり、日常生活において最も多用される文字は行書である。それらの古典を学ぶことにより、運筆の要領を習得し、文字造形の特徴を把握することに努める。 草書は芸術性が重視される書体で、日常ではその文字がほとんど目にしないが、書の知識を広げ、書のすばらしさを理解していくためには不可欠な書体である。</p> <p>【到達目標】 楷書・行書の古典の特徴を把握し、草書の特徴と書き方を習得する</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 楷書の古典 (九成宮醜泉銘) 第2回 " " 第3回 " (始平公造像記) 第4回 " " 第5回 行書の古典 (蘭亭叙) 第6回 " " 第7回 " (苕溪詩卷) 第8回 " (吳昌碩詩稿) 第9回 " (風信帖) 第10回 " " 第11回 草書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第12回 " " 第13回 草書の古典 (書譜) 第14回 " " 第15回 " (擬山園帖)		
成績評価の方法	授業における清書作品 (70%) + 添削の回数 (30%)		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅲ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 隷書・篆書の特徴と書法</p> <p>【概要】 書道Ⅲでは隷書と篆書を中心に学習する。 隷書は今から1800年前の漢時代に生まれた書体であるが、その文字は現代でも紙幣等に使用されて生きている。 隷書の技法を学び、造型のおもしろさを実感してもらう。 篆書は中国最古の文字。金文と小篆のユニークな字形や筆法を学習する。</p> <p>【到達目標】 隷書・篆書の特徴とその書き方を習得する</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 隷書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第2回 " " 第3回 " " 第4回 隷書の古典 (曹全碑の臨書) 第5回 " " 第6回 " " 第7回 " (礼器碑の臨書) 第8回 " " 第9回 篆書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第10回 " " 第11回 篆書の古典 (散氏盤の臨書) 第12回 " " 第13回 " (石鼓文の臨書) 第14回 " " 第15回 " (趙之謙篆書対聯)		
成績評価の方法	授業における清書作品 (70%) + 添削の回数 (30%)		

授業科目	書道Ⅳ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 かなの古典学習と作品制作</p> <p>【概要】 日本の書を代表するかな (古筆) の学習を通して、その芸術性と文字の特徴を学ぶ。 かなは漢字がくずされて発生したものであるが、日本人が独自に創出した文字である。その真の姿を追求したい。 後半は書道学習の集大成として創作にチャレンジする。自用印を刻し、創作作品に押印して総仕上げとする。 書の楽しさと魅力を味わってもらうことも目的である。</p> <p>【到達目標】 かなの古典を習得することと創作作品が書けるようになること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 かなの古典 (高野切第1種) 第2回 " " 第3回 " (高野切第3種) 第4回 " " 第5回 " (寸松庵色紙) 第6回 " " 第7回 作品制作 (篆刻—自用印) 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " " 第11回 " (漢字作品—4字熟語) 第12回 " " 第13回 " " 第14回 " (調和体作品) 第15回 " "		
成績評価の方法	授業における清書作品 (60%) + 添削の回数 (40%)		

6 英語英文学専攻専門科目

授業科目	スタディスキルズ	担当者	遠峯 伸一郎・中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式 (一部演習)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成</p> <p>【概要】 大学での専門的「勉強」は，受動的に知識を吸収するだけでは不十分で，あるテーマについて疑問を持ち（批判的検討能力），それについて論理的に議論を展開し，自らその問題に対して「解答」を与えること（問題解決能力）が求められます。この講義では，その種の能力に達するために必要な基礎的学習技術－「聴く」「読む」「調べる」「整理する」「まとめる」「書く」「伝える」－を段階的に学んでいき，あるテーマについて論理的な論述を展開したレポートを作成できるようにします。</p> <p>【到達目標】 与えられたテーマについて自らの意見を持ち，その意見を論理的に展開できるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 学習技術研究会『知へのステップ 改訂版－大学生からのスタディ・スキルズ』くろしお出版		
授業スケジュール	第1回 イン트로：「生徒」から「学生」へ 第2回 「聴く」と「読む」：積極的な聞き手と読み手になるために 第3回 「深く読む」：論旨や要点を整理して分析的に読む 第4回 「調べる」と「整理する」：大学図書館とインターネットを用いた効率的な情報検索の仕方 第5回 「まとめる」と「書く」(その一)：レポート作成のための効果的なアカデミック・ライティング 第6回 「まとめる」と「書く」(その二)：パソコンによるライティング・スキル (レポート作成術) 第7回 「表現する」と「伝える」：自分の意見をわかりやすく表現して伝える 第8回 まとめ		
成績評価の方法	レポート (50%) + 授業時の取り組み (50%)		

授業科目	言語学概論	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 Oral communication 【概要】 Students practice asking and answering questions on a variety of topics. Students must note words and ideas that they know how to say in Japanese but do not at first know how to say in English. Students will also propose language-learning tasks that respond to their personal interests. To practice pronunciation, we will perform a song together for students in other sections of Oral Communication I. 【到達目標】 The aim is to increase fluency in English. Students will be made familiar with ways of asking and responding to questions posed about new information.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) Song lyrics, distributed in class		
授業スケジュール	第1～2回 Topics 1 and 2 第17～18回 Topics 17 and 18 第3～4回 Topics 3 and 4 第19～20回 Topics 19 and 20 第5～6回 Topics 5 and 6 第21～22回 Topics 21 and 22 第7～8回 Topics 7 and 8 第23～24回 Topics 23 and 24 第9～10回 Topics 9 and 10 第25～26回 Topics 25 and 26 第11～12回 Topics 11 and 12 第27～28回 Topics 27 and 28 第13～14回 Topics 13 and 14 第29回 Topic 27 第15～16回 Topics 15 and 16 第30回 実践		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 This is a practical course for students to improve their basic English listening and speaking skills. 【概要】 Class time will be centered on the study of basic language patterns and strategies for everyday conversation. Pair practice will be an integral part of classroom practice. 【到達目標】 The goal of this course is to help students comprehend and communicate in English more spontaneously, independently, and confidently.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) McCarthy / McCarten / Sandiford, <i>Touchstone 2</i> , Cambridge University Press (2)		
授業スケジュール	第1週 Introduction, Unit 1 第2週 Unit 1 第3週 Unit 2 第4週 Unit 2 第5週 Unit 3 第6週 Unit 3 第7週 Review 1-3, evaluation 第8週 Unit 4 第9週 Unit 4 第10週 Unit 5 第11週 Unit 5 第12週 Unit 6 第13週 Unit 6 第14週 Review 4-6, evaluation 第15週 復習と筆記小テスト/オーラル・テスト/オーラル・レポート		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (35%), Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%), Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅠ	担当者	ジョン デグルシー
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>Theme. Oral communication on a variety of topics. Summary. Students will communicate in pairs and groups, asking and answering questions and role-playing. The emphasis is on speaking and listening, but some reading and grammar study will help increase vocabulary and develop natural fluency Aim. The aim is to build vocabulary and confidence for English communication.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Smart Choice 3, by Ken Wilson		
授業スケジュール	<p>Week 1: Introduction</p> <p>Weeks 2-12: We will proceed chapter by chapter through the text, completing each chapter in approximately three classes. Due to time limitations, one or two chapters may be skipped.</p> <p>Weeks 13-15: Extra time is allocated to review, short tests, presentations, and a final oral interview.</p>		
成績評価の方法	Class participation (40%); short written review quizzes after every two chapters (30%); final oral interview (30%).		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	フィリップ アダメック																																
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Oral communication</p> <p>【概要】 Students ask and answer questions on a variety of topics. The students will keep notebooks to record the main ideas of our discussions.</p> <p>【到達目標】 The aim is to increase fluency in English and bring students to think critically about their own study of the language. Fluent pronunciation will be practiced in part by means of singing a single song as a class. Other elements to be practiced will be direct and indirect speech, question formation, and stating personal views.</p>																																		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし																																		
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1～2回</td> <td>Introduction</td> <td>第17～18回</td> <td>Topic 6</td> </tr> <tr> <td>第3～4回</td> <td>Introduction</td> <td>第19～20回</td> <td>Review and interview</td> </tr> <tr> <td>第5～6回</td> <td>Topic 1</td> <td>第21～22回</td> <td>Topic 7</td> </tr> <tr> <td>第7～8回</td> <td>Topic 2</td> <td>第23～24回</td> <td>Topic 8</td> </tr> <tr> <td>第9～10回</td> <td>Topic 3</td> <td>第25～26回</td> <td>Topic 9</td> </tr> <tr> <td>第11～12回</td> <td>Review and interview</td> <td>第27～28回</td> <td>Topic 10</td> </tr> <tr> <td>第13～14回</td> <td>Topic 4</td> <td>第29回</td> <td>Topic 11</td> </tr> <tr> <td>第15～16回</td> <td>Topic 5</td> <td>第30回</td> <td>Review and interview</td> </tr> </table>			第1～2回	Introduction	第17～18回	Topic 6	第3～4回	Introduction	第19～20回	Review and interview	第5～6回	Topic 1	第21～22回	Topic 7	第7～8回	Topic 2	第23～24回	Topic 8	第9～10回	Topic 3	第25～26回	Topic 9	第11～12回	Review and interview	第27～28回	Topic 10	第13～14回	Topic 4	第29回	Topic 11	第15～16回	Topic 5	第30回	Review and interview
第1～2回	Introduction	第17～18回	Topic 6																																
第3～4回	Introduction	第19～20回	Review and interview																																
第5～6回	Topic 1	第21～22回	Topic 7																																
第7～8回	Topic 2	第23～24回	Topic 8																																
第9～10回	Topic 3	第25～26回	Topic 9																																
第11～12回	Review and interview	第27～28回	Topic 10																																
第13～14回	Topic 4	第29回	Topic 11																																
第15～16回	Topic 5	第30回	Review and interview																																
成績評価の方法	<p>Class participation 授業での参加の割合 (35%)</p> <p>Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%)</p> <p>Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)</p>																																		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to further improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice will be an integral part of classroom work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students further comprehend and communicate in English spontaneously, independently, and confidently.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Dale Fuller / Corey Fuller, <i>Face to Face, Second Edition</i> , Macmillan Language House (2)		
授業スケジュール	第1週 Unit 1A, Unit 1B 第2週 Speech 1, Unit 2A 第3週 Unit 2B, Speech 2 & Quiz 1-2 第4週 Unit 3A, Unit 3B 第5週 Speech 3, Unit 4A 第6週 Unit 4B, Speech 4 & Unit 5A 第7週 Unit 5B, Speech 5 & Quiz 3-5 第8週 Unit 6A, Unit 6B 第9週 Speech 6, Unit 7A 第10週 Unit 7B, Speech 7 & Quiz 6-7 第11週 Unit 8A, Unit 8B 第12週 Speech 8, Unit 9A 第13週 Unit 9B, Speech 9, Unit 11A 第14週 Unit 11B, Speech 11 & Quiz 8, 9, 11 第15週 復習と筆記小テスト/オーラル・テスト/オーラル・レポート		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (35%), Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%), Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	ジョン デグルシー
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><u>Theme.</u> Oral communication on a variety of topics.</p> <p><u>Summary.</u> Students will communicate in pairs and groups, asking and answering questions and role-playing. The emphasis is on speaking and listening, but some reading and grammar study will help increase vocabulary and develop natural fluency.</p> <p><u>Aim.</u> The aim is to build vocabulary and confidence for English communication.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<u>Smart Choice 3</u> , by Ken Wilson		
授業スケジュール	Week 1: Introduction Weeks 2-12: We will proceed chapter by chapter through the text, completing each chapter in approximately three classes. Due to time limitations, one or two chapters may be skipped. Weeks 13-15: Extra time is allocated to review, short tests, presentations, and a final oral interview.		
成績評価の方法	Class participation (40%); short written review quizzes after every two chapters (30%); final oral interview (30%).		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 Oral communication 【概要】 Students complete textbooks exercises and practice asking and answering questions relating to the conversation topics. 【到達目標】 The aim is to increase fluency by practicing vocabulary and notions that are important to today's students and citizens. We will integrate brainstorming, reading, listening, writing, and role playing in accordance with Greg Goodmacher's outline.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Stimulating Conversation, Greg Goodmacher (Intercom Press, 2008). (2) なし		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨン 第2回 リーディングとディスカッション Unit 1 第9回 リーディングとディスカッション Unit 8 第3回 リーディングとディスカッション Unit 2 第10回 リーディングとディスカッション Unit 9 第4回 リーディングとディスカッション Unit 3 第11回 リーディングとディスカッション Unit 10 第5回 リーディングとディスカッション Unit 4 第12回 リーディングとディスカッション Unit 11 第6回 リーディングとディスカッション Unit 5 第13回 リーディングとディスカッション Unit 12 第7回 リーディングとディスカッション Unit 6 第14回 実践 (面接) 第8回 リーディングとディスカッション Unit 7 第15回 実践		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 This is a course aimed at developing the students' vocabulary and ability to communicate their ideas spontaneously and independently. 【概要】 Class time will be centered on listening, speaking, and vocabulary work leading to discussions of interesting, pertinent topics. 【到達目標】 The goal of this course is to help students increase their vocabulary and become spontaneous in understanding and expressing themselves in English. They should become able to carry on a discussion with confidence.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Margaret Brooks, <i>Q: Skills for Success, Listening & Speaking 2</i> , Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第1回 Unit 1 第2回 Unit 1 第3回 Unit 1 第4回 Unit 2 第5回 Unit 2 第6回 Unit 2 第7回 Unit 3 第8回 Unit 3 第9回 Unit 3 第10回 Unit 4 第11回 Unit 4 第12回 Unit 4 第13回 Unit 5 第14回 Unit 5 第15回 筆記小テスト/オーラル・プレゼンテーション		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (35%) , Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) , Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	Oral CommunicationⅢ	担当者	Andrew Daniels
	[履修年次] 2 nd Year [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course will focus on a number of interesting topics from the textbook and allow students the chance to express themselves in pairs and group situations.</p> <p>【概要】 Students will work on listening skills, speaking skills and develop their ability to give impromptu short speeches on topics from the text by using key vocabulary patterns.</p> <p>【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Impact Issues Student Book 3 (Longman Publications Richard R Day et al) (2)		
授業スケジュール	第1回-第6回 Key topics from the first half of the textbook based on students own interests 第7回 Review Quiz of first half of semester 第8回-第14回 Key topics from the units in the second half of the textbook 第15回 Final Quiz		
成績評価の方法	In class presentations 30% Vocabulary and short quizzes 40% Final Quiz 30%		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅣ	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an advanced course aimed at polishing the students' listening and speaking ability.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on (1) a study of English idiomatic expressions using natural dialogs, conversation practice, and listening practice; and (2) speech work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students increase their vocabulary and become confident in expressing their ideas in a more formal way through speeches.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Barry Ward, <i>Idioms from Square One</i> , Macmillan Language House/ プリント (2)		
授業スケジュール	第1回 Introduction & Idioms, Unit 1 第2回 Idioms, Unit 2 & speech Unit 1A 第3回 Idioms, Unit 3 & speech Unit 1B 第4回 Idioms, Unit 4 & speech Unit 1C 第5回 Idioms, Unit 5 & speech assignment #1 第6回 Idioms, Unit 6 & speech Unit 2 第7回 Idioms, Unit 7 & 8 第8回 Idioms, Unit 9 & speech assignment #2 第9回 Idioms, Unit 10 & speech Unit 3 第10回 Idioms, Unit 11 & 12 第11回 Idioms, Unit 13 & speech assignment #3 第12回 Idioms, Unit 14 & 15 第13回 Idioms, Unit 16 & 17 第14回 Idioms, Unit 18 & 19 第15回 筆記テスト/オーラル・プレゼンテーション		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (35%), Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%), Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	Oral CommunicationⅣ	担当者	Andrew Daniels
	〔履修年次〕 2 nd Year 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is designed to allow students to express themselves on a wide range of topics, and help them develop strategies for making clear precise and interesting presentations in English.</p> <p>【概要】 Focus will be on key aspects of presentation skills such as eye contact, intonation, note cards, content and visual aids. Students will use these devices to present their information to the class.</p> <p>【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第1回-第4回 Fashion, Global Youth Culture and Generation Gap 第5回-第6回 World Music and expressing opinions about it 第7回 Review Week 第8回-第11回 Health, Diets and the Pressures of the Mass Media 第12回-第14回 Travel and plans for the future 第15回 Final Quiz		
成績評価の方法	In class presentations 30% Vocabulary and short quizzes 40% Final Quiz 30%		

授業科目	LL演習 I	担当者	久木田 美枝子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 総合的な英語運用能力の育成を図り、1年前期では、自然な英語をそのまま聴き取る基礎的力の養成に力点を置きながら、簡単な英語でのプレゼンテーション能力を培う。LL教室使用</p> <p>【概要】 21世紀に入って、意外な変容を呈しているアメリカ社会・文化の様々な側面を紹介したテキストを軸に、国際交流の基礎となる異文化理解を狙いとし、バランスのとれた基礎的英語運用能力を培う。 LL教室使用。</p> <p>【到達目標】 自然な英語の聴解力とともに、簡単な英語でのプレゼンテーションに慣れる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Akira Morita 他著, <i>Kaleidoscope U.S.A.</i> , 成美堂 David E. Bramley 他著, <i>Score Goals in TOEIC® Test Listening 500</i> , 松柏社 (2) John Lander 著, <i>American Voyager</i> ,		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Hot Dogs Firefighter 第3回 Firefighter The Sounds of Bluegrass 第4回 The Sounds of Bluegrass Harlem Reborn 第5回 Harlem Reborn 第6回 Islam in America 第7回 UFO Fever 第8回 The Teddy Bear 第9回 At-Home Dads 第10回 Big Wave Rider 第11回 Historic Route 66 第12回 Cheerleader 第13回 Pets in America 第14回 Native American Olympics 第15回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

授業科目	LL演習Ⅱ	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】総合的な英語運用能力の育成を図り、1年後期では、中級程度の自然な英語をそのまま聞き取る力の養成に力を置きながら、簡単な英語でのプレゼンテーション能力を培う。</p> <p>【概要】NHK衛星放送のWhat's on Japan と News Today 30 Minutes から採択し、日本社会及び近隣諸国の最近の動向を完結にまとめたテキストを軸に、バランスのとれた中級程度の英語運用能力を培う。LL教室使用。</p> <p>【到達目標】自然な英語の聴解力とともに、簡単な英語でのプレゼンテーションに慣れるとともに、数々のトピックに関して自分の考えを英語で表現する能力をも培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Tatsuroh Yamasaki 他著, <i>What's on Japan 3</i> , 金星堂 David E. Bramley 他著, <i>Score Goals in TOEIC® Test Listening 600</i> , 松柏社 (2) Steve Lia 他著, <i>Australia, Here We Come!</i> , 朝日出版		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 "Hashi" of Your Own 第3回 Things for Free 第4回 Phone "Book" 第5回 Metabolic Syndrome 第6回 Citizen Judges 第7回 Eyes on Tokyo 第8回 World Heritage Site 第9回 Pollen Nation 第10回 Ninety-year-old Champion 第11回 Saving Caps Saves Lives 第12回 Branding Japan 第13回 Nation Tested 第14回 Japanese Doctor in Myanmar 第15回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

授業科目	LL演習Ⅲ	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】総合的な英語運用能力の育成を図り、2年前期では、多様性のある自然な英語の聴解力の養成に力を置きながら、より高度な英語でのプレゼンテーション能力を培う。</p> <p>【概要】前半は、海外で活躍する人々にインタビューした録音素材を基に、話の内容を速解し自分の英語で要約を書いた後、英語でディスカッションする。</p> <p>後半は、ABC放送のテレビニュース番組 "World News Today" を録画したテキストを基に、揺れ動くアメリカと世界の「現在」を学びながら、バランスのとれた高度な総合的英語運用能力を培う。LL教室使用。</p> <p>【到達目標】比較的高速な自然な英語の聴解力とともに、高度な英語でのプレゼンテーションに慣れるとともに、数々のトピックに関して自分の考えを英語で表現する能力をも培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Shigeru Yamane 他著, <i>ABC World News 10</i> , 金星堂 David E. Bramley 他著, <i>Score Goals in TOEIC® Test Listening 700</i> , 松柏社 (2) 随時プリント		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 E-mail Addicts 第3回 Teenage Drivers: Cameras in the Car 第4回 Key to the World: Kiribati 第5回 Person of the Week: Virginia Tech 第6回 Olympic Reunion 第7回 Beyond Beauty 第8回 A Closer Look: College Costs 第9回 Clock Alarm: Daylight Saving Time 第10回 A Closer Look: Coming to America 第11回 Health Benefits 第12回 Signing Off: No E-mail Fridays 第13回 Back to School: New Amish School 第14回 Creative Retirement Community 第15回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

授業科目	コミュニケーション概論	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】多文化共生の現代国際社会における、国際理解と英語コミュニケーションについて考察し、望ましい積極的異文化受容の基本的姿勢についても考察する。</p> <p>【概要】世界各地から日本にやってきた留学生が、それぞれの文化的背景をもちながら、どのように現代日本と関わっているかを扱ったビデオを基に、これからの国際的日本人としてどのような点が重要かも考えていきたい。</p> <p>【到達目標】積極的異文化受容の基本的姿勢を培うとこと同時に、基本的な異文化コミュニケーションの基本的姿勢をも培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) David K. Groff 他著, <i>The "I" in Identity</i> , 南雲堂 (2) 随時プリント		
授業スケジュール	第1回 国際語としての英語 Unit 1 第2回 " Unit 2 第3回 " Unit 3 第4回 国際理解と英語コミュニケーション Unit 4 第5回 " Unit 5 第6回 英語社会の言語コミュニケーション Unit 6 第7回 " Unit 7 第8回 英語を聴くコミュニケーション Unit 8 第9回 " Unit 9 第10回 英語を話すコミュニケーション Unit 10 第11回 " Unit 11 第12回 英語を読むコミュニケーション Unit 12 第13回 英語を書くコミュニケーション Unit 13 第14回 " Unit 14 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

(注) 教職必修

授業科目	ビジネス英語	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ビジネスの成果とコミュニケーション能力</p> <p>【概要】学生の皆さん, "Roma meravigliosa non era costruita durante una notte"(素晴らしいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が言うように、誰も一晩や「有名な先生」の指導によって突然、完璧なウクライナ語、英語やタイ語で喋り始めたのではない!! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼氏・彼女の為ならスペイン語も「簡単さ」) というものが極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】演習内容の 75% 以上理解すること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 演習の内容, 勉学方法, 教科書使用, 単位取得条件と成績についての説明とミニ演習。 第2回 Unit 2. Application Letter.(英和訳, 読解等 <>) 第3回 同題 (教官と共に内容まとめとコミュニケーション練習 ◎) 第4回 Unit 4. A Job Interview. (<>) 第5回 同題 ◎ 第6回 Unit 5. Job Offer. (<>) 第7回 同題 ◎ 第8回 Unit 7. Preparing to Work. (<>) 第9回 同題 ◎ 第10回 Unit 9. Taking A Message by Phone. (<>) 第11回 同題 ◎ 第12回 Unit 11. Visiting A Client (<> and ◎) 第13回 Unit 21. The First Business Trip. (<> and ◎) 第14回 受講生が選択したテーマの学習 第15回 まとめと期末テスト ★ 参加者の言語的力量と上達の速度に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習度合い 30%, 演習参加の積極性と発言内容 40% と 期末テスト 30% の合計		

授業科目	通訳入門	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代の国際化社会に必要とされる通訳の世界について、歴史と現状、将来の展望について概説し、高められた英語運用能力を前提としながら、英日・日英逐次通訳及び同時通訳等の理論と手法を習得する。</p> <p>【概要】通訳理論を概説した後、プロ通訳養成の手法を取り入れ、様々な状況で、具体的な通訳訓練法：リスニング、音読、リピーティング、シャドーイング、スラッシュ・リーディング、スラッシュ・リスニング、順送り訳、メモ取り/メモ化、サイト・トランスレーション、同時サイトトランスレーション、メモリーレッスン、リプロダクション、サマライゼーション、同時通訳、逐次通訳、要約通訳などの手法を習得する。</p> <p>【到達目標】高められた英語運用能力を、実践的な通訳手法に反映させ、「より自然な英語」及び「より自然な日本語」の表現を体得すると同時に、ボランティア通訳などの可能性も探る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 日本通訳協会編、『英語通訳への道』、大修館書店 (2) 柴田パネッサ監修、『通訳トレーニング入門』、アルク		
授業スケジュール	第1回 はじめに 第2回 通訳の現場から 第3回 通訳の世界 第4回 通訳の基礎訓練 第5回 困っている人を助ける 第6回 茶道のいろは 第7回 留守番電話に入った伝 第8回 特別ゲストを迎えて 第9回 ビジネスの国際化が進む中… 第10回 英語で日本を紹介する 第11回 今日のプレゼンテーションは… 第12回 英語習得の必要性 外国人学生と英語の習得 第13回 ニュースの通訳に挑戦 第14回 〃 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (50%) , レポート (50%) で評価する。		

授業科目	英語学概論	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学の諸分野(形態論、意味論、統語論)の入門</p> <p>【概要】形態論(語の内部構造)、意味論、統語論(文の構造)の各分野を概観する。</p> <p>【到達目標】形態論、統語論、意味論について基礎的な知識を得ること、英語を分析的に見る力を養うことを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス、英語学とは何か 第2回 語の成り立ち-形態論(1) 語の語尾変化と接辞-屈折と派生 第3回 語の成り立ち-形態論(2) 複数の語を合わせて1つの語を作る-複合、内心複合語と外心複合語 第4回 語の成り立ち-形態論(3) 語形を変化させずに品詞を変化させる-転換 第5回 形態論小テスト、ことばの意味について考える-意味論(1) 上位語・下位語、含意、同義・反義 第6回 ことばの意味について考える-意味論(2) メタファー 第7回 意味と文法の関係について-意味論(3) 意味役割、選択制限 第8回 意味と文法の関係について-意味論(4) 二重目的語構文に見られる構文と意味の関係 第9回 意味と文法の関係について-意味論(5) 受動態に見られる構文と意味の関係 第10回 意味論小テスト、文の構造-統語論(1) 五文型と文構造の分析-五文型との違い 第11回 文の構造-統語論(2) 補部、付加部-五文型との違い 第12回 統語論小テスト 第13回 音声学・音韻論 音素と異音 第14回 ことばの使用状況と意味の関係-語用論 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	試験(35%) + 小テスト(50%) + 宿題と授業への参加状況(15%)		

(注) 教職必修

授業科目	英文法	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の記述文法</p> <p>【概要】時制, 相, 名詞, 冠詞, 不定詞, 動名詞の各分野について記述文法を詳しく学ぶ。</p> <p>【到達目標】英文法の学習を通して英語を分析的に見る力を養い, 英語の理解力・表現力を向上させることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) Murphy, R. and W. R. Smalzer, <i>Grammar in Use: Intermediate</i>, Cambridge University Press, 久野暲・高見健一, 『謎解きの英文法』, くろしお出版。その他の参考文献は随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス, 英文法を学ぶ意義—「なぜ」を説明できるために</p> <p>第2回 時制・相(1) 現在形と現在進行形を理解する</p> <p>第3回 時制・相(2) 過去形と現在完了形を理解する</p> <p>第4回 時制・相(3) 現在完了進行形を理解する</p> <p>第5回 さまざまな未来の表現</p> <p>第6回 小テスト1, 名詞の種類, 可算名詞と不可算名詞を理解する</p> <p>第7回 定冠詞と不定冠詞の用法を理解する</p> <p>第8回 総称の表現を理解する</p> <p>第9回 複合語を理解する</p> <p>第10回 小テスト2, 動詞の補語に現れる動名詞を理解する</p> <p>第11回 動詞の補語に現れる不定詞を理解する</p> <p>第12回 不定詞付き対格を理解する</p> <p>第13回 不定詞と動名詞の使い分けを理解する</p> <p>第14回 小テスト3, 原形不定詞を理解する</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (40%) + 宿題と授業への参加状況 (20%)		

(注) 教職必修

授業科目	英語史	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の歴史</p> <p>【概要】英語という言語は約1500年の歴史を持つ。この授業では, 英語の歴史について, 英語が使われる社会の歴史 (外面史) と英語そのものの史的変化 (内面史) の両面から講義する。</p> <p>【到達目標】英語史を学ぶことで現代の英語をより深く理解することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 児馬修, 『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房 (第1章から第9章), 寺澤盾, 『英語の歴史』中公新書1971, 宇賀治正朋, 『現代の英語学シリーズ8 英語史』, 開拓社。その他の参考文献は随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス, 現代の英語に見られる英語史の反映</p> <p>第2回 英語史の概観</p> <p>第3回 ケルト人とアングロ・サクソン</p> <p>第4回 father と parent—インド・ヨーロッパ祖語</p> <p>第5回 キリスト教の伝来とアルファベットの成立</p> <p>第6回 古英語を読む (アルフリッチの聖者伝から)</p> <p>第7回 古英語の豊富な屈折一名詞と冠詞を中心に</p> <p>第8回 デーン人の侵攻と古ノルド語</p> <p>第9回 印欧祖語～デーン人・古ノルド語小テスト, ノルマン征服</p> <p>第10回 ノルマン征服 (続き)</p> <p>第11回 中英語期のフランス語からの借用語</p> <p>第12回 中英語を読む (『カンタベリー物語』から)</p> <p>第13回 綴りと発音の不一致—大母音推移と印刷術の発達</p> <p>第14回 英国ルネッサンスと近代英語期の語彙の増大</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	試験 (50%) + 小テスト (40%) + 宿題と授業への参加状況 (10%)		

授業科目	英語音声学	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の音声</p> <p>【概要】日本語の音声との相違点に注意を向けながら英語の音声が作られるしくみを学習し、発音練習する。</p> <p>【到達目標】英語の音声がどのように作られるか理解すること、発音技能とリスニング能力を高めることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 参考文献 毎回紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、音声学とは何か、リスニング力診断</p> <p>第2回 前舌母音 日本語との違いを理解し、発音・聴解練習する</p> <p>第3回 後舌母音 日本語との違いを理解し、発音・聴解練習する</p> <p>第4回 中央母音 日本語との違いを理解し、発音・聴解練習する</p> <p>第5回 小テスト、二重母音 二重母音の特徴を学ぶ</p> <p>第6回 発音器官、子音の性質と分類、鼻音 発音の仕組み、子音の分類法を学ぶ。鼻音の練習をする</p> <p>第7回 閉鎖音、音素と異音 音素と異音の概念を理解する。閉鎖音の詳細を学び、練習する</p> <p>第8回 摩擦音、破擦音 日本語との違いを理解し、発音・聴解練習する</p> <p>第9回 接近音、子音連結 /l/と/h/の区別を学ぶ、日本語では許容されない子音の連結を練習する</p> <p>第10回 小テスト、複合語アクセント 句アクセントと複合語アクセントの違いを学び、練習する</p> <p>第11回 音縮小 英語のリズムを作り出す上で重要な機能語の音変化を学び、練習する</p> <p>第12回 小テスト</p> <p>第13回 同時調音 周囲の環境による音変化を学び、練習する</p> <p>第14回 イントネーション イントネーションと意味の関係を学び、練習する</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	試験 (30%) + 小テスト (40%) + 宿題 (30%)		

(注) 教職必修

授業科目	英語表現法 I	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a basic English writing course focused on the fundamentals of effective sentence and paragraph writing.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study of the importance of proper paragraph organization, including central idea, topic sentence, supporting sentences, and paragraph conclusion. Students will become familiar with the forms and functions of outlines. Practice of important grammar points will be integrated into the lessons. Freewriting assignments and unit composition assignments will aim at leading students to greater fluency and accuracy.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students learn the organizational principles of English writing and improve their sentence accuracy.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Savage & Shafiei, <i>Effective Academic Writing 1 (The Paragraph)</i>, Oxford University Press</p> <p>Paterson / Harrison / Coe, <i>Grammar Spectrum 3</i>, Oxford University Press</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Unit 1A (begin discussing paragraph organization)</p> <p>第3回 Unit 1B</p> <p>第4回 Unit 1C</p> <p>第5回 Unit 1D</p> <p>第6回 Unit 1 Composition assignment, first draft</p> <p>第7回 Unit 1 Composition assignment, second draft</p> <p>第8回 Unit 2A</p> <p>第9回 Unit 2B</p> <p>第10回 Unit 2 Composition assignment, first draft</p> <p>第11回 Unit 2 Composition assignment, second draft</p> <p>第12回 Unit 3A</p> <p>第13回 Unit 3B</p> <p>第14回 Unit 3 composition assignment, first draft</p> <p>第15回 Unit 3 composition assignment, second draft</p>		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 90%, Class participation (授業時の取り組み) 10%		

授業科目	Eigo Hyogen Ho I	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 1 st year [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	This is a basic writing course which takes students from writing a sentence to paragraphs. Students will learn to recognize and write a topic sentence. They also will be able to write introductory, supporting and concluding paragraphs. Students will be required to complete regular assignments.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Effective Academic Writing (The Paragraph), by Savage and Shafiei Publisher: Oxford University Press (2) Grammar Spectrum 3, by Norman Coe, Oxford University Press		
授業スケジュール	The lesson will proceed through the textbook.		
成績評価の方法	Students' marks will be based on class participation 15%, freewriting 15%, two in-class compositions 30% and a final examination 40%.		

授業科目	英語表現法Ⅱ	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a continuation of a paragraph writing course. The course will emphasize the organizational principles of good paragraph writing and the step-by-step thinking and writing process.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on grammar, sentence level, rhetoric, and paragraph structure practice. Students will gradually progress toward multi-paragraph essays, and freewriting will be continued.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students further master the organizational principles of English writing and polish their sentence accuracy.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Savage & Shafiei, <i>Effective Academic Writing 1 (The Paragraph)</i> , Oxford University Press Paterson / Harrison / Coe, <i>Grammar Spectrum 3</i> , Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Review 第2回 Unit 4A 第3回 Unit 4B 第4回 Unit 4 composition assignment, first draft 第5回 Unit 4 composition assignment, second draft 第6回 Discussion of essay writing 第7回 Unit 5A 第8回 Unit 5B 第9回 Unit 5 composition assignment, first draft 第10回 Unit 5 composition assignment, second draft 第11回 Unit 6A 第12回 Unit 6B 第13回 Unit 6 composition assignment, first draft 第14回 Unit 6 composition assignment, second draft 第15回 Grammar Quiz		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 90%, Class participation (授業時の取り組み) 10%		

授業科目	Eigo Hyogen Ho II	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 1 st year [単位] 1 単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	This is a basic writing course which takes students from writing a sentence to paragraphs. Students will learn to recognize and write a topic sentence. They also will be able to write introductory, supporting and concluding sentences. Students will be required to complete regular assignments.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Effective Academic Writing (The Paragraph), by Savage and Shafiei Publisher: Oxford University Press (2) Grammar Spectrum 3, by Norman Coe, Oxford University Press		
授業スケジュール	The lesson will proceed through the textbook.		
成績評価の方法	Students' marks will be based on class participation 10%, freewriting assignments 15% and three in-class compositions 75%.		

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 2年 [単位] 1 単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of effective multi-paragraph essay writing.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study of the importance of proper essay organization and the step-by-step thinking and writing process. Students will become familiar with the forms and functions of outlines. This will include grammar, sentence level, rhetoric, and paragraph structure practice. Freewriting assignments and composition assignments will aim at leading students to greater fluency and accuracy.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students learn the organizational principles of English multi-paragraph essay writing and improve their sentence accuracy.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント, Paterson/Harrison/Coe, <i>Grammar Spectrum 3</i> , Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第1回 Introduction, discussion of the five-paragraph essay 第2回 Continue discussion of the five-paragraph essay and classification writing 第3回 Classification essay, first draft 第4回 Classification essay, second draft 第5回 Discuss cause and effect writing 第6回 Cause and Effect essay, first draft 第7回 Cause and Effect essay, second draft 第8回 Grammar work 第9回 Grammar work 第10回 Grammar work 第11回 Grammar work 第12回 Discuss argumentative writing 第13回 Argumentative essay, first draft 第14回 Argumentative essay, second draft 第15回 Evaluative composition		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 90%, Class participation (授業時の取り組み) 10%		

授業科目	Eigo Hyogen Ho III	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	Eigo Hyogen Ho III is an advanced level writing course in which students will be required to write multi-paragraph essays. Students will be required to write regular freewriting assignments, complete various grammatical exercises, three in-class writing assignments and a final exam. Although this course is for writing, students will be required to work in pairs and groups to assist one another in learning.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Grammar Spectrum 3, by Norman Coe, Oxford University Press (2) Handouts provided in class		
授業スケジュール	We will work through the grammar textbook lesson by lesson from Unit 24.		
成績評価の方法	Students' marks will be based on class participation 10%, freewriting assignments 15% and three in-class compositions 75%.		

授業科目	英語学演習 I (久木田)	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を科学的に考察する基本姿勢を培いながら、現代の英語学及び英語教育の抱えている問題点を平易に解説し、ディスカッションをヲ通して、各自が何らかの新しい発見ができるようにする。</p> <p>【概要】言語獲得理論及びバイリンガル理論などを、特に、第一言語獲得理については、英語を母語とする子供がどのような過程を経て大人の言語知識をもつようになるかを考察し、だしに言語獲得理論については、第二言語の獲得過程に影響を与える種々の要因、第一言語の影響等を考察し、英語教育との関連についても検討していきたい。なお、小学校英語教育及び通訳理論を取り入れた英語教育についても、様々な角度から考察していく。</p> <p>【到達目標】現代の英語学及び英語教育に関する事象について、各自が科学的論理的考察ができることを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Colin Baker, <i>Foundations of Bilingual Education and Bilingualism</i> 3rd Edition, Multilingual Matters Ltd. (2) 滝沢広人著、『アメリカンスクールではどう英語を教えているか』、はまの出版 ジグリッド塩谷著、『アメリカの子供は英語をどう覚えるか』、はまの出版		
授業スケジュール	第1回～第2回 Introduction 第3回～第4回 English Acquisition as Mother Tongue 第5回～第6回 English Acquisition as Second Language 第7回～第14回 Careful reading: <i>Foundations of Bilingual Education and Bilingualism</i> 第15回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (50%) , レポート (50%) で評価する。		

授業科目	英語学演習 I	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学</p> <p>【概要】英語学（意味論）の解説書を精読することによって、意味論でどのような研究がなされているのか学ぶ。</p> <p>【到達目標】実例を通して英語学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。テキストの精読を通して、英語学の論文を読む技術を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Th. R. Hoffman, 影山太郎, 『10 日間意味旅行』, ひつじ書房 (第 1 章～第 4 章) (2) 参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 1 Markedness 第 3 回 1 Markedness (続き) 第 4 回 1 Markedness 問題演習 第 5 回 2 Opposites & Negatives 第 6 回 2 Opposites & Negatives (続き) 第 7 回 2 Opposites & Negatives 問題演習 第 8 回 3 Deixis 第 9 回 3 Deixis (続き) 第 10 回 3 Deixis 問題演習 第 11 回 4 Orientations 第 12 回 4 Orientations (続き) 第 13 回 4 Orientations (続き) 第 14 回 4 Orientations 問題演習 第 15 回 まとめ		
成績評価の方法	授業への取り組み (50%) + レポート (50%)		

授業科目	英語学演習 II (久木田)	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を科学的に考察する基本姿勢を培いながら、現代の英語学及び英語教育の抱えている問題点を平易に解説し、ディスカッションを通して、各自が何らかの新しい発見ができるようにする。</p> <p>【概要】英語学演習 I を基礎とし、更に卒業研究に必要な英文資料で共通している資料を精読する。</p> <p>【到達目標】卒業研究が、「仮説」「文献検索」「実証」「結論」と進むためのベースとなるように、各自の理論展開に必要なことについて習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Colin Baker, Foundations of Bilingual Education and Bilingualism 3rd Edition, Multilingual Matters Ltd. (2) 随時プリント		
授業スケジュール	第 1 回～第 2 回 Introduction 第 3 回～第 4 回 Reference 1, 2 第 5 回～第 6 回 Reference 3, 4 第 7 回～第 8 回 Reference 5, 6 第 9 回～第 15 回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (50%) , レポート (50%) で評価する。		

授業科目	英語学演習Ⅱ	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学</p> <p>【概要】英語学（主に統語論）の解説書を精読することによって、統語論でどのような研究がなされているか学ぶ。</p> <p>【到達目標】実例を通して英語学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。テキストの精読を通して、英語学の論文を読む技術を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Th. R. Hoffman, 影山太郎, 『10日間意味旅行』, ひつじ書房 (第6章～第10章)</p> <p>(2) 参考文献 毎回紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 6 Time: Tense and Aspect 第2回 6 Time: Tense and Aspect (続き) 第3回 6 Time: Tense and Aspect 問題演習 第4回 7 Aspect in Verbs 第5回 7 Aspect in Verbs (続き) 第6回 7 Aspect in Verbs 問題演習 第7回 8 Words to Sentences 第8回 8 Words to Sentences (続き) 第9回 8 Words to Sentences 問題演習 第10回 9 Meaning & Context 第11回 9 Meaning & Context (続き) 第12回 9 Meaning & Context 問題演習 第13回 10 Combining Sentences 第14回 10 Combining Sentences 問題演習 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への取り組み (50%) + レポート (50%)		

授業科目	英文学概論	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学の作品を読んで考える。</p> <p>【概要】高校生までに海外の文学作品に親しんだ者は少ない。そこで、外国文学を学ぶ初心者がイギリス文学に関心を抱けるように、担当者は「映像作品から学ぶ英文学」「大衆文化における英文学」を意識して講義を行う。第1回目で講義の展開の仕方と文学に関する基本的な事項を説明し、第2～3回目で大衆文化からも英文学を学べることを説明する。第4回目から「詩」「演劇」「小説」という文学のジャンルについて、具体的に作品を取り上げながら鑑賞し、問題点を探究していく。</p> <p>【到達目標】「詩」「劇」「小説」の作品を読み、作品に潜む問題点を考える能力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 榎井迪夫訳『完訳 カンタベリー物語』(上) 岩波文庫 W.シェイクスピア作 小田島雄志訳『リア王』白水Uブックス W.シェイクスピア作 小田島雄志訳『マクベス』白水Uブックス エミリー・ブロンテ作 鴻巣友季子『嵐が丘』新潮文庫 厨川文夫・圭子編訳『アーサー王の死』ちくま文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (授業の概要説明, 英文学のジャンル, 英文学に関する用語, 使用された言語などの解説)</p> <p>第2回 マス・メディアから学ぶイギリス文学 (その一): 「アーサー王伝説」, 『リア王』, 『嵐が丘』</p> <p>第3回 マス・メディアから学ぶイギリス文学 (その二): 「アーサー王伝説」, 『リア王』, 『嵐が丘』</p> <p>第4回 比較文学に基づく作品の鑑賞 (文学と映像): 『マクベス』と黒澤明監督の映画『蜘蛛巣城』</p> <p>第5回 詩の鑑賞と問題点の探究 (その一): 『カンタベリー物語』のプロローグにおける作者の人間観察術 (皮肉) の考察</p> <p>第6回 詩の鑑賞と問題点の探究 (その二): 『カンタベリー物語』のプロローグにおける作者の人間観察術 (皮肉) の考察</p> <p>第7回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その一): 『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第8回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その二): 『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第9回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その三): 『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第10回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その四): 『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第11回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その五): 『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第12回 小説の鑑賞と問題点の探究 (その一): 『嵐が丘』における愛と復讐</p> <p>第13回 小説の鑑賞と問題点の探究 (その二): 『嵐が丘』における愛と復讐</p> <p>第14回 小説の鑑賞と問題点の探究 (その三): 『嵐が丘』における愛と復讐</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (60点), 課題提出・予習を含む授業への取り組み (40点)		

(注) 教職必修

授業科目	英文学史	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】まず、文学史という科目に潜んでいる問題点を考える。次に、18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18世紀の特徴、19世紀の特徴、20世紀の特徴を理解させる。この場合、受講者がイギリス文学に親しみを持ち、文学に面白味を感じるように、できる限りビデオを活用して解説を試みる。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。</p> <p>【到達目標】18世紀の小説の特徴、19世紀の小説の特徴、20世紀の小説の特徴を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 川崎寿彦著『イギリス文学史』成美堂 (2) サブテキストは講義中に指定する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション (講義方式の説明、文学史の科目に潜む問題点の探究) 第2回 18世紀の小説 (その一) : 18世紀の小説とその周辺に関する諸問題 第3回 18世紀の小説 (その二) : 18世紀の小説におけるH. フィールド、L. スターン、T. スモレットの役割 第4回 18世紀の小説 (その三) : 18世紀後半のゴシック小説 第5回 18世紀の小説 (その四) : G. オースティンの小説 第6回 18世紀の小説に関する小テスト、19世紀の小説 (その一) : 19世紀 (ヴィクトリア朝) 小説の特徴 第7回 19世紀の小説 (その二) : C. ディケンズの小説 第8回 19世紀の小説 (その三) : W.M. サッカーレーの小説、ブロンテ姉妹の小説 第9回 19世紀の小説 (その四) : ダーウィニズムの影響、19世紀後半 (ヴィクトリア朝後期) の小説 第10回 19世紀の小説に関する小テスト、20世紀の小説 (その一) : 20世紀小説の特徴 第11回 20世紀の小説 (その二) : V. ウルフの小説、H. ジェイムズの小説、E.M. フォスターの小説 第12回 20世紀の小説 (その三) : D.H. ローレンスの小説 第13回 20世紀の小説 (その四) : H.G. ウェルズの小説 第14回 20世紀の小説に関する小テスト、映像課題に関する発表会 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60点)、講義中の小テスト/授業への取り組み (30点)、課題レポート(10点)		

(注) 日本語日本文学専攻は選択

授業科目	米文学史	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Race relations in modern American literary history. アメリカの文学と歴史を著名なアメリカの人物と作家の文章を通して学習します。</p> <p>【概要】The course will alternate between lectures and group presentations. Students will be asked to analyze one part of a course text. Four quizzes will test reading comprehension.</p> <p>【到達目標】The aim of the course is to practice literary analysis while raising historical consciousness of the modern literary, social, and cultural history of race relations in the United States.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (Penguin, 2003) (2) Mark Twain 著『The United States of Lyncherdom』 Martin Luther King Jr. による演説 (抜粋), Adamek 編集		
授業スケジュール	第1回～第3回 Introduction. "The United States of Lyncherdom," Mark Twain 第4回 Review (Quiz 20%) 第5回～第8回 "The United States of Lyncherdom," Mark Twain 第9回 Review (Quiz 20%), Introduction to <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (pages 5-7; 2-4) 第10回 <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (14; 8-13) 第11回 Review (Quiz 20%) (15-28) 第12回 <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (29-32) 第13回 <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (36-41) 第14回 Review (Quiz 40%) 第15回 Discussion of quiz results and general review		
成績評価の方法	授業への参加(50%)；小テスト(50%)。		

(注) 教職必修

授業科目	英米文学講読Ⅰ	担当者	小林 潤司
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】シェイクスピアとその時代（『リア王』への道程）</p> <p>【概要】エリザベス時代のロンドンは未曾有の人口増加の過程にあった。いわゆる「エリザベス朝演劇」とは、この都市の膨張に伴って生じた、娯楽の新規需要を背景にして栄えた芸能であった。「千万の心」をもって普遍的な人間性の真実を描いたと称えられるシェイクスピアは、同時に、当時のロンドン市民の好尚に合う新しい芸能を担った、興行資本家であり役者であり脚本作者だったのだ。本講では、この「<時代の落とし>にして<世界の文豪>」を準備した演劇的風土を、周辺の劇作家群像をも視野に入れながら、できる限り立体的に論じてみたい。</p> <p>【到達目標】初期近代イングランドの演劇と文化の歴史的な背景を簡潔に説明することができる。ルネサンス、人文主義、宗教改革について、現代の世界のありかたと関連づけて、概略を説明することができる。シェイクスピアの伝記と作品の概要を説明することができる。□</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大場建治（編注）『リア王』（対訳・注解研究社シェイクスピア選集9）</p> <p>(2) 今西雅章ほか（編）『シェイクスピアを学ぶ人のために』（世界思想社） G. Lブルック『シェイクスピアの英語』（松柏社）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 世界の拡大</p> <p>第2回 ルネサンス観の多様性</p> <p>第3回 人文主義</p> <p>第4回 宗教改革と国民国家の形成</p> <p>第5回 ストラットフォードからロンドンへ</p> <p>第6回 歴史劇・詩</p> <p>第7回 初期・中期の喜劇</p> <p>第8回 初期の悲劇</p> <p>第9回 『ハムレット』</p> <p>第10回 『マクベス』と『オセロー』</p> <p>第11回 『リア王』概説</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回 予備日</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業参加状況（予習の状況および授業時間中の発表と発言）30%□ 学期末試験 70%□		

授業科目	英米文学講読Ⅱ	担当者	小林 潤司
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】シェイクスピア『リア王』講読</p> <p>【概要】「天才の作った最も恐ろしい作品」（スウィンバーン）、「シェイクスピアの最も偉大な作品と思われるが、しかし最も優秀な戯曲とは思われない」（A.C.ブラッドレー）、「シェイクスピアの形而上学の最高の達成であり、かつて書かれた劇のなかで最も偉大であるのみならず、かつて着想されたなかで最も恐ろしい哲学的信条表明のひとつ」（ロバート・ブルースティーン）など、『リア王』をめぐる評価の通り相場は、「単なる<文学作品>の枠を越えているから、他の作品と単純な比較ができない」、「見る（読む）人を驚かせ、並外れた畏れや恐怖を与える」というところにあるらしい。いつもは冷静な批評家・研究者の血を急に頭にのぼらせ、その超越性や偉大さ、恐ろしさについて、ひときわ甲高い調子で論じさせてしまう稀有な要素が、この劇の一体どこに、どのようなかたちで内在しているのかを探ってみたい。</p> <p>【到達目標】『リア王』の構造、その成立に関する主要な仮説について概略を説明できる。『リア王』から任意のパスセージを、作品の主題との関連、修辞などの表現形式の両面から分析、評釈することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大場建治（編注）『リア王』（対訳・注解研究社シェイクスピア選集9）</p> <p>(2) 今西雅章ほか（編）『シェイクスピアを学ぶ人のために』（世界思想社） G.Lブルック『シェイクスピアの英語』（松柏社）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 『リア王』 1.1</p> <p>第2回 『リア王』 1.1(続き)～1.3</p> <p>第3回 『リア王』 1.4</p> <p>第4回 『リア王』 1.4(続き)～2.2</p> <p>第5回 『リア王』 2.2(続き)～2.4</p> <p>第6回 『リア王』 2.4(続き)</p> <p>第7回 『リア王』 2.5～3.4</p> <p>第8回 『リア王』 3.4(続き)～3.7</p> <p>第9回 『リア王』 3.7(続き)～4.2</p> <p>第10回 『リア王』 4.2(続き)～4.6</p> <p>第11回 『リア王』 4.6(続き)</p> <p>第12回 『リア王』 4.7～5.3</p> <p>第13回 『リア王』 5.3(続き)</p> <p>第14回 予備日</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業参加状況（予習の状況および授業時間中の発表と発言）30%□ 学期末試験 70%□		

授業科目	英米文学講読Ⅲ	担当者	轟 義昭
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 イギリス文学作品に親しむ</p> <p>【概要】 ペンギンリーダーズのテキストを利用して、C.ディケンズの『オリヴァー・ツイスト』（英文学）とH.ジェームズの『ある貴婦人の肖像』（英文学）を読む。ペンギンリーダーズのテキストは注釈（Notes）が詳しいので、文学作品および物語を英語で読もうとする初心者にも読みやすい。授業は速読形式で進め、章ごとに内容と問題点を確認していく。両作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。</p> <p>【到達目標】 作品の内容を理解し、作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス H. James, <i>The Portrait of a Lady</i> (ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明), イギリス文学作品への知識の確認, 映像作品『オリヴァー・ツイスト』の鑑賞 第2回 映像作品『オリヴァー・ツイスト』の鑑賞 (続き) と解説, テキストの第1章を読む 第3回 第2章～第5章を読む 第4回 第6章～第8章を読む 第5回 第9章～第11章を読む 第6回 第12章～第16章を読む 第7回 第17章～第21章を読む 第8回 C.ディケンズの作品研究 第9回 映画『ある貴婦人の肖像』の鑑賞 第10回 映画『ある貴婦人の肖像』の鑑賞 (続き) 第11回 テキストの第1章～第6章を読む 第12回 第7章～第11章を 第13回 第12章～第15章 第14回 H.ジェームズの作品研究 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	レポート (60点), 予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容 (40点)		

授業科目	英米文学講読Ⅳ	担当者	轟 義昭
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 アメリカ文学作品に親しむ。</p> <p>【概要】 2300語レベルに編集されたペンギンリーダーズのテキストを利用して、スティーブン・キングの <i>The Body</i> (米文学) を読む。ペンギンリーダーズのテキストは注釈 (Notes) が詳しいので、文学作品および物語を英語で読もうとする初心者にも読みやすい。授業はプリント学習と速読形式で進めていく。この作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオ『スタンド・バイ・ミー』を活用したい。</p> <p>【到達目標】 作品の内容を理解し、作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Stephen King, <i>The Body</i> (ペンギンリーダーズ) 英潮社フェニックス</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明), 映像作品『スタンド・バイ・ミー』の鑑賞 第2回 映像作品『スタンド・バイ・ミー』の鑑賞 (続き) と解説 + 第1章 The Hardest Things to Say 第3回 第2章 The Tree House Gang～第4章 A Jar of Pennies 第4回 第5章 Making Plans～第7章 The Gun 第5回 第8章 The Railway～第10章 Milo and Chopper 第6回 第11章 Night-Sweats～第12章 The Bridge 第7回 第13章 The Loser's Life 第8回 第14章 Darkness in the Forest～第15章 A Dream of Deep Water 第9回 第16章 The Deer～第19章 A Serious Matter 第10回 第20章 The Body 第11回 第21章 Ace Merrill～第22章 Hailstones 第12回 第23章 A Twenty-Year-Old Dream～第27章 Tears for a Friend 第13回 テキスト <i>The Body</i> の学習理解度テスト 第14回 スティーブン・キングと彼の作品について 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	レポート (60点), 小テスト (10点), 予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容 (30点)		

授業科目	英語講読	担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 文法力・語彙力の強化と長文読解力の養成</p> <p>【概 要】 授業の目的は、検定対策として、英文読解力を向上させ、英文法の基礎知識を再確認させることにある。速読によって300語程度の英文を読んで内容を理解する能力を習得させる一方で、問題を解いて高校で習った文法事項を復習させる。また、一定の時間内に英語検定2級の問題（プリント学習）を解く感覚を身に付けさせる。</p> <p>【到達目標】 実用英語技能検定2級、TOEIC 500点以上取得できる英語のリーディング力と語彙力を身に付ける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 宍戸真・小泉朝子『エフェクティブリーディング 1』成美堂 木村理恵子・片野田浩子『5分間 新TOEICテスト・リーディング650』南雲堂		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション（授業の進め方の説明） 第2回 Lesson 1 Leisure time～Lesson 2 People in business, Unit 1 分詞 第3回 Lesson 3 Eating out～Lesson 4 Traveling by train, Unit 2 接続詞・前置詞 第4回 Lesson 5 Weather～Lesson 6 Education, Unit 3 比較・仮定法 第5回 Lesson 7 Famous people～Lesson 8 Money, Unit 4 関係詞 第6回 Lesson 9 Movies～Lesson 10 Global Warming, Unit 5 副詞 第7回 Lesson 11 Animals～Lesson 12 People in politics, Unit 6 形容詞 第8回 Lesson 13 Hotels～Lesson 14 Jobs, Unit 7 名詞・動詞 第9回 Lesson 15 Popular music～Lesson 16 Traveling by road, Unit 8 動詞を使ったイディオム 第10回 Lesson 17 Space travel～Lesson 18 Relationships, Unit 9 語彙問題 第11回 Lesson 19 International commerce～Lesson 20 Health and sickness, Unit 10 長文穴埋め問題 第12回 Lesson 21 Crime～Lesson 22 Fashion, Unit 11 長文穴埋め問題 第13回 Lesson 23 Technology～Lesson 24 Vacations, Unit 12 長文穴埋め問題 第14回 Unit 13～15 読解問題 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（80点）、予習を含む授業への取り組み（20点）で評価する。ただし、県短入学後、英検2級取得者もしくはTOEIC 500点以上の取得者については、それを証明する書類等のコピーを提出した場合、最終成績にボーナス点（10点）を加算する。		

授業科目	英米文学演習 I (轟)	担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 J.オースティンの作品研究</p> <p>【概 要】 セミナーではジェーン・オースティンの作品研究を行う。ペンギンリーダーズのテキストを利用して『エマ』の作品を読み、ヒロインの成長に焦点を当てながら、作者の結婚観と風刺を考察する。また、その映画を鑑賞して、テキストと映像作品の相違点を考える。</p> <p>【到達目標】 作者の結婚観と風刺を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Jane Austen 著『エマ』（ペンギンリーダーズ）南雲堂フェニックス		
授業スケジュール	第1回 セミナーの運営方法と説明、映画『エマ』の鑑賞 第2回 映画『エマ』の鑑賞（続き）と解説 第3回 第1章 An Offer of Marriage 第4回 第2章 A Second Offer 第5回 第3章 Mr Elton's Choice 第6回 第4章 Frank Charchill Appears 第7回 第5章 Mrs Elton Comes to Highbury 第8回 第6章 The Ball at the Crown Inn 第9回 第7章 The Trip to Box Hill 第10回 第8章 A Secret Engagement 第11回 第9章 The Weddings 第12回 ジェーン・オースティンの作品研究 第13回 オースティン作品の映画鑑賞（その一） 第14回 オースティン作品の映画鑑賞（その二） 第15回 プレゼンテーション		
成績評価の方法	プレゼンテーション+作品研究の発表（70点）、授業への取り組み（30点）		

授業科目	英米文学演習Ⅰ (アダメック)	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 学術論文を英語で書く 【概要】 受講者は指導者によって選ばれた題材について2ページの論文を書きます。論文は授業で話し合った英語でのライティング手本に必ず沿っていることとします。 【到達目標】 受講者がライティングによって自分の意見を深め、英語での学術論文の書き方、自分の興味がある研究課題を理解し、創作的で自主的な学習スキルを演習することを目標とします。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	スケジュール: 第1週-第3週: 授業とテキストの紹介 第4週-第10週: リサーチ方法について 第11週-第30週: リサーチの実践		
成績評価の方法	授業への参加状況 (30%) , 授業内での発言 (20%) , 総まとめ (30%) , 作品集 (20%)。		

授業科目	英米文学演習Ⅱ (轟)	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 E.M.フォスターの作品研究と映像作品から学ぶイギリス文学 【概要】 前半のE.M.フォスターの作品研究では、ネルソン・リーダーズテキストを利用して『眺めのいい部屋』を読み、階級意識に焦点をあてながら、異なる文化間の人間関係の対比を考察する。後半は映画化されたイギリス文学作品のなかから学生に研究したい作者と作品を選択させ、作者の文学史上の位置付け、社会に対する作者の視点、作品のテーマなどを各自に分析させて発表させる。 【到達目標】 各人が問題点を探出し、各人がそれに対する見解・意見を導き出せるようにする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) E.M.フォスターの『眺めのいい部屋』はプリント		
授業スケジュール	第1回 映画『眺めのいい部屋』の鑑賞 第2回 映画『眺めのいい部屋』の鑑賞(続き)、テキスト『眺めのいい部屋』の第1章～第4章を読む 第3回 第5章～第8章を読む 第4回 第9章～第12章を読む 第5回 第13章～第17章を読む 第6回 E.M.フォスターの作品研究 第7回～第14回 映画化されたイギリス文学作品の研究で、以下の作者と作品から各自で研究していく。 J. オースティン 『エマ』 『分別と多感』 『高慢と偏見』 / E. M. フォスター 『眺めのいい部屋』 『インドへの道』 『ハワーズ・エンド』 / C. ディケンズ 『オリヴァー・ツイスト』 『クリスマス・キャロル』 『大いなる遺産』 / T. ハーディ 『日陰者ジュード』 『テス』 / H. G. ウエルズ 『タイムマシン』 『透明人間』 『宇宙戦争』 『月に一番乗りした男たち』 / H. ジェイムズ 『鳥の翼』 『ある貴婦人の肖像』 『黄金の杯』 / G. オーウェル 『1984』 『動物農場』 / G. グリーン 『第3の男』 『情事の終わり』 / V. ウルフ 『ダロウエイ夫人』 『オルランド』 / D. H. ロレンス 『虹』 『恋する女たち』 『チャタレー夫人の恋人』 第15回 プレゼンテーション		
成績評価の方法	プレゼンテーション+作品研究の発表 (70点), 授業への取り組み (30点)		

授業科目	英米文学演習Ⅱ (アダメック)	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学術論文を英語で書く</p> <p>【概要】 自分で選んだ題材に、前期習得したライティング技術に応用します。指導者との話し合いによって卒業論文のテーマを絞り込み、毎週リサーチとライティングを行います。受講者は教務課によって定められた、卒業論文の最終期限までいくつかの下書きを提出し、推敲を重ねます。</p> <p>【到達目標】 受講者がライティングによって自分の意見を深め、英語での学術論文の書き方、自分の興味がある研究課題を理解し、創造的で自主的な学習スキルを演習することを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	スケジュール: 第1週-第3週: 授業とテキストの紹介 第4週-第10週: リサーチ方法について 第11週-第30週: リサーチの実践		
成績評価の方法	授業への参加状況 (30%) , 授業内での発言 (20%) , 総まとめ (30%) , 作品集 (20%)。		

授業科目	比較文学	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 比較文学とは何か</p> <p>【概要】 比較文学は現在も発展しつづけている分野であり、その定義も一様ではない。本講義では「比較」という手法を通して、文学作品を考える新たな視点を発見することを目標とする。本年度は古代ギリシア・ローマの神話・文学と英米文学の関係を軸にして、影響関係、翻訳という媒介者、テーマに基づく対比、芸術等とのジャンルを越えた比較など、さまざまな角度から比較文学的手法をみていくことにしたい。また、他のヨーロッパ文学でも押さえておいて欲しい作家・作品については、適宜触れることができればと考えている。</p> <p>【到達目標】 比較文学的な手法を学び、多角的な視点から文学テキストを分析できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布 トマス・ブルフィンチ『完訳 ギリシア・ローマ神話』上下 (角川文庫, 2004)		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨン 第2回 比較文学とは? 第3回 ギリシア・ローマ文学概観1 第4回 ギリシア・ローマ文学概観2 第5回 影響の研究1 第6回 影響の研究2 第7回 影響の研究3 第8回 翻訳という媒介者 第9回 対比研究1 第10回 対比研究2 第11回 対比研究3 第12回 文学と芸術1 第13回 文学と芸術2 第14回 文学と芸術3 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (30%) , レポート (70%)		

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p>【概要】異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p>【到達目標】国際的視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨン 第2回 文化・異文化とは？ 第3回 コミュニケーションとは？ 第4回 言語・非言語コミュニケーション1 第5回 言語・非言語コミュニケーション2 第6回 言語・非言語コミュニケーション3 第7回 ステレオタイプと偏見 第8回 価値観 第9回 文化・文明の衝突 第10回 異文化の理解 第11回 カルチャーショックと異文化適応 第12回 翻訳と通訳 第13回 異文化コミュニケーションの方法 第14回 多文化共生 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (40%) , 筆記試験 (60%)		

(注) 英語英文学専攻は教職必修

授業科目	比較文化講読	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文化とは何か</p> <p>【概要】ファッションをキーワードに14世紀から19世紀のイギリスの文学作品、雑誌記事、風刺、肖像画などを読み解くことで、それぞれのファッションが表す時代時代の価値観や特質を比較したり、時にはフランスのファッションと比較したりしながら、比較文化的な物の見方を学んでいく。輪読形式を取るため、予習は必須である。</p> <p>【到達目標】速読・多読力を向上させると同時に、比較文化の方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Yuko Hosokawa with Keith Adams, <i>Fashionable England</i> (開文社, 2010)		
授業スケジュール	第1回 Chapter 1: The Troubled Kings 第2回 Chapter 2: <i>The Spectator</i> Speaks to Decent Citizens 第3回 Chapter 3: <i>The Spectator</i> Fights a Fashion War 第4回 Chapter 4: <i>Pamela</i> and Anglomania 第5回 Chapter 5: Hogarth, an Iconoclast 第6回 Chapter 6: Hogarth's Aesthetic Reconstruction 第7回 Chapter 7: A New English Tradition 第8回 Chapter 8: <i>Mary Graham</i> – A Sensation 第9回 Chapter 9: A Costume Battle 第10回 Chapter 10: Women and Men in English Nature 第11回 Chapter 11: The Dandy 第12回 Chapter 12: Worth, an Entrepreneur 第13回 Chapter 13: Tissot in the Age of Worth 第14回 Chapter 14: The Art of Surface 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (35%) , 筆記試験 (65%)		

授業科目	イギリス事情	担当者	ジョン トレマーコ
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 British Culture, Modern and Traditional</p> <p>We will embark on a different approach this year. Instead of following a textbook, we will endeavour to extend the project theme we have carried out in previous years; it will no longer simply supplement the textbook, it will act as a replacement and form the core element of the course with a view to making a presentation at the conclusion of the term. The project theme has proved very successful in not only motivating the students throughout the year, but also in improving their communicative competence. The theme of the project will be decided upon by the students: it will be chosen according to the aptitude and number of students. The themes available will include: Music (classical and modern); Food; Education; Literature; History; Geography.</p> <p>【概要】 Utilizing the four basic skills, students will explore a number of British cultural features ranging from its history, education system and modern Britain.</p> <p>【到達目標】 The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	All materials provided by the teacher		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース, 授業についての説明</p> <p>第2回 Choosing the Project theme</p> <p>第3回 - 13回 Planning and implementation of Project</p> <p>第14回 Final Examination (presentation)</p> <p>第15回 Course Review</p> <p>* NB: The above is a guide only, the pace, range and choice of topics may well differ from those set out above depending on the characteristics of the class.</p>		
成績評価の方法	<p>A willingness to participate in class is more important than test results. Evaluation will be on class participation, 'group' assignments. There will also be an examination at the end of the course. Assessment criteria: Group work 40%, Class participation 20% and Final Presentation Test 40%.</p> <p>授業に積極的に参加することが、テスト結果より重視される。評価は、グループテストや宿題のような授業態度により決定される。また、このコースの最後に試験も行う。</p> <p>最終テスト= 40 % グループワーク & 小テスト= 40 % 授業出席&貢献 (予習課題発表や、授業中の発言・質問等含む) = 20 %</p>		

授業科目	アメリカ事情	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Documenting in film American society and its problems: the perspectives of Michael Moore.</p> <p>【概要】 We will view two documentaries of filmmaker Michael Moore.</p> <p>【到達目標】 The aims of the course are to raise awareness of various political and cultural aspects of the United States through the lens of filmmaker Michael Moore and to introduce students to the variety of American media news organizations. Students will analyze an interview with the filmmaker and investigate the media organization that hosts the interview.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) <i>Sicko</i> and <i>Capitalism: A Love Story</i>, DVDs.</p> <p>(2) Interviews, online resources. Adamek 編集</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction to Michael Moore</p> <p>第2回 <i>Sicko</i> viewing, discussion</p> <p>第3回 <i>Sicko</i> viewing, discussion</p> <p>第4回 <i>Sicko</i> viewing, discussion</p> <p>第5回 <i>Sicko</i> viewing, discussion</p> <p>第6回 <i>Sicko</i> viewing, discussion</p> <p>第7回 Media analysis</p> <p>第8回 Media analysis</p> <p>第9回 <i>Capitalism: A Love Story</i> viewing, discussion</p> <p>第10回 <i>Capitalism: A Love Story</i> viewing, discussion</p> <p>第11回 <i>Capitalism: A Love Story</i> viewing, discussion</p> <p>第12回 <i>Capitalism: A Love Story</i> viewing, discussion</p> <p>第13回 <i>Capitalism: A Love Story</i> viewing, discussion</p> <p>第14回 Media analysis</p> <p>第15回 Discussion of original documentary proposals</p>		
成績評価の方法	授業への参加 (50%); media analysis and original documentary proposal (50%).		

授業科目	ヨーロッパ事情	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ヨーロッパ統合にいたる歴史</p> <p>【概 要】 現在、ヨーロッパはEU加盟国の増加やリスボン条約の発効によって、ますます統合の度合いを強めつつある。その一方、ギリシアの経済危機など、さまざまな問題も抱えている。本講義では、ヨーロッパの長い統合と分裂の歴史について、文化・文明を中心にして概観する。参考文献にあげたル・ゴフの著書は、全体の流れをおおまかにつかむのによい。ただし、フランスの子供向けなので、本講義では、日本の大学生向けにさらに説明に肉付けすると共に、現代についても詳しく講ずる予定である。</p> <p>【到達目標】 ヨーロッパの歴史とその統合の意義について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	ジャック・ル・ゴフ (前田耕作監訳・川崎万里訳) 『子どもたちに語るヨーロッパ史』 ちくま学芸文庫 (筑摩書房, 2009)		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 ギリシア・ローマ1 第 3回 ギリシア・ローマ2 第 4回 中世1 第 5回 中世2 第 6回 中世からルネサンスへ 第 7回 ルネサンス1 第 8回 ルネサンス2 第 9回 17, 8世紀1 第 10回 17, 8世紀2 第 11回 19世紀1 第 12回 19世紀2 第 13回 現代1 第 14回 現代2 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (30%), 筆記試験 (70%)		

授業科目	比較文化演習 I	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 比較文学・比較文化</p> <p>【概 要】 本演習では 異性装をキーワードにして古今東西のさまざまな文藝を扱ったテキストを精読することを通して、比較することが文学や文化の研究にどのように役立つのかを具体的に学ぶ。一人当たり四回ほど発表してもらい、次の三段階が徐々にできるようになるよう訓練する。英米豪の作品に関しては、英語の原典にも触れるようにしたい。</p> <p>(1) 担当箇所をまとめたハンドアウトの作成・発表。 (2) (1)に加えて、論文に言及された原典 (たとえば、シェイクスピアや映画など) に目を通し、補足説明をおこなえるようになる。 (3) (2)に加えて、テキストを批判的に読むクリティカル・リーディングができるようになる。</p> <p>毎回全員に意見を求めるので、テキストをしっかりと読んでくること。</p> <p>【到達目標】 比較文学・比較文化の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	佐伯順子『「女装」と「男装」の文化史』講談社選書メチエ 450 (講談社, 2009)		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 発表の仕方と見本 『古事記』 第 3回 『青砥橋花紅彩画』 『三人吉三巴白浪』 第 4回 『ルーキー』 『毛皮のマリー』 第 5回 『霸王別姫』 『お・こ・げ』 第 6回 『ミセス・ダウトファイア』 『トツツイー』 第 7回 『プリシラ』 『ビリー・エリオット』 第 8回 『リボンの騎士』 『ベルサイユのばら』 第 9回 『ムーラン』 『ヴェニス商人』 第 10回 『お気に召すまま』 『十二夜』 第 11回 『井筒』 『松風』 『道成寺』 第 12回 『花ざかりの君たちへ』 『風光る』 第 13回 『オサマ』 『ボーイズ・ドント・クライ』 第 14回 『とりかへばや物語』 『オーランドー』 第 15回 まとめ 演習 II への橋渡し		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション (60%), 演習全体への参加態度 (40%)		

授業科目	比較文化演習Ⅱ	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 比較文学・比較文化</p> <p>【概要】 比較文化演習Ⅰで学んだことを踏まえて、比較文学・比較文化に関連する幅広い分野の論文をできるだけ多く読みこなしていく。なお、読む論文は参加者の希望や関心を訊いた上で決定する。できるだけ各人の卒業研究と関係のある論文を割り当てるようにしたい。毎回担当者を決めて（一回あたり二人、一人あたり四回ほど担当予定）、読んだ論文について発表し、討論する形式を取る。他の参加者も論文をあらかじめ読み、疑問点等を考えてくること。</p> <p>【到達目標】 卒業研究につながる比較文学・比較文化の様々な研究方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨン 第2回 発表一巡目と討論 第3回 発表一巡目と討論 第4回 発表一巡目と討論 第5回 発表一～二巡目と討論 第6回 発表二巡目と討論 第7回 発表二巡目と討論 第8回 発表二巡目と討論 第9回 発表三巡目と討論 第10回 発表三巡目と討論 第11回 発表三巡目と討論 第12回 発表三～四巡目と討論 第13回 発表四巡目と討論 第14回 発表四巡目と討論 第15回 発表四巡目と討論、まとめ		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション (60%) , 討論への参加態度 (40%)		

授業科目	日本語学概論	担当者	望月 正道
	[履修年次] 日本語日本文学専攻は1年, 英語英文学専攻は2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 日本語日本文学専攻は必修, 英語英文学専攻は選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語に関する研究を行っていくうえで、また、日本文学（特に古典文学）を読んでいくためにも、必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 各研究分野について概観するが、特に、日本語で用いられる音声・音韻（音声言語）に関する事項と、それを書き表す文字・表記（アルファベットのみを用いる言語に比べて、複雑な文字体系を持つ日本語では、文字の問題は殊に重要である）について重点を置いて考察を行うこととする。なお、日本語の歴史については、別に「日本語史」の授業科目で扱う。</p> <p>この授業は「講義方式」であり、教室での90分の授業に対して180分の自学自習が義務づけられている。従って、各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し、「学習課題」を考察してくること。</p> <p>【到達目標】 日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 仁田義雄 他著『改訂版 日本語要説』ひつじ書房		
授業スケジュール	第1回 日本語学（国語学）とは 第2回 現代語の音声・音韻論1：発音器官／国際音声字母 ※ 第3回 現代語の音声・音韻論2：母音 ※ 第4回 現代語の音声・音韻論3：子音 ※ 第5回 現代語の音声・音韻論4：韻律 ※ 第6回 文字・書記：現代日本語の表記の特徴 ※ 第7回 前半のまとめ 第8回 現代語の文法・文法論1：テンソとアスペクト 第9回 現代語の文法・文法論2：待遇表現 第10回 現代語の語彙・語彙論1：語種 第11回 現代語の語彙・語彙論2：語彙の体系 第12回 社会言語学・方言学1：国語（公用語）と方言 第13回 社会言語学・方言学2：新方言／言語地理学 第14回 文章・談話 第15回 まとめと試験 ※印＝パソコン教室で実施。		
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語教育概論	担当者	未定
	[履修年次] 日本語日本文学専攻は1年, 英語英文学専攻は2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	対照言語学	担当者	未定
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	日本文学史・近代Ⅰ 日本文学史Ⅰ	担当者	岩本 晃代
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修(注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 明治以降の文学を各時代の社会的、文化的背景と関連づけて概観する。</p> <p>【概要】 日本文学史・近代Ⅰは、明治期から大正期までの文学を対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、特に文学的影響の大きな作品については、実際に作品本文を紹介し、社会や文化的な関わりをも含めて、その史的意義が明らかになるように講じる。</p> <p>【到達目標】 近代日本の文学史上の基礎的な知識の習得。文学作品を、社会的、文化的背景と関連付けて考察することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう、プリント。</p> <p>(2) 日本近代文学館編『日本近代文学大事典』講談社、他、授業中に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 近代の文学(明治・大正) 概観</p> <p>第2回 近代化と文学 近代の特質</p> <p>第3回 近代化と文学 〈私〉の構造</p> <p>第4回 明治の文学 明治初期の文学表現</p> <p>第5回 明治の文学 書き言葉の改革</p> <p>第6回 明治の文学 文学の改良</p> <p>第7回 明治の文学 近代文学の改良</p> <p>第8回 明治の文学 言文一致体小説</p> <p>第9回 明治の文学 写実主義と写生説</p> <p>第10回 明治の文学 浪漫主義の小説と詩歌</p> <p>第11回 明治の文学 自然主義の革新(小説)</p> <p>第12回 明治の文学 自然主義の革新(詩歌)</p> <p>第13回 大正の文学 大正文壇の概観</p> <p>第14回 大正の文学 大正文壇と私小説</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験 70%</p> <p>授業ごとに実施するミニレポート 30%</p>		

(注) 英語英文学専攻は「日本文学史Ⅰ」として選択

授業科目	日本文学史・近代Ⅱ 日本文学史Ⅱ	担当者	岩本 晃代
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修(注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 明治以降の文学を各時代の社会的、文化的背景と関連づけて概観する。</p> <p>【概要】 日本文学史・近代Ⅱは、昭和期(大正末期をふくむ)から現在までの文学を対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、特に文学的影響の大きな作品については、実際に作品本文を紹介し、社会や文化的な関わりをも含めて、その史的意義が明らかになるように講じる。</p> <p>【到達目標】 近代日本の文学史上の基礎的な知識の習得。文学作品を、社会的、文化的背景と関連付けて考察することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう、プリント。</p> <p>(2) 日本近代文学館編『日本近代文学大事典』講談社、他、授業中に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 日本近代文学(大正末から現在まで) 概観</p> <p>第2回 昭和の文学 新感覚派・前衛詩</p> <p>第3回 昭和の文学 主知主義文学</p> <p>第4回 昭和の文学 プロレタリア文学</p> <p>第5回 昭和の文学 文芸復興の時代1</p> <p>第6回 昭和の文学 文芸復興の時代2 四季派の抒情その1</p> <p>第7回 昭和の文学 文芸復興の時代3 四季派の抒情その2</p> <p>第8回 昭和の文学 戦争文学と日本回帰</p> <p>第9回 昭和の文学 戦後混乱期の表現</p> <p>第10回 昭和の文学 近代的表現の行方</p> <p>第11回 昭和の文学のまとめ</p> <p>第12回 現代の文学 昭和30年代</p> <p>第13回 現代の文学 昭和40年代</p> <p>第14回 現代の文学 昭和50年以降現在まで</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験 70%</p> <p>授業ごとに実施するミニレポート 30%</p>		

(注) 英語英文学専攻は「日本文学史Ⅱ」として選択

授業科目	英文文書処理	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 基本的なコンピューターの操作が、英語でできるようになる。 【概要】 Word/Excel を使って、与えられた課題を処理する。 ビジネスレター作成、インターネット、E-mail など。 【到達目標】 基本的なコンピューターの操作が、英語でできるようになる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント メモリースティック、辞書を持参する。		
授業スケジュール	第 1 回 インTRODクシヨン 自己紹介 コース説明 第 2 回 What you can do on a computer 第 3 回 What you can do on a computer 第 4 回 What you can do on a computer 第 5 回 Software and hardware 第 6 回 How to use the Internet 第 7 回 Making your own business card 第 8 回 Using the Internet 第 9 回 Using the Internet 第 10 回 Using the Internet 第 11 回 Using the Internet 第 12 回 E-mail 第 13 回 How to write business letters 第 14 回 A little bit of everything 第 15 回 English written test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 筆記(英語)テスト 40%		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。 【概要】 本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。 【到達目標】 国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) 原彬久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）。		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的、方法 第 2 回 国際関係論の基礎 1：国内社会と国際社会は何が違うのか 第 3 回 国際関係論の基礎 2：行為体と争点の多様化 第 4 回 国際関係のなりたち 1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第 5 回 国際関係のなりたち 2：アジアにおける冷戦の拡大 1 第 6 回 国際関係のなりたち 3：アジアにおける冷戦の拡大 2 第 7 回 国際関係のなりたち 4：朝鮮戦争とベトナム戦争 第 8 回 国際関係のなりたち 5：大国の支配とナショナリズム 第 9 回 国際関係のなりたち 6：冷戦後の世界秩序 第 10 回 国際社会における諸問題 1：グローバル化と貧困問題 第 11 回 国際社会における諸問題 2：貧困と開発 第 12 回 国際社会における諸問題 3：環境問題、人権、予防外交 第 13 回 国際社会における諸問題 4：9.11 以後の世界 第 14 回 国際社会における諸問題 5：グローバルガバナンス 第 15 回 まとめと試験		
成績評価の方法	試験によって評価する。(100%)		

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタのSPSと日系ブラジル人 【概要】 グローバル化が加速する21世紀の世界経済について、その制度的な枠組みをWTO, FTA, EPAを中心に、バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで、日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに、海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で、国内マザー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。 【到達目標】 21世紀のグローバル化の現状を制度面と、その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業中に指示する。		
授業スケジュール	第1回 21世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化 第2回 WTOの仕組み：最恵国待遇、内国民待遇、数量制限の禁止、ドーハラウンド 第3回 FTAとバラッサの5段階説：EU 第4回 進展するFTAとEPAの限界：東アジア共同体か、TPPか、NAFTA、メルコスル。日本のEPA戦略の意義と限界 第5回 海外工場から始まる最新のモノづくり（中国1）：広汽トヨタにおけるSPSとリーマン化の進展 第6回 同上（中国2）：SPSと労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ～ 第7回 同上（中国3）：サプライヤーパーク内専用道開拓：JITからJISへの進化と負担転嫁 第8回 同上（中国4）：日系自動車メーカーと中国金型産業 第9回 同上（中国5）：中国金型産業の発展と限界 第10回 同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式SPS 第11回 同上（台湾）：国瑞汽車におけるAGV牽引同期台車式SPS 第12回 同上（インドネシア）：TMMINにおけるハンガー式SPS 第13回 内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ 第14回 同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	卒業研究（久木田）	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を科学的に考察する基本姿勢を培いながら、現代の英語学及び英語教育の抱えている問題点を平易に解説し、ディスカッションを通して、各自が何らかの新しい発見をし、卒業論文の作成にあたる。 【概要】 英語学演習Ⅰ、Ⅱ受講者を対象とし、新言語学/英語学/英語教育のなかで、各自研究テーマを決めて個別指導を受けながら、卒業論文の作成にあたる。 【到達目標】 英語での卒業論を作成する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 随時プリント (2) 随時プリント		
授業スケジュール	第1回～第2回 Introduction 第3回～第4回 Basic understanding about English linguistics for finding the theme 第5回～第7回 Tutorial for writing the paper (content) 第8回～第9回 Midterm presentation 第10回～第14回 Tutorial for writing the paper (writing) 第15回 Reading paper		
成績評価の方法	卒業論文(80%)、プレゼンテーション(20%)で評価する。		

授業科目	卒業研究 (轟)	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】各人がテーマを設定して研究を進めていく。</p> <p>【概要】映像文学という視点に立って、各人が、興味のある英米文学作品に関連した映画、外国文化等に関連した映画のなかで、テーマを設定して研究を進めていく。 *卒業研究論文は日本語で作成してもよい。この場合、350語程度の英語の要約(summary)を添付することとする。勿論、英語での作成が望ましい。</p> <p>【到達目標】各人のテーマで、「課題探求・解決能力」の集大成として、卒業研究論文を完成させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション(卒業論文とは何かの説明、卒業論文作成のスケジュール等の確認) 第2回 テーマの選定と絞り込みの指導(過去の事例の紹介) 第3回 図書館およびインターネット検索による文献収集の指導 第4回 テーマの確認、卒業論文の書き方(論の展開の仕方)の指導 第5回 「はじめに」の書き方の指導 第6回 進行状況の確認(一部分の発表)とアドバイス(その一) 第7回 進行状況の確認(一部分の発表)とアドバイス(その二) 第8回 進行状況の確認(一部分の発表)とアドバイス(その三) 第9回 中間発表(その一) 第10回 中間発表(その二) 第11回 個別指導:提出論文の添削・推敲(その一) 第12回 個別指導:提出論文の添削・推敲(その二) 第13回 個別指導:提出論文の添削・推敲(その三) 第14回 提出前の最終指導(レイアウト、目次、参考文献などの確認、英語でSummaryを書くことの指導) 第15回 発表会(プレゼンテーション)用の配布資料作り		
成績評価の方法	卒業研究論文の提出物(80点)、プレゼンテーション(20点)		

授業科目	卒業研究	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学</p> <p>【概要】受講者は各自、英語学の分野から研究テーマを選び、授業でプレゼンテーションをしたり、個別指導を受けながら、卒業論文を作成する。</p> <p>【到達目標】卒業研究を完成させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス(卒業研究作成のスケジュールの確認、言語事実収集、参考文献の探し方の指導) 第2回 各自の研究テーマ発表とディスカッション(1) 第3回 各自の研究テーマ発表とディスカッション(2) 第4回 テーマ設定と内容について個別指導(1) 第5回 テーマ設定と内容について個別指導(2) 第6回 テーマ設定と内容について個別指導(3) 第7回 中間発表(1) 第8回 中間発表(2) 第9回 中間発表(3) 第10回 内容について個別指導(4) 第11回 内容について個別指導(5) 第12回 内容について個別指導(6) 第13回 卒業研究確定版の発表(1) 第14回 卒業研究確定版の発表(2) 第15回 卒業研究確定版の発表(3)		
成績評価の方法	授業への取り組み(40%) + 卒業研究(60%)		

授業科目	卒業研究	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 比較文学・比較文化研究の実践 【概要】 自らテーマを選び、比較文化演習で学んできた手法を生かして、卒業研究をおこなう方法を学ぶ。研究の進捗状況を定期的に発表し、お互いに講評し合いながら、書き直していく。なお、夏期休業中にあらかじめ卒業研究の元になるレポートを作成してもらう。 【到達目標】 卒業論文を作成する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書、2009）		
授業スケジュール	第 1回 各人の卒論テーマ発表 第 2回 資料の探し方 第 3回 資料の探し方 第 4回 中間発表1 第 5回 論文の構成1 第 6回 論文の構成2 第 7回 論文の構成3 第 8回 中間発表2 第 9回 論文の書き方1 第 10回 論文の書き方2 第 11回 論文の書き方3 第 12回 最終発表 第 13回 パワーポイントを使った発表の仕方1 第 14回 パワーポイントを使った発表の仕方2 第 15回 卒業研究発表会の練習		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度（20%），発表（30%），論文（50%）		

授業科目	卒業研究（アダメック）	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 アメリカとヨーロッパの文化と文学について 【概要】 本、インタビュー、インターネット等の方法を用いて、卒業論文を推敲、作成します。卒業発表会に向けての準備もします。 【到達目標】 英語で学術論文を書くことを教授し、情報の寄せ集めであるレポートと卒業論文の違いを明確にすることが目標です。このゼミでは卒業論文を「反対意見を持つ読者が存在する可能性もありうるが、厳選した事実に基づいたオリジナルの意見」と定義します。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	スケジュール: 第1週 授業紹介 第2～第15週 リサーチ、ライティング、校正演習		
成績評価の方法	授業への参加状況(60%)，授業内での発言(40%)。		

7 生活科学科共通科目

授業科目	生活科学概論	担当者	倉元 綾子・多々良 尊子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラン教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】 中学・高校における技術・家庭の学習内容をふまえ、さらに生活科学への展開を図る。生活科学の対象、目的、研究方法を学び、個人・家族の生活の現状と課題について理解を深める。前半は、生活の機能、生活にかかわる政策、世界の家政学、家政学・生活学の歴史などに焦点をあて、生活科学の基本を学ぶ。後半は、生活のしくみをどのようにとらえるのか、具体的な事例に基づいて解説する。それにより、生活全体をグローバルに俯瞰するだけでなく、逆に個人として見つめ、生活科学の構造を理解する。</p> <p>【到達目標】 生活科学とは何かを理解し、生活を科学的な視点で把握し、生活にかかわる課題に主体的に関与できるようにする。それにより、各自が生活科学科で勉学する意義を探究して欲しい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) ヴィンセンティ著、倉元綾子訳『アメリカ・ホーム・エコノミクス哲学の歴史』近代文芸社 ステイジ、ヴィンセンティ編著、倉元綾子監訳『家政学再考』近代文芸社 西村敬子、加藤祥子、早瀬和利『生活を科学する』開隆堂出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回～第2回 生活とは何か、私たちの生活はどうなっているか（個人・家族の生活の現状） 第3回～第4回 生活科学/家政学の対象、目的、体系・領域 第5回～第7回 生活科学/家政学の歴史（日本、アメリカ合衆国、世界）、生活科学/家政学の将来 第8回～第9回 生活の基本は人間関係から：家族で生活すること、地域・社会の一員であること 第10回～第11回 生活を環境としてとらえる：＜人体－衣服－住居－社会＞のつながりと相互作用 第12回～第13回 生活をデザインする：もののデザイン、生き方のデザイン、社会のデザイン 第14回 生活科学は社会的な課題にどのようにアプローチするか 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	倉元担当分（50%）、多々良担当分（50%）：レポートおよび授業時間内の課題による		

授業科目	生活経営学	担当者	倉元 綾子・多々良 尊子
	[履修年次] 食専専攻は2年、生活専攻は1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 食専専攻は選択、生活専攻必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活の質を高めるために、生活の実態と課題を把握し、主体的な生活経営力を身につける。</p> <p>【概要】 [第1回～第7回] 生活の価値・規範とは何かを考える。それに基づき、生活者自身の意思で、様々な生活資源を管理し、それぞれが思い描くライフスタイルを具体化し、社会参加していくプロセスを学ぶ。生活に必要なものやサービス、金銭、時間、人の能力やエネルギー、人間関係など様々な資源をマネージメント（経営）していく力を育成する。[第8回～第15回] 家族生活にかかわる課題について考える。個人・家族・地域社会においては様々な課題が生じている。その背景、問題点を明らかにするとともに、課題解決のために必要な知識とスキルを学ぶ。</p> <p>【到達目標】 就労による経済的な自立、健康で豊かな生活、多様な生き方や価値観が認められる社会を目指し、将来の生活像を描き、生き方を選択し、実現していくことを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント 神原文子・杉井潤子・竹田美知編著『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房、2,625円 (2) 日本家政学会生活経営部会『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 日本家政学会家政教育部会「家族生活支援の理論と実践」 その他、適宜指示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 生活の価値・規範とは何か 第2回 生活経営の主体、生活の単位、生活経営力とは何か 第3回 マネージメントするもの (1) 生活者自身の健康・知識・経験・生活技術など 第4回 マネージメントするもの (2) 人間関係、家族、親戚、友人、知人、地域 第5回 マネージメントするもの (3) ものやサービス、資産・収入、時間、情報 第6回 ワークライフバランス：働くこと、結婚すること、社会参加すること 第7回 自己実現のための生活設計 第8回 現代社会と個人・家族・地域社会の課題1 第9回 現代社会と個人・家族・地域社会の課題2 第10回 家族とは何か 第11回 ジェンダーと個人・家族・地域社会 第12回 子どもであること 第13回 夫になること、妻になること、親になること 第14回 高齢期の家族 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	倉元担当分（50%）、多々良担当分（50%）：レポートおよび授業時間内の課題による		

授業科目	社会福祉論	担当者	未定
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法			

(注) 栄養士必修, 教職必修

19 教職に関する科目

授業科目	教職入門	担当者	田口 康明
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教職の意義や役割について、実際上の学校におけるその職務内容や身分等を含めて理解し、あわせて児童生徒への進路選択の機会提供に資する教師の役割について考察する。</p> <p>【概要】本科目は、教員免許の取得に必要な科目であり、「教職の意義」について検討考察し、学校で働く教師の職務内容、すなわち教育活動とサービスの関係、研修や身分とその保障について扱う。また近年、学校教育と実社会の繋がりが着目され、その際重要となるキャリア教育についても扱う。講義を中心とするが、必要に応じて資料に関連した文献、記事、VTR等を取り入れる。</p> <p>【到達目標】「教職とは何か」という点についての理解につぎが、教職の意義および教員の役割、教員の職務内容(研修、サービス及び身分保障等を含む)に関する知識を習得すること。子どもたちの進路選択と教職の関係を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 古橋和夫編『教職入門—未来の教師に向けて』萌文書林</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 教育職員免許法における本科目の位置づけなど</p> <p>第2回 教える・教えられる関係の変遷1 古代のソクラテスの対話法や中世の徒弟訓練の親方について</p> <p>第3回 教える・教えられる関係の変遷2 江戸時代の寺子屋の師匠や産業革命期のヨーロッパで発生した近代学校の教師</p> <p>第4回 教える・教えられる関係の変遷3 教職の位置づけについて、戦前の教師聖職論から戦後の専門職論へ</p> <p>第5回 現代学校における教師の役割と仕事1 学校における教員の日常と職務内容</p> <p>第6回 現代学校における教師の役割と仕事2 学級経営・生徒指導・進路指導・教育相談</p> <p>第7回 現代の教師の身分と地位1 教員養成制度と研修制度</p> <p>第8回 現代の教師の身分と地位2 教員のサービス・身分と公務員制度</p> <p>第9回 学校における分業制の理解 学校種と少教職種、校内分業体制と校務分掌、教職の全体性</p> <p>第10回 学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割1 いじめ・不登校への地域と連携した対応、学校を取り巻く社会での連携、自然体験</p> <p>第11回 学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割2 進路選択とキャリア教育、社会体験のコーディネーターとしての役割、職業観の涵養</p> <p>第12回 教師の資質をめぐる動き1 戦後の教員政策の変遷</p> <p>第13回 教師の資質をめぐる動き2 教員評価・不適格教員・心の健康</p> <p>第14回 これからの教師に求められるものは何か 生涯学習社会における教師の成長の意義</p> <p>第15回 まとめ・試験</p>		
成績評価の方法	授業中のミニ・レポート(3回程度)30%、筆記試験70%		

授業科目	教育原理	担当者	田口 康明
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> <p>【概要】教員になるために必要な教育学の知識として、最低限心得ておくべき教育学の理論を踏まえつつ、実際の教育を分析的に見る目を養うことがねらいである。主として学校教育を中心に考察する。教育の目標・意義・思想・歴史に関する広汎かつ基礎的な知識理解の習得を目指す。具体的には、現代の学校教育を支える近代公教育史及びその思想の理解である。最新の教育実践の紹介など、今日のトピック・情報を数多く取り入れて講義を進める予定である。</p> <p>【到達目標】教育の理念や歴史に関する基礎的な知識理解の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『教育原理 八訂版』, 教師養成研究会, 学芸図書, 2003年</p> <p>(2) 参考文献随時紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス この科目の位置づけと目的</p> <p>第2回 教育とは何か その目的と機能に関する教育思想の理解</p> <p>第3回 現代の学校と教育課題 今日の学校教育を取り巻く「問題行動」について理解する</p> <p>第4回 近代公教育思想1 ジョン・ロックとルソーの人間観・教育思想について理解する</p> <p>第5回 西洋での学校の出現 中世から近代にかけて誕生した学校や大学について理解する</p> <p>第6回 近代公教育思想2 ペスタロッチとヘルバルトの教育思想について理解する</p> <p>第7回 日本における学校の成立 明治5年の学制の意義と社会的に果たした役割について理解する</p> <p>第8回 近代公教育思想3 日本の教育の原型を創った森有礼と師範教育について理解する</p> <p>第9回 日本における学校教育の展開 大正期から昭和初期にかけての学校教育運動の発生とその結末について理解する</p> <p>第10回 戦後日本の教育改革 戦後日本の学校教育の原型となった教育改革について理解する</p> <p>第11回 戦後日本のカリキュラムの改革史 学習指導要領の変遷とその重点の変化について理解する</p> <p>第12回 日本の1950年代～80年代の教育改革 中央教育審議会・臨時教育審議会による教育改革について理解する</p> <p>第13回 世界の教育改革 1950年代～70年代の各国の教育改革について理解する</p> <p>第14回 新しい学力観とPISA 「生きる力」の概念や世界標準の学力について考察する</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験と小レポート(8:2程度の比率)で評価する。		

授業科目	教育心理学	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 教育活動を行ううえで必要となる知識（理論や概念）を提供する科目として教育心理学がある。本講義では、教育心理学の主要テーマである「学習」、「発達」、「評価」、「性格」の4つについて学ぶ。 適切な教育活動を行うには、学習に関する理論や概念を知る必要がある。また、教育の対象である子どもの発達過程や年齢に応じた心理的特性を知っておく必要がある。さらに、知識の習得だけでなく、その知識を教育活動にどのように活かしていくかを考えることを意識できるようにする。</p> <p>【到達目標】 ①教育心理学に関する知識（概念・理論）の習得 ②教育心理学の観点から教育活動を考える意識を持つ。 ③知識を応用するという意識を高める</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・教育心理学とは？ 第2回 学習①：学習理論 第3回 学習②：動機づけ 第4回 学習③：学習指導法 第5回 学習④：記憶のメカニズム 第6回 学習⑤：効果的な学習法 第7回 発達①：発達理論①（エリクソンの心理社会的発達理論） 第8回 発達②：発達理論②（ピアジェの認知発達理論） 第9回 発達③：乳幼児期の発達の特徴 第10回 発達④：児童期、青年期の発達の特徴 第11回 評価①：教育評価 第12回 評価②：知能検査 第13回 性格①：パーソナリティ理論 第14回 性格②：パーソナリティ検査 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	毎講義ごとの感想・質問などのミニレポート提出：40%、筆記試験：60%		

(注) 中学校教諭2種免許

授業科目	教育行政学概論	担当者	岩橋 法雄
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期集中 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本の教育の行政・制度 【概要】日本の教育の管理運営は、誰(Who)が、誰(Whom)を、どのようなルール(which principles)で、行われているのか？その仕組みと今後考えるべき課題を、歴史的かつ比較的に考察していく。「誰が」は直接的には教育行政機関（文部科学省、教育委員会）であるが、まずは教育委員会の委員長と教育長の違いから説き起こそう。それは、教育委員会の理念の解釈をすることとなるからである。「誰を」は学校教育だけではないのだが当面は学校を中核に説き起こし、子どもの権利条約の立場から考察する。「どのような・・・」は、案外みなさんに関心を持たれていないが、学校で学び、生活する私たちに密接に関係している＜教育の法律に関すること＞である。教育の様々な分野での法とその意味を歴史的に、そして構造的に概観する。</p> <p>【到達目標】日本の教育行政・制度、公教育経営の基本的な事項について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 仙波克也・楠達夫編『現代教育法制の構造と課題』（コレール社刊） (2) 授業中に随時指示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「教育行政」の歴史的成立とその基本的性格 ・ゲルマン型とアングロ・サクソン型（Administration と Governance）の相違と特質 第2回 学校、選ばれる学校とそうでない学校（unpopular と popular）の相克。教育の制度と管理運営。 第4回 戦後日本の教育行政の基本原則、その歴史的変遷 ・1945年教育基本法の「教育行政」観、教育委員会委員長と教育長（レイマン・コントロールの意味）、教育委員会の役割 第5回 新教育基本法の「教育行政」観。日本の教育行政機関・文部科学大臣・文部科学省、教育委員会（教育委員会の構成と権限） 第6回 教育関連諸法規の概要 第7回 教師と法 ・公務員としての教師は、何ができて何ができないか？（身分上の問題）、対生徒の関係において、何ができて何ができないか？（①体罰になること、ならないこと、②校長の権限、教諭の権限） 第8回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業中に課すレポート並びに最終試験によって評価する		

(注) 7.5回

授業科目	教育課程論	担当者	吉田 尚史
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期集中 [必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育課程(カリキュラム) の定義・歴史・現状・課題。現在の学習指導要領との関連。</p> <p>【概要】本来、教育課程(カリキュラム) は、各学校毎に作成されるものであるが、日本には、その教育課程の基準である学習指導要領が存在し各学校種に応じて規定されている。そうした教育課程(カリキュラム) の基本概念及び編成方法、歴史と現状、課題について概説する。また、子どもの学習を促進するカリキュラムづくりのあり方について受講生とともに検討し、学習指導要領を踏まえた教育課程を編成する方法と力量を形成する。</p> <p>【到達目標】教育課程(カリキュラム) の定義、歴史、現状、課題に関する基礎的認識・概念の習得。2年次の実習に向けて各学校のカリキュラムのねらいと内容を適切に理解する能力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大杉須英編『中学校学習指導要領(平成20年版) 全文と改訂のピンポイント解説』明治図書出版</p> <p>(2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 教育課程(カリキュラム) とは何か 教育課程の基本概念や教育課程の編成方法・形式について理解する。</p> <p>第2回 学習指導要領と教育課程編成、教科書 学習指導要領と各学校の教育課程並びに教科書との関係を把握し、学習指導要領について理解を深める</p> <p>第3回 日本の教育課程行政(学習指導要領) 史 戦後の学習指導要領の編成について理解する</p> <p>第4回 現行の学習指導要領の解説(1) 平成20年の改訂について主に「総則」を理解する</p> <p>第5回 現行の学習指導要領の解説(2) 平成20年の改訂について主に各教科「国語」「英語」「家庭」を理解する</p> <p>第6回 教育目標と教材教具 教育目標と教材・教具の関連について理解し、優れた教材・教具を紹介する。</p> <p>第7回 まとめ 今後の教育課程のあり方を展望する。これまでの学習成果をまとめる 試験(試験期間内)</p>		
成績評価の方法	筆記試験70%、授業内の小テスト・課題30%		

(注) 7.5回 0.5回分は試験期間内の試験に充てる

授業科目	国語科教育法	担当者	岩本 晃代
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における国語科教育の意義を明らかにし、授業の構築方法について講義する。また、一部に実践授業を組み入れる。</p> <p>【概要】中学校学習指導要領の内容について説明する。それをもとに文部科学省検定教科書に掲載された国語科教材について具体的な指導例を紹介する。また、教材研究の方法、学習指導案の作成方法について講じ、模擬授業を行うことによって授業の作り方が具体的に理解できるようにする。</p> <p>【到達目標】中学校国語科教育の意義を理解し、教材研究および指導案の作成ができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『中学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省、大田勝司他編『国語科学習指導の研究』双文社出版、プリント。</p> <p>(2) 授業中、適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 授業とは何か</p> <p>第2回 中学校学習指導要領・国語編について</p> <p>第3回 国語科の目標と内容</p> <p>第4回 国語科学習指導の展開その1</p> <p>第5回 国語科学習指導の展開その2</p> <p>第6回 教材研究の方法その1</p> <p>第7回 教材研究の方法その2</p> <p>第8回 学習指導案の作成その1</p> <p>第9回 学習指導案の作成その2</p> <p>第10回 模擬授業その1</p> <p>第11回 模擬授業その2</p> <p>第12回 模擬授業その3</p> <p>第13回 模擬授業その4</p> <p>第14回 教育実習の心構え</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート(指導案を含む)100%		

授業科目	英語科教育法	担当者	久木田 美枝子
	〔履修年次〕1年 〔学期〕後期 〔単位〕2単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語教育の大変革期を迎え、現代の英語教育に必要とされる基礎知識と未来への展望を把握すると共に、科学的に分析し、各自が多文化共生社会での望ましい英語教師像をイメージできるようにする。</p> <p>【概要】日本における英語教育の変遷を把握し、世界の外国語教育、英語教育の指導理念、枝叩木教育の指導法の変遷、言語スキルの指導法、情報技能と指導、授業論などを概説し、現代の指導者に不可欠な国際理解教育についても考察する。実践面としては、ここ数年の東京都中学校英語教育研究会の動向を踏まえつつ、同研究会の研究公開授業などのビデオ等を参考に実習前の英語教育の基礎を習得する。</p> <p>【到達目標】教育実習前に、現代の英語教育の状況を把握することによって、英語教師としての資質向上に精進すると共に、自立的に、臨機応変に、授業を組み立てていくことをも目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 高梨康雄・高橋正夫著 『新・英語教育学概論』 金星堂 (2) 随時プリント、		
授業スケジュール	第1回 日本の英語教育の歴史の変遷 第2回 世界の英語教育、外国語教育の目的 第3回 指導理念を考えるモデル・ケース：小学校英語教育、広い視野からみる外国語学習の目標 第4回 指導法の変遷 第5回 現代の主な指導法、評価論 第6回 言語スキルと指導技術（リスニング、スピーキング） 第7回 言語スキルと指導技術（リーディング、ライティング、コミュニケーション・スキル） 第8回 国際理解教育 第9回 情報技能と指導 第10回 授業展開、学習指導案 第11回 授業研究、外国語学習者の心理 第12回 教師論、教育現場が実習生に求める資質・英語力 第13回 模擬授業 第14回 模擬授業 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業の発言内容（30%）、レポート（70%）で評価する。		

授業科目	家庭科教育法	担当者	長友 悠紀子
	〔履修年次〕1年 〔学期〕後期 〔単位〕2単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】家庭科教師に必要な基礎的知識および指導方法</p> <p>【概要】中学校における家庭科を指導するために必要な基礎的知識や指導方法を具体的に講義し授業実践力を身につけることをねらいとする。学習指導要領に示された目標、内容の取り扱いの解説を行う。また、学習指導計画の作成や学習指導案の書き方を具体的に指導する。</p> <p>【到達目標】家庭科教育の理念や問題を踏まえ、望ましい教師像を念頭に置き、実践しようとする人材の育成。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 佐藤文子・川上雅子 改訂版 『家庭科教育法』 高陵社書店 (2) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成20年10月) 解説一技術・家庭編一』		
授業スケジュール	第1回【家庭科教育法とは】家庭科教育法を学ぶにあたっての説明および家庭科教育の意義について 第2回【教科教育としての家庭科】家庭科教育の理念および目標について 第3回【家庭科教育を支える学問】家庭科教育と家政学、家庭科教育が育む力 第4～5回【家庭科の教師、家庭科の歴史】家庭科の教師に求められる要素、歴史の変遷と展望 第6回【小学校の家庭科】目標、内容、指導上の諸問題 第7～8回【中学校の技術・家庭科】家庭科の性格、目標、内容、指導上の諸問題 第9回【学習指導の計画】年間指導計画、領域、題材 第10回【学習指導案の作成】学習指導案の例、基本学習指導過程 第11回【学習指導法】学習指導の技術、指導の諸方式について 第12回【実験・実習指導の留意点】実験実習における基本的留意点について、教具・資料の活用 第13回【教育評価法】評価の目的、観点、評価法、記述法 第14回【家庭科指導の実際】家庭科の施設と設備および中学校における調理実習VTR視聴 第15回 まとめと後期定期試験		
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋レポート(学習指導案等10%)		

授業科目	道徳教育の研究	担当者	田口 康明
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業での指導</p> <p>【概要】2006年改正された教育基本法の中でも、「自律」や「規範意識」など、「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が、数多くの場面で強調されている。こうした現状について、一方的に指弾するのではなく、状況を相対化しながら今日の「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には、学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業の実際について検討する。さらに今日の意味での「道徳教育」に含まれる、消費者教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を学校教育全体を通して行うことの意義を検討する。</p> <p>【到達目標】道徳の授業が実際に行えるようその指導法の習得と、道徳教育に関する基礎的な知識理解を得ること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)『中学校学習指導要領解説 道徳編』 文部科学省 (2)随時、指示する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 授業のねらいと目標、道徳教育の歴史(道徳教育の経緯や特徴)について理解する 第2回 「道徳教育」とは何か、 道徳教育と道徳の時間の特徴、道徳教育の構造や役割について学ぶ 第3回 道徳の目標及び内容 一徳性や内容項目、現代社会と「道徳」の関係について理解する 第4回 「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画、年間計画等の必要性や内容について学ぶ 第5回 「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画、指導案作成など実際の指導法について学ぶ 第6回 評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ 第7回 新たな「道徳教育」の課題 まとめと法教育、シティズンシップ教育、環境教育、消費者教育など 第8回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度) 30%、試験 70%		

(注) 中学校教諭2種免許 7.5回

授業科目	道徳教育論	担当者	田口 康明
	[履修年次] 2年(栄養教諭課程履修者) [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業での指導</p> <p>【概要】2006年改正された教育基本法の中でも、「自律」や「規範意識」など、「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が、数多くの場面で強調されている。こうした現状について、一方的に指弾するのではなく、状況を相対化しながら今日の「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には、学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業の実際について検討する。さらに今日の意味での「道徳教育」に含まれる、消費者教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を学校教育全体を通して行うことの意義を検討する。</p> <p>【到達目標】道徳の授業が実際に行えるようその指導法の習得と、道徳教育に関する基礎的な知識理解を得ること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)『中学校学習指導要領解説 道徳編』 文部科学省 (2)随時、指示する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 授業のねらいと目標、道徳教育の歴史(道徳教育の経緯や特徴)について理解する 第2回 「道徳教育」とは何か、 道徳教育と道徳の時間の特徴、道徳教育の構造や役割について学ぶ 第3回 道徳の目標及び内容 一徳性や内容項目、現代社会と「道徳」の関係について理解する 第4回 「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画、年間計画等の必要性や内容について学ぶ 第5回 「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画、指導案作成など実際の指導法について学ぶ 第6回 評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ 第7回 新たな「道徳教育」の課題 まとめと法教育、シティズンシップ教育、環境教育、消費者教育など 第8回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度) 30%、試験 70%		

(注) 栄養教諭2種免許 7.5回

授業科目	特別活動の研究	担当者	田口 康明
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	入学式、全校朝礼、運動会などさまざまな「学校行事」、学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」、生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」、これらによって構成されるのが、「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が、諸外国の学校に比して、量的にも質的にも「充実」していることが、歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり、今日でもその占める位置は大きい。本講義では、学習指導要領等に記載された目標・内容、その歴史、国際比較、近年の動向などを取り上げて、特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて、受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが、随時グループ討議などを加えていきたい。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文科省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』		
授業スケジュール	第1回 ガイダンスー授業のねらいと目標 第2回 「特別活動」とは何か、 第3回 「学級活動」の目標と内容 第4回 「生徒会活動」の目標と内容 第5回 「学校行事」の目標と内容1 儀式的行事など 第6回 「学校行事」の目標と内容2 勤労生産・奉仕的行事など 第7回 「特別活動」の現代的な意義・まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度)および、最後のレポート等を総合して評価する。		

(注) 中学校教諭2種免許 7.5回

授業科目	特別活動論	担当者	田口 康明
	[履修年次] 2年(栄養教諭課程履修者) [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	入学式、全校朝礼、運動会などさまざまな「学校行事」、学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」、生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」、これらによって構成されるのが、「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が、諸外国の学校に比して、量的にも質的にも「充実」していることが、歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり、今日でもその占める位置は大きい。本講義では、学習指導要領等に記載された目標・内容、その歴史、国際比較、近年の動向などを取り上げて、特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて、受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが、随時グループ討議などを加えていきたい。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文科省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』		
授業スケジュール	第1回 ガイダンスー授業のねらいと目標 第2回 「特別活動」とは何か、 第3回 「学級活動」の目標と内容 第4回 「生徒会活動」の目標と内容 第5回 「学校行事」の目標と内容1 儀式的行事など 第6回 「学校行事」の目標と内容2 勤労生産・奉仕的行事など 第7回 「特別活動」の現代的な意義・まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度)および、最後のレポート等を総合して評価する。		

(注) 栄養教諭2種免許 7.5回

授業科目	教育方法学概論	担当者	吉田 尚史
	[履修年次] 1年 [学期] 後期集中 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育方法と教師の指導技術を中心に教育方法論の基本的事項と授業づくりの基礎的技法を学ぶ。</p> <p>【概要】授業について代表的な思想や優れた教師の実践を学ぶことを通して、授業に対する考えや教育の方法・技術に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】授業や教育の方法・技術について、「教える」という立場から、分析したり、考えたりすることができる。先輩教師の授業実践から、授業の世界の複雑さや奥深さを捉えることができる。自分なりに「よい授業」に対する考え(授業や教育に対する哲学)を深め、それを指導案や教材・教具・発問等の指導技術に具体化することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)特に定めない。資料を配付する。</p> <p>(2)日本教育方法学会編『リテラシーと授業改善—PISAを契機とした現代リテラシー教育の探究』図書文化社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業とは何か 近代以前、近代以降の授業の様子を歴史的に考察する</p> <p>第2回 授業を創る(1) 具体的な教材と教育内容、教育目標の関係を理解する</p> <p>第3回 授業を創る(2) 授業のプロセスを構想し、教授行為と学習形態・学習方法について検討する</p> <p>第4回 授業を創る(3) 教育の環境づくりとメディア・教育機器の活用、授業の評価の方法について理解する</p> <p>第5回 授業の技術 ベテラン教員の実践事例に学ぶ</p> <p>第6回 教科書のない授業 総合的な学習の時間の指導法について理解する</p> <p>第7回 まとめ 授業の世界の複雑さと教師という仕事の特異性について理解する 試験(試験期間内)</p>		
成績評価の方法	筆記試験 70%, 授業内の小テスト・課題 30%		

(注) 7.5回 0.5回分は試験期間内の試験に充てる

授業科目	教育相談	担当者	石川 満佐育
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており、いじめ、不登校、暴力行為をはじめとした問題行動、児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では、教師という立場から援助者として生徒に関わるうえで必要となる知識やスキル等を、「カウンセリング心理学」、「発達臨床心理学」、「学校心理学」の観点から学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①教育相談について学校現場で必要な知識を習得する。 ②相手と状況に応じて、どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・教育相談とは?</p> <p>第2回 教育相談の必要性と重要性</p> <p>第3回 教育相談の基本的な考え方</p> <p>第4回 校内支援体制①:役割について</p> <p>第5回 校内支援体制②:連携について</p> <p>第6回 生徒理解の方法①:アセスメントについて</p> <p>第7回 生徒理解の方法②:アセスメントの実際</p> <p>第8回 教師に求められるカウンセリング理論</p> <p>第9回 教師が行うカウンセリング技法Ⅰ</p> <p>第10回 教師が行うカウンセリング技法Ⅱ</p> <p>第11回 心理教育プログラム</p> <p>第12回 教育相談の実際①:不登校のケース</p> <p>第13回 教育相談の実際②:いじめのケース</p> <p>第14回 教育相談の実際③:発達障害のケース</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	毎講義ごとの感想・質問などのミニレポート提出:40%, 試験あるいはレポートで評価:60%		

(注) 中学教諭2種免許

授業科目	生徒指導論	担当者	石川 満佐育
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており、いじめ、不登校、暴力行為をはじめとした問題行動、児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では、不適応を起こしている生徒、支援が必要な生徒の実態を理解し、そうした生徒への対応を考えられるようになるための基礎知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①生徒指導上の「問題」の背景を多面的、多角的に理解する。 ②相手と状況に応じて、どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・生徒指導とは？ 第2回 学校心理学的アプローチ 第3回 教師と児童生徒の関係 第4回 児童生徒の仲間関係 第5回 児童生徒における諸問題①：不登校 第6回 児童生徒における諸問題②：いじめ・暴力 第7回 児童生徒における諸問題③：学校ストレス 第8回 特別支援教育 第9回 支援を必要とする子どもたち①：発達障害 第10回 支援を必要とする子どもたち②：発達障害 第11回 支援を必要とする子どもたち①：精神疾患 第12回 支援を必要とする子どもたち②：精神疾患 第13回 進路指導について① 第14回 進路指導について② 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	毎講義ごとの感想・質問などのミニレポート提出：40%、筆記試験：60%		

(注) 中学校教諭2種免許

授業科目	生徒指導原論	担当者	石川 満佐育
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており、いじめ、不登校、暴力行為をはじめとした問題行動、児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では、不適応を起こしている生徒、支援が必要な生徒の実態を理解し、そうした生徒への対応を考えられるようになるための基礎知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①生徒指導上の「問題」の背景を多面的、多角的に理解する。 ②相手と状況に応じて、どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・生徒指導とは？ (学校心理学的アプローチ) 第2回 教師と生徒との関係・教師と児童生徒の関係 第3回 児童生徒における諸問題①：不登校・いじめ・暴力 第4回 特別支援教育 第5回 支援を必要とする子どもたち①：発達障害 第6回 支援を必要とする子どもたち②：精神疾患 第7回 進路指導について 第8回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	毎講義ごとの感想・質問などのミニレポート提出：40%、筆記試験：60%		

(注) 栄養教諭2種免許 7.5回

授業科目	教職実践演習（中学校教諭）	担当者	田口 康明・石川 満佐育・岩本 晃代・久木田 美枝子 未定
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、教師になるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。</p> <p>②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、規律ある学級経営を適切に行うことができる。</p> <p>④学習指導の基本事項を身に付けており、子どもの状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>短大の2年間で学んだ教職に関する知識と、教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際、使命感や責任感、教育的な愛情など、教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。すべての回について、教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は教科に関する教員が中心になって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。</p> <p>(2) 学習指導案資料など適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明、履修カルテの活用の説明を行う。</p> <p>第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。</p> <p>第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。</p> <p>第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。</p> <p>第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。</p> <p>第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている、子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。</p> <p>第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。</p> <p>第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。</p> <p>第9回：[学校見学] (11月中旬を予定。ただし、この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。) 教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。</p> <p>第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察</p> <p>第11回：[模擬授業(1)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。</p> <p>第12回：[模擬授業(2)] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。</p> <p>第13回：[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。</p> <p>第14回：[グループ討論(4)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科等の指導の重点について討論活動を行い、授業計画や学習形態の工夫を定着させる。</p> <p>第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する</p>		
成績評価の方法	<p>学生に対する評価：授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。</p>		

授業科目	教職実践演習（栄養教諭）	担当者	町田 和恵・木場 幸子・田口 康明・石川 満佐育
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、栄養教諭となるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。</p> <p>②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、学級の状況に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。</p> <p>④食育の指導の基本事項を身に付けて、児童生徒の状況に応じて、学習活動、体験活動等を工夫することができる。</p> <p>【概要】 短大の2年間で学んだ栄養管理並びに教職に関する知識と、教育実習などで獲得した給食管理と食育指導などの実践体験を統合する。その際、使命感や責任感、教育的な愛情など、栄養教諭として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。すべての回について、教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領』, 文部科学省 (2007) 『食に関する指導の手引』 (いずれも東山書房)</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回: [ガイダンス]プログラムの説明, 資料の配布, 課題の提示, 各授業の到達目標の提示, 学習計画の提示・説明。</p> <p>第2回: [イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り, グループ討論, 履修カルテを使った自己評価活動を行う。</p> <p>第3回: [ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。</p> <p>第4回: [ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。</p> <p>第5回: [グループ討論 (1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導, 特別支援教育の基本理念について, グループ討論を行う。</p> <p>第6回: [教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎, 生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。</p> <p>第7回: [振り返り]講演についてのグループ討論, これまでの学修に関する小レポートの作成, 履修カルテを活用した教員との面談を行う。</p> <p>第8回: [グループ討論 (2)]居場所づくりを意識した生徒理解, 多様化に応じた学級づくりについて, グループ討論を行う。</p> <p>第9回: [学校見学] (学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。時間は8:20~12:50までを予定している。</p> <p>第10回: [グループ討論 (3)]学校見学についての省察を行う。</p> <p>第11回: [模擬授業 (1)]教室の場面を想定した食育の指導に関する実践的な指導力を身につける。</p> <p>第12回: [模擬授業 (2)] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。</p> <p>第13回: [模擬授業 (3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。</p> <p>第14回: [グループ討論 (4)] 給食の時間における食に関する指導の重点について, 模擬授業や討論活動を行い, 学習形態の工夫を定着させる。</p> <p>第15回: [レポートの作成と発表] テーマ「これからの栄養教諭に求められること」を発表。</p>		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート, ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教育実習（事前・事後指導を含む）	担当者	田口 康明
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 5単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実習・講義方式		
テーマ及び概要	教育実習は、教員免許状を取得するための必修科目であり、単なる体験ではなく、大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用、実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は、「目の前」に生徒のいない学習であったが、実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や、先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい、という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ、教育への愛着、生徒たちとの相互理解があつてこそ、はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では、教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し、実習に臨み、実習後は、実習体験から得られた多くの事柄を定着させ、社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2) 学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし、適宜講義を加える。 第1回 教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性 第2回 教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。 第3回 模擬授業（1）、卒業生教員の体験談を聞く 第4回 模擬授業（2）、同和教育について 第5回 模擬授業（3）、教科指導及び生徒指導の方法 第6回 教育実習に関わる実務について 第7回 教育実習の反省と総括、採用試験に向けて 教育実習：中学校という教育現場の協力を得て3週間の実習活動を行う。		
成績評価の方法	実習先の評価、実習日誌、事前事後の提出物等ポートフォリオ的な評価に心掛ける。さらには参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上、遅刻、欠席は原則として一切認めない。		

(注) 中学校教諭2種免許

授業科目	栄養教育実習	担当者	町田 和恵
		〔履修年次〕 2年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 前期集中 〔必修/選択〕 必修 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 教育現場において求められている栄養教育実践力</p> <p>【概要】 栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、学校給食を生きた教材として有効に活用することなどによって、子どもに正しい食習慣を身につけさせる指導と、給食の栄養や衛生の管理を柱とした職務内容を学習することを目的とし、実践の教育現場での授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的に学習する。主に県内の小、中学校、給食センターで、1週間の実習を行う。</p> <p>【到達目標】 学校教育全般の組織・運営を理解し、栄養教諭職務の全体像を把握する。また、栄養教諭としての基礎的能力の修得をめざし、作成した学習指導案に基づいて授業を行い、食に関する実践的な指導力を身につけるとともに、児童・生徒の理解、定着度を評価する力を培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省「食生活学習教材」</p>		
授業スケジュール	<p>各施設により異なる</p> <ol style="list-style-type: none"> 指導教諭等からの説明 <ul style="list-style-type: none"> 学校経営 校務分掌の理解 サービス等 児童及び生徒への個別相談、指導の実習 <ul style="list-style-type: none"> 指導、相談の場の参観、補助等 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習 <ul style="list-style-type: none"> 学級活動及び給食の時間における指導の参観、補助 教科等における教科担任等と連携した指導の参観、補助 給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観、補助 児童生徒会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観、補助 指導計画案、指導案の立案作成、教材研究等 食に関する指導の連携・調整の実習 <ul style="list-style-type: none"> 校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、校内研修等）の参観、補助 家庭・地域との連携・調整の参観、補助等 学校給食の管理を一体的に担う方法 		
成績評価の方法	実習先評価 (60%) , 実習ノート・参加態度等 (40%) によって総合的に評価する。		

(注) 栄養教諭2種免許

授業科目	栄養教育実習の事前事後の指導	担当者	町田 和恵
		〔履修年次〕 2年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 必修 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】 栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために、栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実をはかることを目的として、実習の事前事後の指導を行う。事前指導の内容は、栄養教育実習の意義、目的や実習校での参観・参加・授業実習、学習指導案の説明と作成などである。また、事後指導では各実習生の報告をもとに必要な指導を行う。</p> <p>【到達目標】 本授業では、教育実習に参加する基本的な心構えや技能、及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 山本公弘『気がするにできる総合学習・体験学習—新しい栄養指導3』東山書房 文部科学省「食生活学習教材」</p>		
授業スケジュール	<p>事前指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回 栄養教育実習のオリエンテーション 意義や目的、心構えなど 第2回 実習の評価の方法、実習後の提出物（実習ノート、学習指導案など）、実習中の短大との連絡方法などの指導 第3回 指導計画案、指導案の立案作成、教材研究 第4回 模擬授業の実施（1） 班に分かれて授業をする 第5回 模擬授業の実施（2） 班に分かれて授業をする <p>事後指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 第6回 栄養教育実習の報告・発表（1） 教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化 第7回 栄養教育実習の報告・発表（2） 教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化 第8回 相互評価、実習の反省、問題点の整理 今後の課題の明確化 		
成績評価の方法	発表・提出物 (80%) , 取り組み態度 (20%) を総合的に評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる		

(注) 栄養教諭2種免許 ※7.5回